

授 業 概 要

科目名	人間の尊厳と自立	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	服部有里		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1 年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
「人間の尊厳」とは何か、「自立」とは何かを理解することで、介護福祉職として行なっていきたいこととそうでないことがわかり、介護現場の実践につなげることができる。また、「人間の尊厳」や「自立」について規定した法律について整理することができる。									
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）									
介護療養型医療施設、特別養護老人ホーム、訪問介護の現場に携わった者が、現場の実際の声を活用し、講義形式での知識の伝達だけでなく、グループワークやディスカッションを通じて学生が主体的に学べるように工夫する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新 介護福祉士養成講座 1 「人間の理解」 第2版 中央法規出版					学習した授業範囲をテキストを使い復習しましょう。また関連する他の科目の授業内容の復習をしておくとう理解が深まると思います。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション				9	【授業単元】 人権について考える～人権の尊重と権利擁護～			
	【到達目標】 自己紹介、本科目の内容と進め方、目標、評価方法を知る。介護福祉職としての倫理を確認する。					【到達目標】 基本的人権について整理することができる。人権尊重のために介護福祉士に求められることを理解することができる。			
2	【授業単元】 人間を理解すること				10	【授業単元】 ノーマライゼーション/ソーシャルインクルージョン/QOL			
	【到達目標】 自分や他者を知る。「人間を理解する」とはどのようなことか説明することができる。					【到達目標】 ノーマライゼーション/ソーシャルインクルージョン/QOLそれぞれの意味を理解し説明することができる。			
3	【授業単元】 人間の尊厳という理念/利用者主体				11	【授業単元】 「自立」の概念～「自立」「自律」とは何か～			
	【到達目標】 人間の尊厳とはどのような理念なのかがわかる。利用者主体とは何か、なぜ必要なのかを理解することができる。					【到達目標】 意欲・動機づけ/自己選択・決定/依存から自立・自律を考える。			
4	【授業単元】 人権についてを考える～人権侵害①～				12	【授業単元】 介護を必要とする人の自立と自立支援			
	【到達目標】 虐待について理解し、これらのことから人権についてを考えることができる。					【到達目標】 「介護を必要とする人にとっての自立とは何か」「どのような視点を持って自立支援を行うのか」説明することができる。			
5	【授業単元】 人権についてを考える～人権侵害②～				13	【授業単元】 介護を必要とする人の尊厳の保持と自立、自立支援の関係性			
	【到達目標】 身体拘束について理解し、これらのことから人権についてを考えることができる。					【到達目標】 介護を必要とする人の尊厳の保持と自立、自立支援の関係性を理解することができる。			
6	【授業単元】 人権について考える～世界の歴史～				14	【授業単元】 学習の振り返り、まとめ			
	権利擁護の視点 尊厳や人権に関わる出来事や人物を理解することができる。					【到達目標】 今まで学習してきたことをもとに事例を通して、人間の尊厳と自立についての課題を検討し学習内容のまとめをする。			
7	【授業単元】 人権について考える～日本の法律～				15	【授業単元】 期末試験			
	【到達目標】 日本国憲法をはじめ様々な法律に示されている人間の尊厳について知ることができる。					【到達目標】 学習内容の総まとめ。自分自身で振り返ることができる。			
8	【授業単元】 中間テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト（8回目授業で実施）は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ①～⑦までを振り返り、自分自身の理解度を確認する。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
一緒に考え、一緒に学びましょう。									

授 業 概 要

科目名	人間関係とコミュニケーションⅠ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	小野寺 祐		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
人との関わりにおいて、相手の立場や感情、生活背景を理解し、尊重する姿勢を身につけるとともに、信頼関係を形成するために必要なコミュニケーションの基礎を理解し、適切な関わりを行うことができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
介護現場での長年の実務経験と研修講師経験を有する教員が担当し、体験学習や演習を中心に授業を行う。思い込みや感覚・身体機能の制限を疑似体験する活動を通して利用者の立場や不安を理解し、傾聴や共感など安心できる関係づくりの基礎を学び、実習や現場で活かせる関わり方を身につける。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
学校指定教科書、配布資料(プリント)、演習用教材(卵、アイマスク、イヤーマフ等)					授業内容を振り返り、日常生活や実習の場面で相手の立場を考えた関わりを意識し、配布資料を用いて復習する。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 卵は立つ体験			9	【授業単元】 安心できる関係づくりの基本				
	【到達目標】 思い込みや先入観によって物事を判断してしまうことがあることを体験を通して知り、相手を決めつけずに関わることの重要性を理解することができる。				【到達目標】 利用者との関わりにおいて安心できる雰囲気や配慮ある態度が重要であることを理解し、基本的な関係づくりの姿勢を理解することができる。				
2	【授業単元】 アイマスク歩行体験(視覚制限)			10	【授業単元】 傾聴の基本				
	【到達目標】 視覚情報が得られない状況における不安や行動の困難さを体験し、支援を受ける立場の気持ちを理解するとともに、安心につながる関わりの必要性を理解することができる。				【到達目標】 相手の話を遮らずに最後まで聞くことが信頼関係の形成につながることを理解し、傾聴の基本的な関わり方を理解することができる。				
3	【授業単元】 言葉なし誘導体験(非言語コミュニケーション)			11	【授業単元】 共感的関わりの基本				
	【到達目標】 言葉を使わない状況でも意思を伝える方法があることを体験を通して知り、表情・姿勢・動作など非言語的コミュニケーションの重要性を理解することができる。				【到達目標】 相手の気持ちを受け止めて寄り添う関わりが安心感につながることを理解し、共感的な関わりの基本を理解することができる。				
4	【授業単元】 利き手使用制限体験(身体制限)			12	【授業単元】 チームにおける情報共有の基本				
	【到達目標】 利き手が使えない状況で生じる生活上の困難さや不便さを体験し、利用者の不安や負担を理解するとともに、配慮ある関わりの必要性を理解することができる。				【到達目標】 介護はチームで支えるものであることを理解し、報告・連絡・相談および情報共有の重要性を理解することができる。				
5	【授業単元】 聴覚制限体験(聞こえにくさ・雑音環境)			13	【授業単元】 組織とチームケアの理解				
	【到達目標】 聞こえにくい状況での不安や誤解が生じやすいことを体験し、伝え方の工夫(ゆっくり話す、確認する等)の必要性を理解することができる。				【到達目標】 介護サービスは組織およびチームで提供されていることを理解し、役割分担と協力による支援の重要性を理解することができる。				
6	【授業単元】 声かけ比較体験(冷たい声かけ／安心の声かけ)			14	【授業単元】 人材育成とチームでの成長				
	【到達目標】 同じ支援内容でも声かけの方法によって安心感や受け止め方が大きく変化することを体験し、相手の気持ちに配慮した関わりの重要性を理解することができる。				【到達目標】 職員同士が学び合い支え合うことで支援の質が向上することを理解し、チームの一員として成長していく意識を持つことができる。				
7	【授業単元】 前半の学習内容の振り返りおよび中間試験			15	【授業単元】 学習内容の総合振り返りおよび定期試験				
	【到達目標】 これまでの体験学習を振り返り、関わり方や環境によって生じる不安や安心の違いを整理して理解するとともに、相手の立場を尊重した関わりの重要性を確認し、中間試験を通して前半の学習内容の理解を深めることができる。				【到達目標】 これまでの授業で学習した人間関係の形成およびコミュニケーションの基本について振り返り、安心できる関わりやチームでの情報共有の重要性を整理して理解するとともに、定期試験を通して学習内容の理解を確認することができる。				
8	【授業単元】 良い関わりの基本(安心できる関係づくり)			【成績評価の方法と基準】					
	【到達目標】 安心できる関係づくりには相手への配慮が必要であることを理解し、良い関わりの基本(声かけ、目線、待つ等)を知ることができる。			科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
【履修に当たっての心構え・留意点】									
体験学習や演習に積極的に参加し、相手の立場や気持ちを尊重する姿勢で学ぶことを大切にする。また、授業で学んだ内容を日常生活や実習に活かす意識を持って履修する。									

授 業 概 要

科目名	地域共生学Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	松沢 愛子		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
地域共生社会、地域包括ケアシステムについて知り、理解につなげることができる。 地域共生社会の実現のための制度や施策について知り、理解につなげることができる。 地域共生社会について個人の枠の中で、まずは自分の言葉で解釈し、理解したものを表現して他者へ伝えることができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
複合施設を運営する法人として、高齢者・障がい者・子どもなど多様な方への支援に加え、地域に根差し共にまちづくりを考えるソーシャルワーカーとして、施設と地域の関係を深めることが重要だと感じている。実際に「自身」と「地域」の関係性を感じ、将来実現できるよう、考える時間や話し合う時間を多く設ける授業としていく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
①地域共生社会のポータルサイト ②地域包括ケアシステムー厚生労働省 ③地域包括ケアシステムから地域共生社会へ ④SDGsえどがわ10の行動					地域共生社会の視点を学内やクラス内で適用できるように意識すること。 自分だけでなく他者を意識して相互理解することを心がけてほしい。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション	【到達目標】 地域共生学Ⅰの進め方を知ることができる(単位、科目評価について) 導入～地域と自分について考える			9	【授業単元】 「地域包括ケアシステム」の概要について知る	【到達目標】 「地域包括ケアシステム」の5つの構成要素について知ることができる。 「地域包括ケアシステム」について知ったことを表現できる		
2	【授業単元】 「まち」を自分事として捉える①	【到達目標】 自分が、地域の人が住みやすい理想の「まち」について考える			10	【授業単元】 地域共生と施設の関係性を学ぶ ～デイサービス～	【到達目標】 地域共生社会を体現するひとから実際に聞き、質問を通じて理解を深めることができる 事例を通して地域で自分らしく生活することの意義について考える		
3	【授業単元】 「まち」を自分事として捉える②	【到達目標】 理想の「まち」を作るために何が必要か考える			11	【授業単元】 地域共生と施設の関係性を学ぶ ～訪問介護～	【到達目標】 地域共生社会を体現するひとから実際に聞き、質問を通じて理解を深めることができる 事例を通して地域で自分らしく生活することの意義について考える		
4	【授業単元】 「まち」を自分事として捉える③	【到達目標】 グループワークから学んだことをまとめ、発表し合う			12	【授業単元】 地域共生と施設の関係性を学ぶ ～居宅介護支援事業所～	【到達目標】 地域共生社会を体現するひとから実際に聞き、質問を通じて理解を深めることができる 事例を通して地域で自分らしく生活することの意義について考える		
5	【授業単元】 地域共生社会を理解する①～インプット～	【到達目標】 “地域”という言葉について知り、理解をすることができる。 “地域”を知って、考えるワークを通じて理解を深めることができる。			13	【授業単元】 地域包括支援センターの実際を知り、考える②	【到達目標】 実際の事例を基に“自助・互助・共助・公助”について考える		
6	【授業単元】 地域共生社会を理解する②～インプット～	【到達目標】 “共生”という言葉について知り、理解をすることができる。 “共生”を知って、考えるワークを通じて理解を深めることができる。			14	【授業単元】 前期まとめ・発表準備	【到達目標】 地域包括ケアシステムの意味を理解し、説明できる 地域の中で生活する高齢者をイメージできる		
7	【授業単元】 地域共生社会を理解する③～インプット～	【到達目標】 地域共生社会について知ることができる 地域共生社会の実例を基に見識を深めることができる			15	【授業単元】 定期試験	【到達目標】 PowerPointでの発表を開き、質問を行い、互いを評価し合うことができる ふりかえりと総評		
8	【授業単元】 中テスト・解説	【到達目標】 地域共生について他者に説明することができ、自分なりの考えを持つことができる ふりかえりと総評			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。 定期試験はパワーポイントを使用した発表スタイルとし、事前に明示した採点表を元に講師が採点をする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・自分が感じたこと、頭の中にある考えを表現、アウトプットする力をつけること。 ・制度や概念、考え方を自分の言葉で言い換えることができるようになること。									

授業概要

科目名	地域共生学Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	松沢 愛子		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
地域共生社会、地域包括ケアシステムについて知り、理解につなげることができる。 地域共生社会の実現のための制度や施策について知り、理解につなげることができる。 地域共生社会について個人の枠の中で、まずは自分の言葉で解釈し、理解したものを表現して他者へ伝えることができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
複合施設を運営する法人として、高齢者・障がい者・子どもなど多様な方への支援に加え、地域に根差し共にまちづくりを考えるソーシャルワーカーとして、施設と地域の関係を深めることが重要だと感じている。実際に「自身」と「地域」の関係性を感じ、将来体现できるよう、考える時間や話し合う時間を多く設ける授業としていく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
①地域共生社会のポータルサイト ②地域包括ケアシステムー厚生労働省 ③地域包括ケアシステムから地域共生社会へ ④SDGsえどがわ10の行動					地域共生社会の視点を学内やクラス内で適用できるように意識すること。 自分だけでなく他者を意識して相互理解することを心がけてほしい。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 地域包括支援センターの実際を知り、考える①				9	【授業単元】 地域共生と施設の関係性を学ぶ ～障がい\生活介護～			
	【到達目標】 地域包括支援センターの役割を理解する					【到達目標】 地域共生社会を体现するひとから実際に聞き、質問を通じて理解を深めることができる 事例を通して地域で自分らしく生活することの意義について考える			
2	【授業単元】 地域共生と施設の関係性を学ぶ ～老人ホーム～				10	【授業単元】 防災の観点から地域共生を考える①			
	【到達目標】 地域共生社会を体现するひとから実際に聞き、質問を通じて理解を深めることができる					【到達目標】 防災を学び、地域共生の重要性を理解する			
3	【授業単元】 地域で活躍している人に触れる① ～行政相談委員～				11	【授業単元】 防災の観点から地域共生を考える②			
	【到達目標】 地域リーダーとしてまちづくりをしている方から、まちづくりの実践を聞き、考えることができる。 改めて、どんなまちに住みたいか、どんなまちづくりができるかについて深めていく					【到達目標】 防災を学び、地域共生の重要性を理解する			
4	【授業単元】 地域で活躍している人に触れる② ～江戸川みまもり隊～				12	【授業単元】 地域共生の拠点から学ぶ ～なごみの家～			
	【到達目標】 地域リーダーとしてまちづくりをしている方から、まちづくりの実践を聞き、考えることができる。 改めて、どんなまちに住みたいか、どんなまちづくりができるかについて深めていく					【到達目標】 地域共生社会を体现するひとから実際に聞き、質問を通じて理解を深めることができる 事例を通して地域で自分らしく生活することの意義について考える			
5	【授業単元】 地域で活躍している人に触れる③ ～自主グループ活動～				13	【授業単元】 自分にとって地域共生とは何かを考える			
	【到達目標】 地域リーダーとしてまちづくりをしている方から、まちづくりの実践を聞き、考えることができる。 改めて、どんなまちに住みたいか、どんなまちづくりができるかについて深めていく					【到達目標】 1年間の学びについて資料を作成し発表する			
6	【授業単元】 地域共生と施設の関係性を学ぶ ～保育園～				14	【授業単元】 発表準備			
	【到達目標】 地域共生社会を体现するひとから実際に聞き、質問を通じて理解を深めることができる 事例を通して地域で自分らしく生活することの意義について考える					【到達目標】 1年間の学びについて資料を作成し発表する			
7	【授業単元】 世代間交流の効果を知る				15	【授業単元】 定期試験			
	【到達目標】 年齢を超えた関係性を構築するプロセスを知り、それがどのような効果をもたらすのかを考える ことができる					【到達目標】 PowerPointでの発表を聞き、質問を行い、互いを評価し合うことができる ふりかえりと総評			
8	【授業単元】 中テスト・解説				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。 定期試験はパワーポイントを使用した発表スタイルとし、事前に明示した採点表を元に講師が採点をする。				
	【到達目標】 地域共生社会・地域包括ケアシステムについて他者に説明することができ、自分なりの考えを持つことができる ふりかえりと総評								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・自分が感じたこと、頭の中にある考えを表現、アウトプットする力をつけること。									
・制度や概念、考え方を自分の言葉で言い換えることができるようになること。									

授業概要

科目名	介護の基本 I	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	塚田 香織		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
介護福祉の基本となる理念を理解し、その考えかたや介護の視点を身につけるための基礎的事項を理解することができる。 BASE活動を通し、教室での学びと活動での学びから知識の定着につなげることができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
介護福祉士として特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、GH、初任者研修講師の経験のある職員が、現場の経験を通じ介護の理念、考え方、自身の役割についての理解を深めるための授業を行う									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
『介護福祉士養成講座 3 介護の基本 I』 中央法規					各回の予習・復習をし自ら学ぶ姿勢を身につけましょう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 学習定着率について				9	【授業単元】 BASE(高齢者サロン) 1回目 開催			
4/14 (火)	【到達目標】 授業の概要が理解できる。				5/15 (金)	【到達目標】 地域の高齢者と触れ合い講義の学びと体験からの学びを経て理解を深める。			
2	【授業単元】 介護の基本となる理念・介護の成り立ち①				10	【授業単元】 自立を支える介護①			
4/17 (金)	【到達目標】 なぜ日本で介護福祉職が必要になったのか、介護の基本理念・成り立ちが理解できる。				5/19 (火)	【到達目標】 自立を支える介護の視点を理解できる 事例をもとに自立支援について仲間と協働し考えることができる			
3	【授業単元】 介護の基本となる理念・介護の成り立ち①				11	【授業単元】 BASE(高齢者サロン)準備(4)			
4/21 (火)	【到達目標】 介護福祉士法制定前の社会福祉の概要を知ることができる。 介護福祉士、欠格事由の理解。				5/22 (金)	【到達目標】 チームで協働しBASE運営にむけて計画、立案ができる。			
4	【授業単元】 BASE(高齢者サロン)準備(1)				12	【授業単元】 自立を支える介護②			
4/24 (金)	【到達目標】 BASEの概要を知り、クラスをのりこえた新たなチームを作る。仲間とBASE開催に向けて協働することができる。				5/26 (火)	【到達目標】 自立を支える介護の視点を理解できる 事例をもとに自立支援について仲間と協働し考えることができる			
5	【授業単元】 介護福祉士の義務の理解①				13	【授業単元】 BASE(高齢者サロン)準備(5)			
4/28 (火)	【到達目標】 介護福祉士としての義務、やってはいけない事の理解。				5/29 (金)	【到達目標】 チームで協働しBASE運営にむけて計画、立案ができる。			
6	【授業単元】 BASE(高齢者サロン)準備(2)				14	【授業単元】 尊厳を支える介護①			
5/1 (金)	【到達目標】 チームで協働しBASE運営にむけて計画、立案ができる。				6/2 (火)	【到達目標】 尊厳を支える介護の視点を理解できる 事例をもとに自立支援について仲間と協働し考えることができる			
7	【授業単元】 BASE(高齢者サロン)準備(3)				15	【授業単元】 中間テスト			
5/8 (金)	【到達目標】 チームで協働しBASE運営にむけて計画、立案ができる。				6/5 (金)	【到達目標】 今までの学習を振り返り、今後の授業への課題を見つけることができる			
8	【授業単元】 介護福祉士の義務の理解②				【成績評価の方法と基準】				
5/12 (火)	【到達目標】 事例をもとに介護福祉士としての義務、やってはいけない事の理解を深める。				講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験(五肢択一または記述式)で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(15回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
教室での学びをBASE(高齢者サロン)に活かしながら「学びと体験」「体験からの学び」を繰り返すことで知識の定着に努めましょう。									

授業概要

科目名	介護の基本Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	塚田 香織		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
介護福祉の基本となる理念を理解し、その考えかたや介護の視点を身につけるための基礎的事項を理解することができる。 BASE活動を通し、教室での学びと活動での学びから知識の定着につなげることができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
介護福祉士として特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、GH、初任者研修講師の経験のある職員が、現場の経験を通じ介護の理念、考え方、自身の役割についての理解を深めるための授業を行う									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
『介護福祉士養成講座 3 介護の基本Ⅰ』 中央法規					各回の予習・復習をし自ら学ぶ姿勢を身につけましょう。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
16 6/9 (火)	【授業単元】 BASE(高齢者サロン)準備(2)			24	【授業単元】 白鷺特別支援学校 ～夏の祭典～				
	【到達目標】 チームで協働しBASE運営にむけて計画、立案ができる。			7/17 (金)	【到達目標】 白鷺の学生やお客様お祭りに参加できるよう、介護職の視点を通して主体制をもち、考え行動することができる。				
17 6/12 (金)	【授業単元】 BASE(高齢者サロン) 2回目 開催			25	【授業単元】 援助関係の理解				
	【到達目標】 地域の高齢者と触れ合い講義の学びと体験からの学びを経て理解を深める。			7/21 (火)	【到達目標】 自己覚知、他者理解を深め援助者とクライアントの関係における役割を理解する。				
18 6/16 (火)	【授業単元】 尊厳を支える介護②			26	【授業単元】 イベント準備				
	【到達目標】 尊厳を支える介護の視点を理解できる 事例をもとに自立支援について仲間と協働し考えることができる			7/24 (金)	【到達目標】 学年を越えた交流を『想像し協働』し準備を進めることができる。				
19 6/19 (金)	【授業単元】 災害時、看取り時の介護福祉士の機能と役割①			27	【授業単元】 生活意欲と活動 ICFの理解①				
	【到達目標】 災害時、看取り時の介護福祉士の機能と役割を理解することができる。			7/28 (火)	【到達目標】 生活支援サービスの充実と高齢者の社会参加についての概要を理解することができる。 ICFの考え方				
20 7/3 (金)	【授業単元】 災害時の介護福祉士の機能と役割 ～応用編～			28	【授業単元】 介護予防の概要と種類				
	【到達目標】 地域共生社会・災害時の役割や対応をしる。 災害時に必要な知識や応用力を養う。 避難所生活で起きる廃用症候群の予防策、予防体操を学ぶ。			7/31 (金)	【到達目標】 介護予防の概要と種類、様々な支援について知ることができる。				
21 7/7 (火)	【授業単元】 介護福祉士の倫理①			29	【授業単元】 ICFの理解②				
	介護福祉士の倫理綱領の概要が理解できる。			8/4 (火)	【到達目標】 ICFにおける生活機能と各因子の相互作用について理解する。				
22 7/10 (金)	【授業単元】 白鷺特別支援学校 ～夏の祭典～ 準備①			30	【授業単元】 前期定期試験				
	【到達目標】 チームで協働し準備を進めることができる。			8/25 (火)	【到達目標】 前期を振り返り、目標に対する課題を抽出し、後期に向けた行動計画を再設定することができる。				
23 7/14 (火)	【授業単元】 介護福祉士の理念②			【成績評価の方法と基準】					
	【到達目標】 事例より倫理の視点の理解ができる。			講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験(五肢択一または記述式)で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(15回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。					
【履修に当たっての心構え・留意点】									
教室での学びをBASE(高齢者サロン)に活かしながら「学びと体験」「体験からの学び」を繰り返すことで知識の定着に努めましょう。									

授 業 概 要

科目名	介護の基本Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	塚田 香織		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
介護の基本となる理念をもとに、地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みを理解し、介護福祉士の専門性を目指す力を養うことができる。 BASE活動を通じ、教室での学びと活動での学びから知識の定着につなげることができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
介護福祉士として特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、GH、初任者研修講師の経験のある職員が、現場の経験を通じ介護の理念、考え方、自身の役割についての理解を深めるための授業を行う									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
『介護福祉士養成講座 3 介護の基本Ⅱ』 中央法規					各回の予習・復習をし自ら学ぶ姿勢を身につけましょう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 前期の復習				9	【授業単元】 介護従事者を守る法制度①			
9/1 (火)	【到達目標】 後期の到達目標の確認。 前期の授業内容を復習し後期への授業に				10/27 (火)	【到達目標】 介護従事者の身体・健康障害の要因を理解する。			
2	【授業単元】 高齢者の暮らし、生活の特性				10	【授業単元】 BASE(高齢者サロン) 準備(7)			
9/4 (金)	【到達目標】 高齢者の暮らしや生活習慣の個性を知ろう。				10/30 (金)	【到達目標】 チームで協働しBASE運営にむけて計画、立案ができる。			
3	【授業単元】 障害のあるかたの生活				11	【授業単元】 介護従事者を守る法制度②			
9/8 (火)	【到達目標】 障害のある方の生活を理解し、支援を受ける方の思いを理解できる。				11/10 (火)	【到達目標】 心身の健康管理 場面、事例をもとに予防策や対応策を考えることができる			
4	【授業単元】 家族介護者の理解と支援① ～福祉を必要とするひとの生活を支える～				12	【授業単元】 BASE(高齢者サロン) 開催③			
9/11 (金)	【到達目標】 家族介護者の支援の理解ができる。				11/13 (金)	【到達目標】 地域の高齢者と触れ合い講義の学びと体験からの学びを経て理解を深める。			
5	【授業単元】 家族介護者の理解と支援② ～福祉を必要とするひとの生活を支える～				13	【授業単元】 介護従事者を守る法制度②			
10/13 (火)	【到達目標】 地域共生社会と地域ケアシステムの概要を知ることができる				11/17 (火)	【到達目標】 腰痛予防、ボディメカニクス、作業環境管理の概要を理解。			
6	【授業単元】 施設での介護①				14	【授業単元】 前半のまとめ・復習			
10/16 (金)	【到達目標】 施設の種類、サービスを受けるまでの流れを知る。				11/20 (金)	【到達目標】 後期授業の振り返りをする事で自身の課題を見つけられる。			
7	【授業単元】 施設での介護②				15	【授業単元】 中間テスト			
10/20 (火)	【到達目標】 介護福祉士の働きを知る。				11/24 (火)	【到達目標】 後期前半を振り返り、目標に対する課題を抽出し、後半に向けた行動計画を再設定することができる。			
8	【授業単元】 BASE(高齢者サロン) 準備(6)				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験(五肢択一または記述式)で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(15回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
10/23 (金)	【到達目標】 チームで協働しBASE運営にむけて計画、立案ができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
教室での学びをBASE(高齢者サロン)に活かしながら「学びと体験」「体験からの学び」を繰り返すことで知識の定着に努めましょう。									

授業概要

科目名	介護の基本Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	塚田 香織		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
介護の基本となる理念をもとに、地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みを理解し、介護福祉士の専門性を目指す力を養うことができる。 BASE活動を通し、教室での学びと活動での学びから知識の定着につなげることができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
介護福祉士として特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、GH、初任者研修講師の経験のある職員が、現場の経験を通じ介護の理念、考え方、自身の役割についての理解を深めるための授業を行う									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
『介護福祉士養成講座 3 介護の基本Ⅱ』 中央法規					各回の予習・復習をし自ら学ぶ姿勢を身につけましょう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
16	【授業単元】 リスクマネジメント①				24	【授業単元】 感染症と感染症対策②			
11/27 (金)	【到達目標】 福祉サービスのリスクマネジメントの基本を理解することができる。 過誤、事故、苦情等、介護現場で起こりうる事例について考える。				1/8 (金)	【到達目標】 介護現場で起こりやすい感染症について、事例と予防策、対応策について考え、理解する			
17	【授業単元】 リスクマネジメント②				25	【授業単元】 餅つき大会 ～2年生 国家試験応援～ 準備			
12/1 (火)	【到達目標】 介護福祉士が行える医療行為について理解できる。				1/12 (火)	【到達目標】 自身の来年の姿を想像しながら、仲間と協働し2年生を応援する準備を進めることができる。			
18	【授業単元】 福祉サービスに求められる安心・安全①				26	【授業単元】 BASE(高齢者サロン) 開催4回目 餅つき大会 ～2年生 国家試験応援～			
12/4 (金)	【到達目標】 安心と安全の視点を理解することができる				1/15 (火)	【到達目標】 協働し準備を進め、自身の来年の姿を想像しながら国家試験に向けて励む2年生へエールを送ることができる。			
19	【授業単元】 福祉サービスに求められる安心・安全②				27	【授業単元】 事例検討①			
12/8 (火)	【到達目標】 身体拘束の対応策を考える				1/19 (火)	【到達目標】 チームに分かれ、事例検討を行う。 一年の学びから得た知識を活用し事例に対してのアセスメントやサービスの活用、連携する職種、などを考え総合的な復習につなげる。			
20	【授業単元】 協働する多職種の機能と役割①				28	【授業単元】 事例検討②			
12/11 (金)	【到達目標】 多職種と協働、連携する目的を理解することができる。				1/22 (金)	【到達目標】 チームに分かれ、事例検討を行う。 一年の学びから得た知識を活用し事例に対してのアセスメントやサービスの活用、連携する職種、などを考え総合的な復習につなげる。			
21	【授業単元】 協働する多職種の機能と役割②				29	【授業単元】 後期授業のまとめ			
12/15 (火)	【到達目標】 介護職に関係する多職種の専門性を調べ理解することができる。				1/26 (火)	【到達目標】 前期の学びと後期の学びのつながりを意識しながら復習。 不明点は仲間と協働し明確にしながら定期試験に向けて取り組む。			
22	【授業単元】 協働する多職種の機能と役割③				30	【授業単元】 後期定期試験			
12/18 (金)	【到達目標】 多職種の協働、連携の実際をしる。 事例より具体的な働きを理解する。				1/29 (金)	【到達目標】 後期を振り返り、二年へ向けて自身の学習方法を、明確にすることができる。			
23	【授業単元】 感染症と感染症対策①				【成績評価の方法と基準】				
12/22 (火)	【到達目標】 感染症の基本知識。 バイタル測定の基本。				講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験(五肢択一または記述式)で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(15回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
教室での学びをBASE(高齢者サロン)に活かしながら「学びと体験」「体験からの学び」を繰り返すことで知識の定着に努めましょう。									

授業概要

科目名	コミュニケーション技術Ⅰ	必修選択の別	必修	開講区分	後期	担当教員	小野寺 祐		
学科コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
利用者の心身の状態や生活背景を理解し、傾聴や共感、非言語的コミュニケーションなどの基本的な技術を活用しながら、状況に応じた適切な関わり方および									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
介護現場での実務経験および研修指導経験を有する教員が担当し、演習や体験学習を中心に授業を行う。利用者との関わりを想定した演習を通して、傾聴や共感、非言語コミュニケーションの基本を学び、状況に応じた声かけや関わり方を理解し、実習や現場で活かせる基礎的なコミュニケーション技術を身につける									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
学校指定教科書『最新 介護福祉士養成講座』および教員配布資料、演習用教材(ワークシート等)を使用する。					授業内容を振り返り、日常生活や実習場面で相手の立場を考えた関わりを意識するとともに、配布資料やノートを用いて復習し理解を深める。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 伝わらない体験(説明の難しさ)			9	【授業単元】 傾聴技術の基本				
	【到達目標】 言葉だけで正確に伝えることの難しさを体験し、相手の理解を確認しながら伝えることの重要性を理解することができる。				【到達目標】 相手の話を遮らずに最後まで聞くことが信頼関係の形成につながることを理解し、傾聴の基本的な関わり方を理解することができる。				
2	【授業単元】 視覚制限体験(見えにくさの理解)			10	【授業単元】 共感的関わりの基本				
	【到達目標】 視覚情報が制限された状況での不安や困難を体験し、安心できる声かけや支援の必要性を理解することができる。				【到達目標】 相手の気持ちを受け止めて寄り添う関わりが安心感につながることを理解し、共感的な関わりを実践することができる。				
3	【授業単元】 聴覚制限体験(聞こえにくさの理解)			11	【授業単元】 認知症利用者へのコミュニケーション				
	【到達目標】 聞こえにくい状況で誤解や不安が生じることを体験し、伝え方を工夫する必要性を理解することができる。				【到達目標】 認知症のある利用者の不安や混乱を理解し、否定せず安心できる声かけや関わり方を理解することができる。				
4	【授業単元】 利き手使用制限体験			12	【授業単元】 家族とのコミュニケーションの基本				
	【到達目標】 身体機能が制限された状況を体験し、利用者の不安や負担を理解するとともに、支援時の配慮の重要性を理解することができる。				【到達目標】 家族の不安や思いを理解し、利用者および家族双方に配慮した関わりや情報共有の重要性を理解することができる。				
5	【授業単元】 声かけ比較体験			13	【授業単元】 チーム内情報共有と連携				
	【到達目標】 声かけの方法によって安心感や受け止め方が変わることを体験し、適切な声かけの重要性を理解することができる。				【到達目標】 介護はチームで支えるものであることを理解し、報告・連絡・相談および情報共有の重要性を理解することができる。				
6	【授業単元】 体験学習の振り返り			14	【授業単元】 総合演習および振り返り				
	【到達目標】 これまでの体験を振り返り、関わり方によって安心や不安が変化することを整理して理解することができる。				【到達目標】 学習した関わり方を振り返り、状況に応じた適切なコミュニケーションを実践する意識を持つことができる。				
7	【授業単元】 前半の学習内容の振り返りおよび定期試験			15	【授業単元】 学習内容の総合振り返りおよび定期試験				
	【到達目標】 これまでの体験学習を振り返り、関わり方の基本を整理して理解するとともに、定期試験を通して前半の学習内容の理解を確認することができる。				【到達目標】 これまで学習したコミュニケーション技術および利用者・家族への関わり方、チーム内での情報共有の基本を振り返り整理するとともに、定期試験を通して学習内容の理解を確認することができる。				
8	【授業単元】 安心できる関わりの基本			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
	【到達目標】 利用者が安心して関われるよう、態度や声かけ、環境への配慮が重要であることを理解し、基本的な関わり方を理解することができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
演習に積極的に参加し、他者の意見を尊重するとともに、学んだ関わり方を実習や日常生活で活かす姿勢で履修することがよい。									

授業概要

科目名(英)	生活支援技術Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	長尾洋江/善波智子/服部有里		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	3 単位	総時間数	90 時間
【授業を通じての到達目標】 ・全ての技術に対して根拠が言える ・利用者の生まれ育った時代背景を大切にした介護が実践できる ・誰が見ても安心で、美しい介護技術を実践できる									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 医療・福祉(高齢者・障がい児者)分野で現在も勤務している教員が担当する。									
【使用教科書・教材・参考図書】 中央法規 最新介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ 中央法規 最新介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ					【授業時間外における学習】 ・予習/復習/実技試験のための練習				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1.2.3	【授業単元】 1.生活支援とは 2.介護職としてのマナー 3.移動の介護①(車いす操作)			25.26.27	【授業単元】 衣類着脱の介護① ・座位での着脱				
	【到達目標】 1.生活支援とは何かがわかる 2.移動助技術(車いす助)の方法がわかる 3.利用者から信頼される所作・立ち居振る舞いがわかる				【到達目標】 1.座位での衣類着脱助方法がわかる 2.利用者から信頼される所作・立ち居振る舞いができる				
4.5.6	【授業単元】 1.移動の介護②③:杖歩行助・車いす助(復習) 2.利用者から信頼される所作・立ち居振る舞いを習得する			28.29.30	【授業単元】 衣類着脱の介護② ・臥位での着脱				
	【到達目標】 1.杖歩行助の方法がわかる 2.車いす・杖歩行助の方法がわかる 3.利用者から信頼される所作・立ち居振る舞いがわかる				【到達目標】 ・臥位での衣類着脱助ができる ・利用者から信頼される所作・立ち居振る舞いができる				
7.8.9	【授業単元】 環境整備 ・ベッドメイキング① ・利用者から信頼される所作・立ち居振る舞いを習得する			31.32.33	【授業単元】 衣類着脱の介護③:総復習 排泄の介護① ・アウターインナー(おむつ)交換				
	【到達目標】 ・介護用ベッドの取り扱い方法がわかる ・ベッドメイキングの方法がわかる ・利用者から信頼される所作・立ち居振る舞いができる				【到達目標】 ・衣類着脱助ができる ・衣類着脱助をしながらアウターインナー交換ができる ・利用者から信頼される所作・立ち居振る舞いができる				
10.11.12	【授業単元】 環境整備 ・ベッドメイキング② ・技術確認			34.35.36	【授業単元】 排泄の介護② ・アウターインナー(おむつ)交換 ・トイレ助 ・ポータブルトイレ助				
	【到達目標】 ・ベッドメイキングができる ・ベッドメイキングの技術習得状態を確認する ・利用者から信頼される所作・立ち居振る舞いができる				【到達目標】 ・アウターインナー(おむつ)交換ができる ・トイレ助ができる ・ポータブルトイレ助ができる ・利用者から信頼される所作・立ち居振る舞いができる				
13.14.15	【授業単元】 移乗移動の介護① ・体位の名称 ・体位変換			37.38.39	【授業単元】 排泄助③ 陰部洗浄/殿部洗浄 技術総復習				
	【到達目標】 ・体位変換ができる ・利用者から信頼される所作・立ち居振る舞いができる				【到達目標】 ・各種排泄助を復習し、できるようになる ・これまでに学んだ知識・技術の総復習をし、不安な知識・技術がわかり、できるようになる ・利用者から信頼される所作・立ち居振る舞いができる				
16.17.18	【授業単元】 移乗移動の介護② ・体位変換 ・移乗助			40.41.42	【授業単元】 食事の介護				
	【到達目標】 ・移乗介護ができる ・利用者から信頼される所作・立ち居振る舞いができる				【到達目標】 ・おいしくたのしく安全に食事を摂るために必要な知識がわかる ・食事助が必要な方への支援方法がわかる ・利用者から信頼される所作・立ち居振る舞いができる				
19.20.21	【授業単元】 総復習① ・知識の復習 ・技術の復習			43.44.45	【授業単元】 期末試験(筆記) 前期実技総復習				
	【到達目標】 ・今までやってきた知識/技術の総復習を行い、理解を深める				【到達目標】 期末試験全員合格 前期に学んだ技術の総復習をし、理解を深める				
22.23.24	【授業単元】 中テスト ①知識に関するテスト ②技術に関するテスト				【成績評価の方法と基準】 ・小テスト:筆記試験方式 10問 1問0.5点 5点満点 ・中テスト筆記試験:15問 15点満点 ・期末テスト:筆記試験15問 15点満点/実技試験 5点満点				
	【到達目標】 ・全員合格								
【履修に当たっての心構え・留意点】 ◆クラスメイトはライバルではありません。困っている仲間がいたら「大丈夫」と声をかけ、助けてあげてください。 ◆上手にできた仲間がいたら、大きな拍手を送ってください。 ◆挨拶は誰よりも先に自分からしましょう。									

授 業 概 要

科目名(英)	生活支援技術Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	長尾洋江/善波智子			
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	3 単位	総時間数	90 時間	
【授業を通じての到達目標】										
・全ての技術に対して根拠が言える ・利用者の生まれ育った時代背景を大切にした介護が実践できる ・誰が見ても安心で、美しい介護技術を実践できる										
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)										
医療・福祉(高齢者・しょうがいしゃ)分野で現在も勤務している教員が担当する。										
【使用教科書・教材・参考図書】										
【授業時間外における学習】										
中央法規 最新介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ 中央法規 最新介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ										
・予習/復習 ・課題提出										
コマ	授業計画				コマ	授業計画				
1.2.3	【授業単元】 後期中テスト(実技試験)問題発表				25.26.27	【授業単元】 前期で学んだことをはじめからていねいに②				
	【到達目標】 ・中テスト実技試験合格のための練習をし、わからないところ、できないところがないように備える ・利用者に信頼してもらえる所作・立ち居振る舞いができる					【到達目標】 事例問題を読み、どのようなケアが必要か考え、実践できる				
4.5.6	【授業単元】 実技試験練習				28.29.30	【授業単元】 前期で学んだことをはじめからていねいに③				
	【到達目標】 全員合格					【到達目標】 事例問題を読み、どのようなケアが必要か考え、実践できる				
7.8.9	【授業単元】 保清介護① ベッド上安静を必要としている利用者への保清介助方法				31.32.33	【授業単元】 後期で学んだことをはじめからていねいに①				
	【到達目標】 ・全身清拭ができる					【到達目標】 事例問題を読み、どのようなケアが必要か考え、実践できる				
10.11.12	【到達目標】 保清介護② ベッド上洗髪 手浴・足浴				34.35.36	【授業単元】 後期で学んだことをはじめからていねいに②				
	【到達目標】 ・ベッド上洗髪ができる ・手浴・足浴ができる ・利用者のアビランスを整えることができる(爪・髪・ひげ)					【到達目標】 事例問題を読み、どのようなケアが必要か考え、実践できる				
13.14.15	【授業単元】 保清介護③ 入浴介助				37.38.39	【授業単元】 看取りの介護				
	【到達目標】 ・浴浴/機械浴/チェアバスの介助方法がわかる ・安全でたのしく気持ちよい入浴にするための知識を持つ					【到達目標】 最期の瞬間に寄り添うために必要な知識と技術を学ぶ				
16.17.18	【授業単元】 総復習 (知識)中テスト出題範囲の再履修 (技術)中テスト(技術試験)課題の発表と練習				40.41.42	【授業単元】 期末試験前総復習				
	【到達目標】 ・今まで行ってきた内容の総復習を行い、わからないところやできないところがないようにする ・中テスト(実技試験)備え練習する					【到達目標】 筆記試験/実技試験 全員合格				
19.20.21	【授業単元】 中テスト(筆記試験・実技試験)				43.44.45	【授業単元】 期末試験(筆記試験/実技試験) ・2限:筆記試験 ・3/4限:実技試験				
	【到達目標】 中テスト全員合格 ・2限:筆記試験/3・4限:実技試験					【到達目標】 期末試験 全員合格				
22.23.24	【授業単元】 前期で学んだ内容をはじめからていねいに①				【成績評価の方法と基準】					
	【到達目標】 事例問題を読み、どのようなケアが必要か考え、実践できる				・小テスト:筆記試験で行う。10問出題し5点満点 ・中テスト:筆記試験10問で10点満点・実技試験1問で5点満点 計15点満点とする。実技不合格者は当日中に再試験 ・期末テスト:筆記試験15問で15点満点・実技試験1問で5点満点 計20点満点とする。実技不合格者は当日中に再試験					
【履修に当たっての心構え・留意点】										
◆クラスメイトはライバルではありません。困っている仲間がいたら「大丈夫」と声をかけ、助けてあげてください。 ◆上手にできた仲間がいたら、大きな拍手を送ってください。 ◆挨拶は誰よりも先に自分からしましょう。										

授 業 概 要

科目名	介護過程Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	田中静香/長谷川知佳		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
・利用者の望む生活を実現するため、介護福祉職に必要な介護過程の展開について理解、習得することができる。 ・根拠に基づいた介護過程の実践のために、【その人らしさ】を常に意識した情報分析のスキルを身につけることができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
品川区内にある特別養護老人ホームにて、介護福祉士・ショートステイ相談員・実習指導者として従事している教員が、介護福祉職として介護実践に必要な思考過程について介護現場の実際を交えながら、グループワークや講義を通じて、介護過程を理解する授業を行なう。 ※授業の進捗状況によって、内容が前後・重複することがあります。その都度、アナウンスを行ないます。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新 介護福祉士養成講座9 介護過程【第2版】 (中央法規出版)					・他者との関わりを通して【生活】というものに意識を向ける。 ・他の科目で学んだことを介護過程の展開に活かせるよう、知識の定着と結びつけをする。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 オリエンテーション(教員自己紹介・シラバス説明)			9	【授業単元】 ・アセスメント(情報の解釈・関連付け・統合化)について				
	【到達目標】 ・介護過程の授業の到達目標を共有することができる。 ・「情報」について考えることができる。				【到達目標】 ・【情報収集】で得た情報の整理をすることの大切さを知ることができる。 ・利用者主体の視点で、情報の中の大切なポイントを見つけられるようになる。				
2	【授業単元】 ・介護過程の展開ステップについて ・介護過程の目的について			10	【授業単元】 ・アセスメント(情報の解釈・関連付け・統合化)について				
	【到達目標】 ・介護過程を展開するための正しい【4つのステップ】を覚えることができる。 ・それぞれのステップがもつ役割を知ることができる。 ・介護過程の目的を理解することができる。				【到達目標】 ・【情報収集】で得た情報の整理をすることの大切さを理解することができる。 ・利用者主体の視点で、情報の中の大切なポイントを見つけられるようになる。				
3	【授業単元】 ・アセスメント(情報収集)について			11	【授業単元】 ・アセスメント(情報の解釈・関連付け・統合化)について ・アセスメント(生活課題の明確化)について				
	【到達目標】 ・介護過程における【情報】が何かを知ることができる。 ・情報収集の必要性、大切さを知ることができる。				【到達目標】 ・【情報収集】で得た情報の整理をすることの大切さを理解することができる。 ・利用者主体の視点で、情報の中の大切なポイントを見つけられるようになる。 ・情報を分析することで、利用者の抱える【生活課題】を見つけられることができる。				
4	【授業単元】 ・アセスメント(情報収集)について			12	【授業単元】 実習Ⅱ-Ⅰに向けた取り組み・課題				
	【到達目標】 ・介護過程における【情報】が何かを知ることができる。 ・情報収集の必要性、大切さを知ることができる。				【到達目標】 ・アセスメントシートの使い方を知ることができる。 ・受け持ち利用者の選定、決定方法について理解することができる。				
5	【授業単元】 ・アセスメント(情報収集)について			13	【授業単元】 実習Ⅱ-Ⅱに向けた取り組み・課題				
	【到達目標】 ・介護過程における【情報】が何かを理解することができる。 ・情報収集の必要性、大切さを理解することができる。				【到達目標】 ・アセスメントシートについて理解することができる。 ・実習における情報収集の視点、ポイントを理解することができる。				
6	【授業単元】 ・アセスメント(情報の解釈・関連付け・統合化)について			14	【授業単元】 実習Ⅱ-Ⅲに向けた取り組み・課題				
	【到達目標】 ・【情報収集】で得た情報の整理をすることの大切さを知ることができる。 ・利用者主体の視点で、情報の中の大切なポイントを見つけられるようになる。				【到達目標】 ・アセスメントシートについて理解することができる。 ・実習における情報収集の視点、ポイントを理解することができる。				
7	【授業単元】 ・アセスメント(情報の解釈・関連付け・統合化)について			15	【授業単元】 前期定期試験				
	【到達目標】 ・【情報収集】で得た情報の整理をすることの大切さを知ることができる。 ・利用者主体の視点で、情報の中の大切なポイントを見つけられるようになる。				【到達目標】 ・前期の授業内容を振り返り、自分が学んだ知識を生かすことができる。 ・知識の定着を確認し、後期の学習につなげる。				
8	【授業単元】 ・アセスメント(情報の解釈・関連付け・統合化)について ・中テスト			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
	【到達目標】 ・【情報収集】で得た情報の整理をすることの大切さを知ることができる。 ・利用者主体の視点で、情報の中の大切なポイントを見つけられるようになる。 ・8コマ目の授業までに学んだ知識の定着を実感し、9コマ目からの学習につなげる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
介護過程の展開は介護福祉職には欠かせないスキルであることを理解し、必要な【思考過程】の習得を目指しましょう。 介護過程では他の科目で得た知識・技術も重要となります。本科目以外の科目での学びも関連付けて活かせるよう、意識をもって受講してください。									

授業概要

科目名	介護過程Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	田中静香/長谷川知佳		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
・利用者の望む生活を実現するため、介護福祉職に必要な介護過程の展開について理解、習得することができる。 ・根拠に基づいた介護過程の実践のために、【その人らしさ】を常に意識した情報分析のスキルを身につけることができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
品川区にある特別養護老人ホームにて、介護福祉士・ショートステイ相談員・実習指導者として従事している教員が、介護福祉職として介護実践に必要な思考過程について介護現場の実際を交えながら、グループワークや講義を通じて、介護過程を理解する授業を行なう。 ※授業の進捗状況によって、内容が前後・重複することがあります。その都度、アナウンスを行ないます。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新 介護福祉士養成講座9 介護過程【第2版】 (中央法規出版)					・他者との関わりを通して【生活】というものに意識を向ける。 ・他の科目で学んだことを介護過程の展開に活かせるよう、知識の定着と結びつけをする。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 実習Ⅱ-1に向けた取り組み・課題				9	【授業単元】 ・実習Ⅱ-1で実施をした介護過程について振り返りとブラッシュアップ			
	【到達目標】 ・アセスメントシートについて理解することができる。 ・実習における介護過程の計画性について ・前期定期試験の振り返り					【到達目標】 ・実習中には気づけなかった利用者の【その人らしさ】について、考えることができる。 ・実習Ⅱ-1で取り組んだ課題のブラッシュアップをする。(情報分析と生活課題の明確化)			
2	【授業単元】 実習Ⅱ-1に向けた取り組み・課題				10	【授業単元】 ・実習Ⅱ-1で実施をした介護過程について振り返りとブラッシュアップ			
	【到達目標】 ・アセスメントシートについて理解することができる。 ・実習における情報収集の視点、ポイントを理解することができる。 ・実習における情報分析のポイントについて理解することができる。 ・実習における介護計画の立案について理解することができる。					【到達目標】 ・実習中には気づけなかった利用者の【その人らしさ】について、考えることができる。 ・実習Ⅱ-1で取り組んだ課題のブラッシュアップをする。(介護計画の立案)			
3	【授業単元】 実習Ⅱ-1に向けた取り組み・課題				11	【授業単元】 ・実習Ⅱ-1で実施をした介護過程について振り返りとブラッシュアップ			
	【到達目標】 ・アセスメントシートについて理解することができる。 ・実習における情報収集の視点、ポイントを理解することができる。 ・実習における情報分析のポイントについて理解することができる。 ・実習における介護計画の立案について理解することができる。					【到達目標】 ・実習中には気づけなかった利用者の【その人らしさ】について、考えることができる。 ・実習Ⅱ-1で取り組んだ課題のブラッシュアップをする。(介護計画の立案)			
4	【授業単元】 実習Ⅱ-1を終えての振り返りと今後の課題について				12	【授業単元】 ・実習Ⅱ-1で実施をした介護過程について振り返りとブラッシュアップ			
	【到達目標】 ・実習Ⅱ-1での学びや体験を振り返り、整理することができる。 ・実習中には気づけなかった利用者の【その人らしさ】について、考えることができる。 ・実習Ⅱ-1で取り組んだ課題のブラッシュアップをする。					【到達目標】 ・実習中には気づけなかった利用者の【その人らしさ】について、考えることができる。 ・実習Ⅱ-1で取り組んだ課題のブラッシュアップをする。(介護計画の立案)			
5	【授業単元】 実習Ⅱ-1で実施をした介護過程について振り返りとブラッシュアップ				13	【授業単元】 ・実習Ⅱ-1で実施をした介護過程について振り返りとブラッシュアップ			
	【到達目標】 ・実習中には気づけなかった利用者の【その人らしさ】について、考えることができる。 ・実習Ⅱ-1で取り組んだ課題のブラッシュアップをする。(情報収集と追加情報)					【到達目標】 ・実習中には気づけなかった利用者の【その人らしさ】について、考えることができる。 ・実習Ⅱ-1で取り組んだ課題のブラッシュアップをする。(介護計画の立案・実施)			
6	【授業単元】 実習Ⅱ-1で実施をした介護過程について振り返りとブラッシュアップ				14	【授業単元】 ・実習Ⅱ-1で実施をした介護過程について振り返りとブラッシュアップ			
	【到達目標】 ・実習中には気づけなかった利用者の【その人らしさ】について、考えることができる。 ・実習Ⅱ-1で取り組んだ課題のブラッシュアップをする。(情報分析と生活課題の明確化)					【到達目標】 ・実習中には気づけなかった利用者の【その人らしさ】について、考えることができる。 ・実習Ⅱ-1で取り組んだ課題のブラッシュアップをする。(介護計画の実施・評価)			
7	【授業単元】 実習Ⅱ-1で実施をした介護過程について振り返りとブラッシュアップ				15	【授業単元】 ・後期定期試験			
	【到達目標】 ・実習中には気づけなかった利用者の【その人らしさ】について、考えることができる。 ・実習Ⅱ-1で取り組んだ課題のブラッシュアップをする。(情報分析と生活課題の明確化)					【到達目標】 ・1年生の集大成として、定期試験に臨むことができる。 ・前期で学んだ知識を結びつけ、総合的に考えることできる。			
8	【授業単元】 ・実習Ⅱ-1で実施をした介護過程について振り返りとブラッシュアップ ・中テスト 【到達目標】 ・実習中には気づけなかった利用者の【その人らしさ】について、考えることができる。 ・実習Ⅱ-1で取り組んだ課題のブラッシュアップをする。(情報分析と生活課題の明確化) ・8コマ目の授業までに学んだ知識の定着を実感し、9コマ目からの学習につなげる。				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【履修に当たっての心構え・留意点】 介護過程の展開は介護福祉職には欠かせないスキルであることを理解し、必要な【思考過程】の習得を目指しましょう。 介護過程では他の科目で得た知識・技術も重要となります。本科目以外の科目での学びも関連付けて活かせるよう、意識をもって受講してください。								

授業概要

科目名	介護総合演習Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	澤村 陽平・小野寺 祐
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	2 単位 総時間数 72 時間
【授業を通じての到達目標】							
介護実習の意義・目的を理解し、主体的に実習に取り組む態勢を整えることができる。 各領域での学び(知識と技術)を統合し、介護過程に基づいた介護実践のあり方を考えることができる。 実習施設での利用者の生活・介護職員の役割・職員間の連携・施設の果たす役割が理解できる。							
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)							
介護福祉士資格を有する教員が、福祉施設や通所等における介護を必要とする方への実務経験を活かして介護福祉士資格を有するための 介護実習の目的や意義について教授し、介護過程の実践に向けて個々の学生が演習やグループワーク・発表などで理解を深められる授業を実施する。							
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】			
実習と記録 介護福祉士編〈改訂版〉2023年 電子版				介護実習に必要な文章の作成は個人ワークで進める。読み書きの力と共に考 えて文章を作る力を養うため、日ごろから多くの文書に触れることを意識する。			
回	授業計画			回	授業計画		
1	【授業単元】 介護実習とは 介護実習の目的と意義について			9	【授業単元】 デイサービス実習の振り返り 実習記録の確認		
	【到達目標】 介護福祉士の資格を有するために必要な介護実習の目的と意義を理解することができる。 利用者の生活で介護福祉士が担う役割について考えることができる。				【到達目標】 デイサービス実習を振り返り、施設実習に向けて準備すべき知識や技術を考えることができる。 実習記録に必要な内容を整えて、完成することができる。		
2	【授業単元】 利用者の生活の場とは 介護実習の種類と実習の内容について デイサービス実習の準備			10	【授業単元】 介護実習Ⅱの施設実習について		
	【到達目標】 利用者を生活者として捉え、様々な生活の場を考えた介護実習の種類と内容、施設の種別につ いて理解することができる。 実習のために必要な身構え、気構え、心構えの必要性を理解することができる。				【到達目標】 施設実習の目的と目標を確認し、介護過程の展開に向けた利用者理解の必要性を理解する ことができる。		
3	【授業単元】 利用者を理解するための介護福祉士の関わりについて 実習に必要な記録物の意義と必要性			11	【授業単元】 介護実習Ⅱの施設の理解 介護実習Ⅱで出会う利用者の利用者像と必要な介護 介護実習Ⅱに必要な記録物の確認		
	【到達目標】 介護福祉士の資格を有するために必要な介護実習の目的と意義を理解することができる。 デイサービス実習で出会う利用者の利用者像をイメージし、介護福祉士が担う役割について考 えることができる。 実習に必要な記録物について理解し、実習紹介書に含むべき内容を理解し準備できる。				【到達目標】 利用者の生活や環境に関心を持ち、関わりを通して心身の状態を理解することの必要性を 考えることができる。 日々の介護実践の考察の方法を理解し、介護過程の思考過程をイメージすることができる。		
4	【授業単元】 介護実習で必要な知識と技術について 利用者を理解するためのコミュニケーション 利用者を支援するために必要な知識と技術			12	【授業単元】 介護実習Ⅱに行くための準備① 介護実習Ⅱの目的目標について 事前訪問とオリエンテーション日程の確認について		
	【到達目標】 高齢者とのコミュニケーションについて理解し、利用者の生活を知り理解するための方法を 考えることができる。				【到達目標】 事前訪問とオリエンテーション日程を確認することができる 個々の実習目標を行動レベルで考え、文章化することができる		
5	【授業単元】 実習に行くための準備① デイサービス実習の目的と目標について 個々の実習目標の立て方			13	【授業単元】 介護実習Ⅱに行くための準備② 利用者の安全・安楽を考える 介護福祉士の責務と職務		
	【到達目標】 デイサービス実習の目的を理解し、到達するべき目標を達成するために必要なこと具体的に考 えることができる。 個々の実習目標を行動レベルで立てることができる。				【到達目標】 介護を学ぶ学生として、利用者の安全・安楽を考慮した介護実践について考えることができる 介護福祉士の責務と職務、職業倫理を考えることができる。		
6	【授業単元】 実習に行くための準備② 事前訪問とオリエンテーション日程の確認について 実習目標の文章化			14	【授業単元】 介護実習Ⅱに行くための準備③ 介護福祉士の報告・連絡・相談について 介護福祉士の仕事の範囲について		
	【到達目標】 オリエンテーション日程を施設に確認することができる。 実習目標を文章化して準備することができる。				【到達目標】 実習において自己の所在や行動を明らかにすることの必要性を理解することができる。 チームで介護をする上で必要な報告・連絡・相談のあり方と必要性を理解することができる。 介護福祉士の仕事の範囲を理解し、多職種連携について理解することができる。		
7	【授業単元】 実習に行くための準備③ 実習に必要な身だしなみ、マナー、健康管理の確認 実習記録、日誌の書き方			15	【授業単元】 カンファレンスの意義・目的 前期の学習の知識確認と振り返り		
	【到達目標】 介護福祉士として求められる身だしなみやマナー、自己の健康管理の必要性を理解し、準備、 実践することができる。 実習に関する記録の必要性を理解し、整えることができる。				【到達目標】 カンファレンスの意義・目的を理解し、模擬カンファレンスを通して、介護福祉士の持つべき視点、 必要な知識、技術を考えることができる。		
8	【授業単元】 デイサービス実習で必要な知識と技術 実習前の知識確認と振り返り			【成績評価の方法と基準】			
	【到達目標】 実習でよりよく学ぶための準備をし、必要な知識と技術について確認することができる。 実習前に必要な実習に関する知識を確認することができる。 利用者及び職員に自分から適切な挨拶をする必要性を理解し行動に移す準備ができる。 利用者の反応に応じて、基本的な態度で話を聴くコミュニケーション技術を確認することができ る。			講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を4 0点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点 満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小 テストの合計点とする。			
【履修に当たっての心構え・留意点】							
介護実践に必要な知識と技術が統合される科目です。すべての科目が介護実 践＝介護実習につながっていることを意識し、専門職としての態度や姿勢、介 護観についても主体的に考えて欲しいと考えている。							

授業概要

科目名	介護総合演習Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	澤村 陽平・小野寺 祐
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	2 単位 総時間数 52 時間
【授業を通じての到達目標】							
介護実習の意義・目的を理解し、主体的に実習に取り組む態勢を整えることができる。 各領域での学び(知識と技術)を統合し、介護過程に基づいた介護実践のあり方を考えることができる。 実習施設での利用者の生活・介護職員の役割・職員間の連携・施設の果たす役割が理解できる。							
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)							
介護福祉士を有する教員が、福祉施設や通所等における介護を必要とする方への実務経験を活かして介護福祉士資格を有するための 介護実習の目的や意義について教授し、介護過程の実践に向けて個々の学生が演習やグループワーク・発表などで理解を深められる授業を実施する。							
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】			
実習と記録 介護福祉士編〈改訂版〉2023年 電子版				介護実習に必要な文章の作成は個人ワークで進める。読み書きの力と共に考えて文章を作る力を養うため、日ごろから多くの文書に触れることを意識する。			
回	授業計画			回	授業計画		
1	【授業単元】 事例検討・模擬カンファレンス			9	【授業単元】 認知症高齢者グループホーム実習の目的・目標について		
	【到達目標】 模擬カンファレンスを通して、介護福祉士の持つべき視点、必要な知識、技術を考えることができる。				【到達目標】 認知症高齢者グループホーム実習の目的・目標を確認し、自己の実習目標を文章化することができる。		
2	【授業単元】 介護実習Ⅱに行くための準備④ 介護実習Ⅱに必要な記録物を整える			10	【授業単元】 障害者施設における施設の役割と介護福祉士の役割、地域とのつながりについて		
	【到達目標】 介護実習Ⅱで必要な記録について理解し、準備を整えることができる。				【到達目標】 障害者施設における施設の役割や介護福祉士の役割を理解し、地域とのかかわりにおける介護福祉士の役割についても考えることができる。		
3	【授業単元】 介護実習Ⅱの振り返り			11	【授業単元】 障害者施設における利用者の生活について 障害者施設実習の目的・目標について		
	【到達目標】 実習を振り返り、自己の課題を明確にすることができる				【到達目標】 障害者施設で生活する利用者の生活について理解し、具体的な関わりについて考えることができる。 障害者施設実習の目的・目標を確認し、自己の実習目標を文章化することができる。		
4	【授業単元】 訪問介護を受ける利用者の生活について考える①			12	【授業単元】 認知症高齢者グループホーム・障害者施設実習に行くための準備① 事前訪問とオリエンテーション日程の確認について		
	【到達目標】 在宅サービスを受ける利用者、家族、地域の関係について理解し、考えることができる。				【到達目標】 事前訪問とオリエンテーション日程を確認することができる 個々の実習目標を行動レベルで考え、文章化することができる		
5	【授業単元】 訪問介護を受ける利用者の生活について考える②			13	【授業単元】 認知症高齢者グループホーム・障害者施設実習に行くための準備② 今までの実習から考えられる自己の課題について		
	【到達目標】 事例を通して訪問介護の実際について考え、理解することができる。				【到達目標】 今までの実習の経験から考えられる自己の課題を明確化し、今回の実習でどのように行動していくのかを具体的に考え、他者と共有することができる。		
6	【授業単元】 訪問介護を受ける利用者の生活について考える③			14	【授業単元】 認知症高齢者グループホーム・障害者施設実習に行くための準備③ 実習に行く前に付けておきたい力は何か考える		
	【到達目標】 事例を通して訪問介護の実際について考え、理解することができる。				【到達目標】 実習に臨むにあたり自分に必要な力は何かを考え、それをどのようにして身に付けて行くのかを具体的に考え、他者と共有することができる。		
7	【授業単元】 認知症高齢者グループホームにおける施設の役割と介護福祉士の役割 地域とのつながりについて			15	【授業単元】 介護総合演習Ⅰまとめ		
	【到達目標】 認知症高齢者グループホームにおける施設の役割や介護福祉士の役割を理解し、地域とのかかわりにおける介護福祉士の役割についても考えることができる。				【到達目標】 介護総合演習で学んだ知識を確認し、振り返ることができる。		
8	【授業単元】 認知症高齢者グループホームにおける利用者の生活について			【成績評価の方法と基準】			
	【到達目標】 認知症高齢者グループホームで生活する利用者の生活について理解し、具体的な関わりについて考えることができる。			講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。			
【履修に当たっての心構え・留意点】				・試験は筆記試験で行う。			
介護実践に必要な知識と技術が統合される科目です。すべての科目が介護実践＝介護実習につながっていることを意識し、専門職としての態度や姿勢、介護観についても主体的に考えて欲しいと考えている。				・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。			

授 業 概 要

科目名	介護実習Ⅰ（デイ）	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	実習	単位数	1	単位	総時間数	24	時間
【授業を通じての到達目標】											
地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する学習とする。 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。											
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
実習に臨む姿勢を修得し、比較的要介護度の低い利用者のいる通所介護事業所等において、利用者の望む生活とはどのようなものか、利用者の言葉として捉える学び。学びを記録に残し、他学生とその感じ方を共有し、受容と共感の実践的学びとする。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 実習に望む姿勢を修得できる。利用者の望む生活とはどのようなものか理解できる。利用者の言葉として捉えるコミュニケーションの展開と実践ができる。学びを記録に残すことができる。											
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】							
実習と記録（JESC）				実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。							
授業計画											
ア 実習生として実習に望む姿勢を学ぶことができる イ 利用者とのコミュニケーションを円滑に行うことができる ウ 利用者の望む生活と環境を理解できる エ 利用者を受容する姿勢と共感する姿勢ができる オ 学びを記録することができる カ 在宅における多職種協働の実際を知り、利用者の生活を支えるしくみを知る											
【履修に当たっての心構え・留意点】				【成績評価の方法と基準】							
介護福祉士倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。				実習評価表、実習日誌記載内容及び巡回指導時の指導内容で評価 可以上（60点以上）を合格とする。 ※実習Ⅰ（デイ・訪問）で1単位とする。							

授 業 概 要

科目名	介護実習Ⅰ（GH・障害）	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	実習	単位数	2	単位	総時間数	144	時間
【授業を通じての到達目標】											
[授業の目的・ねらい]（認知症高齢者グループホーム・障害者施設等） 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する学習とする。 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。											
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
利用者の主たる生活の場（認知症高齢者グループホーム・障害者施設等）で利用者の生活の状況を学ぶ。利用者の1日の生活のサイクルを体験し、生活の連続性について学び、介護福祉士の役割を体験的に学ぶ。学びは記録に残し、他学生とその感じ方を共有し、受容と共感の実践的学びとする。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習と記録（JESC）						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
授業計画											
ア 認知症高齢者グループホーム及び障害者施設等の利用者が望む生活と生活状況を知る イ 小規模な集団における認知症高齢者の生活を知る ウ 障害のある利用者の障害を理解し、今の生活を理解する エ 生活の連続性について知る オ 介護福祉士の役割を知る エ 学びを記録することができる オ 利用者を受容する姿勢と共感する姿勢ができる カ 利用者の生活を支える多職種を知り、多職種協働の理解を深める											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
介護福祉士倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。						実習評価表、実習日誌記載内容及び巡回指導時の指導内容で評価 可以上（60点以上）を合格とする。					

授 業 概 要

科目名	介護実習Ⅱ（施設実習Ⅰ）	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	実習	単位数	3	単位	総時間数	136	時間
【授業を通じての到達目標】											
地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する学習とする。 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。											
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
施設利用者の生活の場を知り、利用者への理解を深め、利用者の思いを実現する学びとする。ICFの視点にもとづき、利用者の状態や状況に対応できる介護技術を実践する学びとする。											
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】							
実習と記録（JESC）				実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。							
授業計画											
ア 施設の役割を確認する学び イ 施設と利用者・家族・地域との連携関係を学ぶ ウ 施設利用者の生活の場を知る エ 利用者の状態や状況に対応できる介護技術を実践する オ 利用者の思いを実現する具体的な方法論を知る カ 介護過程（情報収集～情報分析まで）を展開できる キ 生活の連続性について知る ク 介護福祉士の役割を知る ケ 学びを記録することができる コ 利用者を受容する姿勢と共感する姿勢ができる											
【履修に当たっての心構え・留意点】				【成績評価の方法と基準】							
介護福祉士倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。				実習指導者による評価、実習巡回教員による評価、自己評価を換算し、A～Eの6段階で評価する。							

授 業 概 要

科目名	発達と老化の理解	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	押山乃里子		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な知識を習得する。									
グループワークでは以下のディスカッション能力を身につける。 ①自分の思いをわかりやすく伝える ②相手の意見を否定しない ③より良い結果を導き出す									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
看護・介護領域で臨床経験を積んだ看護師が、人間の、成長と発達の過程における身体的・心理的・社会的変化と、ライフサイクルに応じた各段階の特徴を伝え、その知識を生活支援に活かし、利用者の状況に応じた適切な支援を行うことのできる介護福祉士の養成を目指す。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
中央法規出版株式会社 最新 介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解 第2版 他					事前に配布する資料とテキストを合わせて読んでおく 分からない日本語については事前に調べ理解しておく				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション / 医療連携 P294 高齢者のイメージ 成長と発達とは P2～9 成長・発達の原則・法則 P7～9				9	【授業単元】 健康長寿に向けての健康 P188～196 老年期の発達課題 P80～85			
	【到達目標】 連携の必要性を理解することができる 自分の持つ高齢者はのイメージを知る 成長、発達の概念と考え方を理解することができる。					【到達目標】 高齢者の健康についてその背景を理解することができる。 (サクセスフルエイジン、グロダクティブエイジング、アクティブエイジング) 代表的な発達理論について理解することができる。			
2	【授業単元】 成長と発達に影響する要因P10 ～16 老年期の定義P70 ～74				10	【授業単元】 老年期の発達課題 人格と尊厳、老いの価値、喪失体験、セクシュアリティ P85～97			
	【到達目標】 成長、発達、老化の概念と考え方を理解することができる。					【到達目標】 老年期の発達の特徴と老年期の人格やセクシュアリティを理解し、老年期の体験における心理過程を理解することができる。			
3	【授業単元】 老化とは P75～79 老化に伴う身体的な変化と生活への影響P141 恒常性、予備力、回復力、適応力、防衛力に関する変化P110～114				11	【授業単元】 老化に伴う心とからだの変化と日常生活 脳・神経系P118～121 高齢者に多い疾患と生活上の注意 脳・神経系 P217～223			
	【到達目標】 老化の概念と考え方を理解することができる。 恒常性を維持する機能について理解することが出来る。					【到達目標】 加齢に伴う身体機能の低下について学び、日常生活への影響を理解する。高齢者に多い脳・神経系疾患・症状と生活の留意点を学び介護実践に結び付けて考えることができる。			
4-5	【授業単元】 老化に伴う心とからだの変化と日常生活 骨格系、筋系P114～117 (フレイル、ロコモティブシンドローム、サルコペニア)				12	【授業単元】 老化に伴う心とからだの変化と生活への影響 心理的な変化と生活への影響 認知機能の変化 P143～150 知的機能の変化 P151～153			
	【到達目標】 加齢に伴う身体機能の低下について学び、日常生活への影響を理解することができる。高齢者に多い骨格・筋系疾患と生活の留意点を学び、介護実践に結び付けて考えることができる。					【到達目標】 老化による知覚機能、認知機能の変化について理解し、生活への影響を理解する。			
	【授業単元】 高齢者に多い疾患と症状と生活上の留意点 骨格・筋系 P202～208 P208～216				13	【授業単元】 老化に伴う心とからだの変化と生活への影響 心理的な変化と生活への影響 パーソナリティの変化 P153～155 動機づけP155～162			
【到達目標】 高齢者に多い感覚器系疾患と生活の留意点を学び介護実践に結び付けて考えることができる。				【到達目標】 老化によるパーソナリティの変化について理解し、生活への影響を理解する。老化と動機づけについて理解する。					
6	【授業単元】 高齢者に多い疾患と症状と生活上の留意点 皮膚・感覚器系 P223～227 感染症 P271～277 老化に伴う心とからだの変化と日常生活 皮膚・感覚器系 P121～126				14	【授業単元】 前期を通して学んだ内容を振り返り、知識を確認する。 定期試験対策、まとめ。			
	【到達目標】 加齢に伴う身体機能の低下について学び、日常生活への影響を理解する。 高齢者に多い感覚器系疾患と生活の留意点を学び介護実践に結び付けて考えることができる。					【到達目標】 前期で学んだ内容を確認し、人の成長発達について考え、高齢者の特徴を理解した生活支援を実践する知識を身につけることができる。			
7	【授業単元】 高齢者に多い疾患と症状と生活上の留意点 精神疾患 P277～281 その他P281～287				15	【授業単元】 前期を通して学んだ内容を振り返り、知識を確認する。 定期試験の実施			
	【到達目標】 高齢者に多い感染症、精神疾患と生活の留意点を学び介護実践に結び付けて考えることができる。					【到達目標】 前期で学んだ内容を確認し、老年期に多い疾患と症状、老化に伴う心と体の変化を理解した生活支援を実践する知識を身につけることができる。			
8	【授業単元】 老化に伴う心とからだの変化と生活への影響、高齢者に多い疾患と症状の知識を確認する。中テストの実施。				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 今まで学んだ、老年期に多い疾患と症状の知識を生活との関連性から考え、介護実践の留意点を理解する。								
【履修に当たっての心構え・留意点】					・授業態度、グループワークへの参加状況も評価対象となる				
人の成長過程、ライフサイクルにおける高齢者の心理的、精神的変化とそれに伴う、課題や特徴を学びます。概念や理論など、アカデミックに考える部分と、高齢者を一人の人間と捉え、その人生に寄り添う想像力を持って学習しましょう。									

授 業 概 要

科目名	発達と老化の理解	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	押山乃里子		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な知識を習得する。									
グループワークでは以下のディスカッション能力を身につける。①自分の思いをわかりやすく伝える ②相手の意見を否定しない ③より良い結果を導き出す									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
看護・介護領域で臨床経験を積んだ看護師が、人間の、成長と発達の過程における身体的・心理的・社会的変化と、ライフサイクルに応じた各段階の特徴を伝え、その知識を生活支援に活かし、利用者の状況に応じた適切な支援を行うことのできる介護福祉士の養成を目指す。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
中央法規出版株式会社 最新 介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解 第2版 他					事前に配布する資料とテキストを合わせて読んでおく 分からない日本語については事前に調べ理解しておく				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 老化に伴うこととからだの変化と日常生活 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 腎泌尿器系 P133～134 P246～251 【到達目標】 加齢に伴う身体機能の低下について学び、日常生活への影響を理解する。高齢者に多い腎・泌尿器系の症状・疾患と生活の留意点を学び介護実践に結び付けて考えることができる。				9	【授業単元】 老化に伴うこととからだの変化と日常生活 生殖器、内分泌・代謝系、免疫系 P135～136 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 P251～258 【到達目標】 加齢に伴う身体機能の低下について学び、日常生活への影響を理解することができる。高齢者に多い腎・泌尿器系の症状・疾患と生活の留意点を学び介護実践に結び付けて考えることができる。			
	2	【授業単元】 老化に伴うこととからだの変化と日常生活 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 消化器系 P130～133 P241～246 歯・口腔 P259～265 【到達目標】 加齢に伴う身体機能の低下について学び、日常生活への影響を理解する。高齢者に多い消化器系・歯・口腔の症状・疾患と生活の留意点を学び介護実践に結び付けて考えることができる。				10	【授業単元】 高齢者の疾患・症状の特徴・高齢者に特有な症候 閉じこもり 廃用症候群 老年症候群 P196～200 【到達目標】 これまで学んだ高齢者に多い疾患や症状を振り返り、高齢者の症状や疾患の特徴および高齢者特有な症候について理解を高める。		
3		【授業単元】 老化に伴うこととからだの変化と日常生活 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 呼吸器系 P128～130 P236～241 【到達目標】 高齢者に多い呼吸器系の症状・疾患と生活の留意点を学び、介護実践に結び付けて考えることができる。					11-13	【授業単元】 発達段階と発達課題① P20～34 発達理論/発達段階と発達課題 【到達目標】 発達理論、発達課題を提唱しているピアジェ、エリクソン、バルテス、ハヴィガーストによる各時期の課題などを理解することができる。	
	4	【授業単元】 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 悪性新生物 P265～271 【到達目標】 高齢者に多い悪性新生物 胃がん・大腸がんの生活の留意点を学び、介護実践に結び付けて考えることができる。				11-13		【授業単元】 発達段階と発達課題② P35～65 身体的機能の成長・発達 発達段階別の特徴的な疾病 【到達目標】 誕生から幼児期までの身体的な成長と発達、運動機能の特徴について学び、発達障害や発達段階における特徴的な疾病や障害について理解することができる。	
5		【授業単元】 老化に伴うこととからだの変化と日常生活 血液・循環器系P126～128 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 血液・循環器系P228～236 【到達目標】 加齢に伴う身体機能の低下について学び、日常生活への影響を理解する。高齢者に多い循環器系疾患の症状、生活の留意点を学び、介護実践に結び付けて考えることができる。					14	【授業単元】 発達段階と発達課題③ P177～185 社会における老化理論/老化にともなう社会的な変化と生活への影響 【到達目標】 代表的な老化の理論について理解することができる。	
	6	【授業単元】 老年期の特徴と発達課題 P98～106 老年期のをめぐる今日的課題 演習：歴史背景の年表作成 【到達目標】 少子高齢化について社会背景を基に考え、老年期の人が生きてきた時代背景を踏まえて現在の課題を考えることができる。				14		【授業単元】 後期を通して学んだ内容を振り返り、知識を確認する。 定期試験対策、まとめ。 【到達目標】 後期で学んだ内容を確認し、人の成長発達について考え、高齢者の特徴を理解した生活支援を実践する知識を身につけることができる。	
7		【授業単元】 老化に伴う社会的な変化と生活への影響 P164～173 高齢者の社会活動の現状と課題 就労への影響 P173～177 【到達目標】 高齢者が社会生活を送るなかで直面する課題を理解することができる。					15	【授業単元】 発達と老化の理解の科目内容を確認し、知識を確認する。 定期試験の実施 【到達目標】 発達と老化の理解の科目内容を確認し、国家試験に対応できる知識を身につけることができる。	
	8	【授業単元】 後期を通して学んだ内容を振り返り、知識を確認する。 中試験の実施 【到達目標】 後期で学んだ内容を確認し、人の成長発達について考え、高齢者の特徴を理解した生活支援を実践する知識を身につけることができる。				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。			
【履修に当たっての心構え・留意点】 人の成長過程、ライフサイクルにおける高齢者の心理的、精神的変化とそれに伴う、課題や特徴を学びます。概念や理論など、アカデミックに考える部分と、高齢者を一人の人間と捉え、その人生に寄り添う想像力を持って学習しましょう。					・授業態度、グループワークへの参加状況も評価対象となる				

授 業 概 要

科目名	認知症の理解 I	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	峯崎 茉莉		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
①認知症の人の気持ちを想像し、介護をするときの根拠を話すことができる ②認知症の人の症状が脳のどのような仕組みから起こることか、病気について理解する ③認知症の人が施設や在宅で安心して過ごす方法を考える視点を身につける									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
介護福祉士として介護療養型病院や有料老人ホームで勤務した経験がある教員が、認知症の方の人がどのようなことに困っているかや、介護職がサポートできることについて考えるための授業を行う									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
見て覚える！介護福祉士国試ナビ2026 中央法規出版					授業予定の教科書部分に、事前に目を通して予習をしておくこと 認知症を持つ方がどんなことが不安になるか、力を発揮できる場面などについて学習したことをもとに、想像することを大事にする。				
最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解 第2版 中央法規出版									
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 オリエンテーション 認知症とは何か(今の状況とこれから)			9	【授業単元】 治る可能性のある認知症と、よく似ている病気について				
	【到達目標】 ・認知症高齢者数の推移を説明することができる ・認知症の特徴を説明することができる				【到達目標】 ・治療できる認知症の種類とその治療方法について説明することができる ・認知症とせん妄、うつとアパシーの違いを説明することができる				
2	【授業単元】 認知症の人の心と気持ち(本人の視点から考える)			10	【授業単元】 認知症の診断と評価方法について(長谷川式・MMSEなど)				
	【到達目標】 ・認知症の人のこころの理解のために大切なことが述べられる ・不安や喪失感について説明することができる				【到達目標】 ・認知症の診断基準について説明することができる ・認知機能の評価方法について説明することができる ・認知症の重症度判定について説明することができる				
3	【授業単元】 認知症による生活のしにくさ(生活障害を理解する)			11	【授業単元】 認知症の人を支える社会のしくみと歴史				
	【到達目標】 ・認知症の生活障害の重要性について説明することができる ・IADL、ADL参加の生活障害について説明することができる				【到達目標】 ・認知症ケアの変遷について説明することができる ・認知症施策の流れについて説明することができる				
4	【授業単元】 脳の働きと中核症状(記憶障害・見当識障害など)			12	【授業単元】 認知症ケアの考え方(パーソン・センタード・ケアなど)				
	【到達目標】 ・中核症状とは何かを説明することができる ・代表的な中核症状と脳の病変部位との関係を説明することができる				【到達目標】 ・認知症ケアの理念と倫理について説明することができる ・認知症ケアにおける権利擁護について説明することができる				
5	【授業単元】 認知症の人の行動やBPSDを理解する			13	【授業単元】 認知症の人の思いを尊重したサポート				
	【到達目標】 ・BPSDの定義について説明することができる ・BPSDの分類について説明することができる ・BPSDの要因(背景因子)について説明することができる				【到達目標】 ・認知症の人の思いを理解することの重症性を述べることができる ・認知症の人の体験が生活に及ぼす影響を説明することができる ・認知症の人の思いを尊重したサポート方法について述べることができる				
6	【授業単元】 脳のしくみと認知症の関係			14	【授業単元】 グループホーム実習に向けて(大切なことのまとめ)				
	【到達目標】 ・脳の仕組みと症状が出ることの関連について、理解ができる ・老化と認知症の関係を説明することができる				【到達目標】 ・グループホーム実習において、大切にしたいことを仲間と共有ができる また、試験は筆記試験で行う。 ・自己学習に必要な課題を把握することができる				
7	【授業単元】 代表的な4つの認知症(原因と病気の特徴)			15	【授業単元】 科目のまとめ、振り返り 定期試験				
	【到達目標】 ・認知症の原因疾患の病態について説明することができる ・認知症の原因疾患による病状の違いについて説明することができる				【到達目標】 ・科目の重要なポイントが確認できる ・今後の学習課題を把握する				
8	【授業単元】 第1回授業から第7回授業までのまとめ 中間試験			【成績評価の方法と基準】					
	【到達目標】 ・自分の理解度について確認する ・重要なポイントが確認できる ・今後の学習課題を把握する			科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
【履修に当たっての心構え・留意点】									
認知症の疾患だけを理解するのではなく、1人1人のご利用者によって症状は様々です。そのご利用者の生活環境などを踏まえて、関わろうとする視点を大切にしていきましょう。									

授業概要

科目名	こころとからだのしくみ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	内山 裕美		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	4 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理や人体の構造・機能を理解する									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
看護師として大学病院や介護施設での勤務・大学での教育経験のある教員が、医療現場の実際を交えながら、人間のこころとからだのしくみを理解するための授業を行う									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新・介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ 第2版 中央法規出版									
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1・2	【授業単元】 からだのしくみ 泌尿器系 排泄に関連したこころとからだのしくみ(排尿) 機能低下が排尿に及ぼす影響				17・18	【授業単元】 観察に必要な知識1			
	【到達目標】 ・泌尿器系の名称とはたらきを説明できる ・排泄の意味、排泄における心理を説明できる ・尿の生成、排尿のしくみ(尿の性状、量、回数含む)を説明できる ・機能低下が排尿に及ぼす影響を説明できる					【到達目標】 ・観察に必要な知識を項目ごとに整理することができる グループワーク			
3・4	【授業単元】 排泄に関連したこころとからだのしくみ(排便) 機能低下が排便に及ぼす影響 排泄における変化の気づきと対応				19・20	【授業単元】 観察に必要な知識2			
	【到達目標】 ・便の生成、排便のしくみ(便の性状・量・回数含む)を説明できる ・機能低下が排便に及ぼす影響を説明できる ・排泄に関する観察のポイント、多職種との連携、緊急対応の方法が説明できる					【到達目標】 ・観察に必要な知識を項目ごとに整理することができる グループワーク			
5・6	【授業単元】 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ				21・22	【授業単元】 人生の最終段階に関する「死」のとりえ方 「死」に対するこころの理解			
	【到達目標】 ・入浴、清潔保持の必要性について説明できる ・皮膚や頭皮の汚れと発汗のしくみが説明できる ・入浴の効果と作用、リラクセス、爽快感を感じるしくみが説明できる					【到達目標】 ・死のとりえ方を説明できる ・グループワークを通して、相手を尊重した死生観を考えることができる ・「死」に対する恐怖や不安を説明できる			
7・8	【授業単元】 機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 入浴・清潔保持における変化の気づきと対応				23・24	【授業単元】 終末期から危篤状態、死後のからだの理解 終末期における医療職との連携			
	【到達目標】 ・機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響を説明できる ・入浴や清潔保持に関する観察のポイント、多職種との連携、緊急対応の方法が説明できる					【到達目標】 ・終末期から危篤時の身体機能の低下の状態を説明できる ・終末期から危篤時に行なわれる医療の実際、観察のポイント、介護の役割と医療との連携が説明できる			
9・10	【授業単元】 からだのしくみ 呼吸器系				25・26	【授業単元】 からだのしくみ 血液・リンパ 内分泌系 生殖器官系			
	【到達目標】 ・呼吸器系の名称とはたらきを説明できる					【到達目標】 ・血液・リンパ、内分泌系、生殖器官系の名称とはたらきを説明できる			
11・12	【授業単元】 からだのしくみ 循環器系				27・28	【授業単元】 介護福祉職に必要な薬の知識 こころとからだのしくみの知識の再確認			
	【到達目標】 ・循環器系の名称とはたらきを説明できる					【到達目標】 ・薬の副作用、注意が必要な薬と注意点を説明できる ・国家試験に必要な知識のポイントを確認できる			
13・14	【授業単元】 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ 機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響				29・30	【授業単元】 後期の振り返り 定期試験・解答解説			
	【到達目標】 ・休息と睡眠のしくみについて説明できる ・機能低下が休息と睡眠に及ぼす影響を説明できる ・休息と睡眠に関する観察のポイント、多職種との連携、緊急対応の方法が説明できる					【到達目標】 ・後期の内容を振り返りながら、知識の再習得ができる			
15・16	【授業単元】 第1～14回までの振り返り 中間試験				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 第1～14回の内容を振り返りながら、知識の再習得ができる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
すべての教科につながる授業です。人間のこころやからだに興味を持ちながら、利用者へのケアを安全・安楽に実践することをイメージしながら学習しましょう。									

授業概要

科目名	こころとからだのしくみ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	内山 裕美		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	4 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理や人体の構造・機能を理解する									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
看護師として大学病院や介護施設での勤務・大学での教育経験のある教員が、医療現場の実際を交えながら、人間のこころとからだのしくみを理解するための授業を行う									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新・介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ 第2版 中央法規出版									
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
3・4	【授業単元】 オリエンテーション 健康とは何か 生命を維持するしくみ				17・18	【授業単元】 からだのしくみ 消化器系			
	【到達目標】 ・健康とは何かを説明できる ・生命を維持するしくみを説明できる					【到達目標】 ・消化器系の名称とはたらきを説明できる			
5・6	【授業単元】 からだのしくみ 骨・関節・筋肉				19・20	【授業単元】 食事に関連したこころとからだのしくみ			
	【到達目標】 骨・関節・筋肉の名称とはたらきを説明できる					【到達目標】 ・食事と栄養とは何か説明できる ・食欲・おいしさを感じる(空腹や満腹、食欲に影響する因子の視覚・味覚・嗅覚)しくみを説明できる ・食べるしくみ(咀嚼、嚥下)を説明できる			
7・8	【授業単元】 移動に関連したこころとからだのしくみ				21・22	【授業単元】 心身の機能低下が食事に及ぼす影響 食事に変化の気づきと対応			
	【到達目標】 ・移動の意味、基本的な姿勢や体位保持のしくみを説明できる ・座位、立位保持、歩行のしくみ(重心移動、バランスなどを含む)を説明できる					【到達目標】 ・食事に関連する機能の低下・障害の原因や機能の低下、障害が及ぼす食事への影響を説明できる ・食事に関する観察のポイント、多職種との連携、緊急対応の方法を説明できる			
9・10	【授業単元】 心身の機能低下が移動に及ぼす影響 移動における変化の気づきと対応				23・24	【授業単元】 こころとからだのしくみ 脳・神経系			
	【到達目標】 ・移動に関連した心身の機能低下の原因(麻痺、骨粗鬆症、神経疾患などの病的要因、転倒)を説明できる。 ・機能低下が及ぼす移動への影響(廃用症候群、骨折、褥瘡)を説明できる ・移動に関する観察ポイント、多職種との連携、緊急対応の方法を説明できる					【到達目標】 ・脳、神経系の名称とはたらきを説明できる			
11・12	【授業単元】 からだのしくみ 感覚器系				25・26	【授業単元】 こころのしくみ			
	【到達目標】 ①眼・鼻・②爪・毛髪 ③口腔・歯・舌の名称とはたらきを説明できる					【到達目標】 ・脳とこころのしくみ(学習、記憶、感情、意欲、適応の関係)を説明できる			
13・14	【授業単元】 身じたくに関連したこころとからだのしくみ				27・28	【授業単元】 人間の欲求の基本的理解 自己概念と尊厳			
	【到達目標】 ・身じたくの意味を説明できる ・顔や口腔、毛髪を清潔に保つしくみを説明できる ・更衣をするしくみを説明できる					【到達目標】 ・欲求について説明できる ・自己概念、尊厳について説明できる			
15・16	【授業単元】 心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響 身じたくにおける変化の気づきと対応				29・30	【授業単元】 前期の振り返り 定期試験			
	【到達目標】 ・機能低下が身じたくに及ぼす影響を説明できる ・身じたくに関する観察のポイント、多職種との連携、緊急対応の方法が説明できる					【到達目標】 ・前期の内容を振り返りながら、知識の再習得ができる			
8	【授業単元】 第1～14回までの振り返り 中間試験				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ・第1～14回の内容を振り返りながら、知識の再習得ができる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
すべての教科につながる授業です。人間のこころやからだに興味を持ちながら、利用者へのケアを安全・安楽に実践することをイメージしながら学習しましょう。									

授業概要

科目名	文章表現技法	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	徳岡健男		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
わかりやすい文章の書き方を学ぶ講座です。まず、わかりやすい文章の書き方として相手本位の文章の具体的な書き方を学びます。まず、自己紹介と志望動機書く文章として、つじつまのある文章(論理的に書かれた文章)を学びます。報告書の文章については、特に客観と主観を明確にした報告書の具体例を学びます。特に、報告書では5W1Hを正確に記述することが大切です。実習について、自己紹介シートと実習報告書を書くための準備として有益な講座です。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
サービス業界での実務経験と社会人教育・専門学校教育での教員経験をもつ教員が、論理的でわかり易い文章の書き方を指導します。 また、授業実施後には文章を正確に読む力が身につく、実務に必要なわかりやすい文章を書くレベルに到達できる授業です。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
書名:「日本語練習帳」 岩波新書 大野晋著					日常から文章になじんでほしい。特に新聞記事などを読むことを推奨したい。				
コマ	授業計画			回	授業計画				
1	【授業単元】 文章の書き方①わかり易い文章のポイント。自己PRを具体例として考える。				9	【授業単元】 報告書をわかり易くするために①			
	【到達目標】 実例から、わかり易い文章を考えてみる。					【到達目標】 語彙を増やし表現力をつける。 擬音を用いた文章練習。			
2	【授業単元】 文章の書き方②わかり易い文章のポイント。志望動機を具体例として考える。				10	【授業単元】 報告書をわかり易くするために②			
	【到達目標】 「自己PR」「志望動機」を書く。					【到達目標】 語彙を増やし表現力をつける。 擬音を用いた文章練習。			
3	【授業単元】 文章の書き方③わかり易い文章のポイント。客観と主観を明確に立て分けて記述する。				11	【授業単元】 様々な文章を学ぶ。意見文を書く①			
	【到達目標】 「報告書」で記述すべき内容を知る。5W1Hの意味。					【到達目標】 身近なテーマについて自分の意見を書いてみる。 400字程度で記述。			
4	【授業単元】 報告書作成① 5W1Hを確認。				12	【授業単元】 様々な文章を学ぶ。意見文を書く②			
	【到達目標】 報告書を書くときは、5W1Hをまず考えることができる。					【到達目標】 身近なテーマについて自分の意見を書いてみる。 400字程度で記述。			
5	【授業単元】 報告書作成② 実際の高齢者の生活を表現する。				13	【授業単元】 前期授業のまとめ①			
	【到達目標】 動画①を視聴して、実際に5W1Hを記述する。					【到達目標】 わかり易い文章とは。 読み手が理解しやすい文章のポイントを理解する。			
6	【授業単元】 報告書作成③ 実際の高齢者の生活を表現する。				14	【授業単元】 前期授業のまとめ②			
	【到達目標】 動画②を視聴して、実際に5W1Hを記述する。					【到達目標】 報告書の書き方の基本知識。 5W1Hと客観・主観を理解する。			
7	【授業単元】 1回目授業から6回目授業までの復習。				15	【授業単元】 13回目、14回目の復習した範囲から出題。			
	【到達目標】 わかり易い文章のポイントを理解する。 報告書に記述する5W1Hを理解する。					【到達目標】 解答・解説			
8	【授業単元】 中間試験。 7回目授業で復習した範囲から出題。				【成績評価の方法と基準】 筆記試験は授業で確認した知識の定着度(1回～7回)を確認する。 8回目～14回についても授業で確認した知識の定着度を確認する。8回目の中間試験を40点として、15回目の定期試験を60点とする。合計100点満点で評価する。評価は学則の規定に準ずる。				
	【到達目標】 解答・解説								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
わかり易い文章を心がける。書きを繰り返すことが文章上達のポイント。									

授 業 概 要

科目名	文章表現技法	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	徳岡健男		
学科 コース	社会福祉科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
わかりやすい文章の書き方を学ぶ講座です。また、文章を論理的に読むための講座です。まず、わかりやすい文章の書き方として相手本位の文章の具体的な書き方を学びます。特に客観と主観を明確にした報告書の具体例を学び、実習前の報告書を書くための準備として有益な講座です。そして、文章を論理的に読むために、起承転結や序論・本論・結論などの組み立てを学びます。主旨を正確に読み取る力を養成し、文章の正確な主旨把握、要旨把握は国家試験合格に結びつく力になります。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
サービス業界での実務経験と社会人教育・専門学校教育での教員経験をもつ教員が、論理的でわかり易い文章の書き方を指導する。 また、授業実施後には文章を正確に読む力が身につく、実務に必要なわかりやすい文章を書くレベルに到達できる授業である。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
書名:「日本語練習帳」 岩波新書 大野晋著					日常から文章になじんでほしい。特に新聞記事などを読むことを推奨したい。				
コマ	授業計画			回	授業計画				
1	【授業単元】 天声人語から「起承転結」を学ぶ。				9	【授業単元】 語彙を増やす演習問題と文章修正問題①			
	【到達目標】 文章の組み立てを理解する。					【到達目標】 「伝聞」「外聞」「見聞」等の使い分けができるようになる。 「絶滅」「一掃」「激滅」等の使い分けができるようになる。			
2	【授業単元】 天声人語から「起承転結」を学ぶ。				10	【授業単元】 語彙を増やす演習問題と文章修正問題②			
	【到達目標】 文章の組み立てを理解する。					【到達目標】 「自己満足」「自画自賛」「自信满满」等の使い分けができるようになる。 「はかない、せつない、つたない」等の使い分けができるようになる。			
3	【授業単元】 天声人語から「起承転結」を学ぶ。				11	【授業単元】 語彙を増やす演習問題と文章修正問題③			
	【到達目標】 感想文を書く。わかり易く伝わる文章を意識する。					【到達目標】 「興奮」「動揺」「振動」等の使い分けができるようになる。 「うっかり、ぼんやり、うとうと」等の使い分けができるようになる。			
4	【授業単元】 天声人語から「起承転結」を学ぶ。				12	【授業単元】 語彙を増やす演習問題と文章修正問題④			
	【到達目標】 感想文を書く。わかり易く伝わる文章を意識する。					【到達目標】 「基準」「基礎」「基本」等の使い分けができるようになる。 「ささやく、ほのめかす、つぶやく」等の使い分けができるようになる。			
5	【授業単元】 小論文を書く①論文と作文の違いを学ぶ。				13	【授業単元】 語彙を増やす演習問題と文章修正問題⑤			
	【到達目標】 情緒が中心となり記述される文書と、理性的な文書の違いを理解する。					【到達目標】 「稗便」「順風」「円滑」等の使い分けができるようになる。 「そわそわ、どきどき、はらはら」等の使い分けができるようになる。			
6	【授業単元】 小論文を書く②課題作文を書く。				14	【授業単元】 期末試験の準備			
	【到達目標】 課題作文提出の準備。 文章全体の組み立てを考える。					【到達目標】 語彙問題と文章修正問題の総復習 9回目授業から13回目授業までの重点を理解する。			
7	【授業単元】 小論文を書く③下書きを準備する。				15	【授業単元】 期末試験の実施			
	【到達目標】 文章組み立てをチェックし、文章を書いてみる。					【到達目標】 解答・解説			
8	中間試験。課題作文(小論文)の提出。				【成績評価の方法と基準】 1～7回目までは小論文課題の提出で評価(小テスト分20点)。9～14回目までは筆記試験で行なう。筆記試験は授業で確認した知識の定着度を確認する。9～14回目の授業の中で小テストを実施し、小テスト20点(1～7回の小論文課題20と合わせて40点となる)・定期試験60点、合計100点満点で評価する。評価は学則の規定に準ずる。				
	【到達目標】 解答・解説								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
論理的な文章を読み。論理的な文章を書く。									

授 業 概 要

科目名		介護ICTⅠ	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	高橋 利明	
学科コース		介護福祉士科	学年	1年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】									
2年間にわたって講義を展開する。介護業界の仕組みや国の目指す方向性を理解した上で、「生産性向上」や「業務改善」の視点を理解し、介護のICT化やロボットの活用においてどんなことができるのかその目的を理解する。 個人ワーク、グループワークを通じて、介護現場で「自律協働」ができる社会人となるように必要な視点に気づくことができる。 将来的には現場で業務改善の中心として活躍できる人材となることを目指す。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
社会福祉士・介護福祉士として介護現場で経験を積み、専門学校で介護福祉科の学科長としての経験を有している。さらに、社会福祉法人の特別養護老人ホームにおいて、施設長として介護ロボット導入やICT化に取り組んだ経験をもとに、現在は介護施設のDXコンサルタントとして活動している教員が講義を展開する。授業内容はスマート介護士資格試験内容をベースとしている。授業展開は、グループでの活動を主とする。授業単元において最適な特別講師を交え、対話とワークを中心に展開する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
スマート介護士 公式テキスト(四訂版)＊(ch)は、テキストのチャプターのこと					指定科目の学びの内容と本科目の内容を照らし合わせながら取り組むこと。「介護とは何か?」「何をを目指すのか」を常に念頭におきながら参加すること。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 介護テクノロジーの重点開発分野とは何か				9	【授業単元】 腰痛予防と利用者の安全性(Ch.2)			
	【到達目標】 介護テクノロジーの重点開発分野について、現状と課題を理解する。					【到達目標】 ボディメカニクスとテクノロジーの融合による自立支援を学ぶ			
2	【授業単元】 コミュニケーションロボットの特性(Ch.2)				10	【授業単元】 排泄支援ロボットの体験(体験)			
	【到達目標】 ロボットの特性を理解し、見守りと情報の融合について学ぶ					【到達目標】 排泄予測デバイス等の装着やデータ確認を行い、ケアへの活かし方を考える			
3	【授業単元】 【中間試験】				11	【授業単元】 自立支援とテクノロジーの活用			
	【到達目標】 基礎用語とここまでの理解度を確認する					【到達目標】 生活機能の維持・向上における機器選定の考え方を学ぶ			
4	【授業単元】 移乗支援ロボットの操作体験(Ch.2)				12	【授業単元】 生成AIの活用体験(Ch.2)			
	【到達目標】 (体験)装着型・非装着型機器を使い、身体的負担の変化を感じる					【到達目標】 生成AIを使ってみる			
5	【授業単元】 見守りセンサーの体験(Ch.2)				13	【授業単元】 生成AIの活用体験(Ch.2)			
	【到達目標】 離床やバイタル等のセンサー検知と通知を実際に確認する					【到達目標】 生成AIを使ってみる			
6	【授業単元】 見守りセンサーによる安全管理(Ch.2)				14	【授業単元】 生成AIの活用体験(Ch.2)			
	【到達目標】 事故防止とプライバシー保護、負担軽減の理論を学ぶ					【到達目標】 AIを用いた記録要約や企画案作成など最新技術を試行する			
7	【授業単元】 生成AIの活用体験(Ch.2)				15	【授業単元】 【定期試験】			
	【到達目標】 AIを用いた記録要約や企画案作成など最新技術を試行する					【到達目標】 前期の総括(Beginnerレベル相当)			
8	【授業単元】 前期の学習の振り返り				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 コミュニケーションロボット、見守りセンサーの役割を理解する								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
グループワークや周囲の意見を聞き、または発言し、全員が理解を深めるということを授業の基本スタイルとする。									

授業概要

科目名	介護ICT I	必修選択の別	必修	開講区分	後期	担当教員	高橋 利明		
学科コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
2年間にわたって講義を展開する。介護業界の仕組みや国の目指す方向性を理解した上で、「生産性向上」や「業務改善」の視点を理解し、介護のICT化やロボットの活用においてどんなことができるのかその目的を理解する。 個人ワーク、グループワークを通じて、介護現場で「自律協働」ができる社会人となれるように必要な視点に気づくことができる。 将来的には現場で業務改善の中心として活躍できる人材となることを目指す。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
社会福祉士・介護福祉士として介護現場で経験を積み、専門学校で介護福祉科の学科長としての経験を有している。さらに、社会福祉法人の特別養護老人ホームにおいて、施設長として介護ロボット導入やICT化に取り組んだ経験をもとに、現在は介護施設のDXコンサルタントとして活動している教員が講義を展開する。授業内容はスマート介護士資格試験内容をベースとしている。授業展開は、グループでの活動を主とする。授業単元において最適な特別講師を交え、対話とワークを中心に展開する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
スマート介護士 公式テキスト(四訂版)＊(ch)は、テキストのチャプターのこと					指定科目の学びの内容と本科目の内容を照らし合わせながら取り組むこと。「介護とは何か?」「何をを目指すのか」を常に念頭におきながら参加すること。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 スマート介護士概論①(Ch.1)				9	【授業単元】 情報のデジタル化と活用(Ch.2)			
	【到達目標】 2040年問題と介護現場の変革、スマート介護士の使命を理解する					【到達目標】 記録のデジタル化が多職種連携やケアの質にどう寄与するか学ぶ			
2	【授業単元】 スマート介護士概論②(Ch.1)				10	【授業単元】 科学的介護(LIFE)について(Ch.3)			
	【到達目標】 QOLの向上とICF(国際生活機能分類)の視点からテクノロジーの意義を学ぶ					【到達目標】 LIFEシステムの構成を理解する			
3	【授業単元】 介護報酬についての理解				11	【授業単元】 科学的介護とPDCAサイクル(Ch.3)			
	【到達目標】 最新の介護報酬改定動向と現場のテクノロジー活用の接続を学ぶ					【到達目標】 データに基づく介護(PDCA)の概念と制度の繋がりを学ぶ			
4	【授業単元】 生産性向上ガイドラインを知る				12	【授業単元】 介護テクノロジーの体験			
	【到達目標】 国が推奨する改善プロセスを学ぶ					【到達目標】 (体験)現場で使われている介護テクノロジーはどのようなものがあるかを知る			
5	【授業単元】 生産性向上と業務可視化の理論(Ch.1/4)				13	【授業単元】 制度と現場のつながり			
	【到達目標】 生産性向上の考え方と業務を「仕組み」として捉える視点を持つ					【到達目標】 最新の介護報酬改定動向と現場のテクノロジー活用の接続を学ぶ			
6	【授業単元】 改善活動の準備と意識醸成(Ch.4)				14	【授業単元】 1年のまとめ			
	【到達目標】 組織内での業務改善意識の醸成とマネジメントを理解する					【到達目標】 介護テクノロジーの役割とは何かを理解する			
7	【授業単元】 【中間試験】				15	【授業単元】 【定期試験】			
	【到達目標】 基礎用語とここまでの理解度を確認する					【到達目標】 後期の総括(Basicレベル相当)			
8	【授業単元】 介護記録ソフトの入力体験(Ch.2)				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 タブレット等を用いた入力操作を行い、利便性を実感する								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
グループワークや周囲の意見を聞き、または発言し、全員が理解を深めるということを授業の基本スタイルとする。									

授 業 概 要

科目名	ホスピタリティマインド	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	塚田香織・長谷川知佳		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
養成目的を見据え、介護福祉士としてのホスピタリティマインドを高める。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
①特別養護老人ホーム・有料老人ホーム・グループホーム・初任者研修の講師として従事してきた教員、②グループホーム・特別養護老人ホーム・療養型施設等、多岐にわたり介護福祉士・介護支援専門員として従事してきた教員が、現場の実際を交えながら介護福祉士に必要なホスピタリティを養うための授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
適宜資料をPDFにて提示。					各回の予習・調べ学習や講義後の課題。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 オリエンテーション・学習定着率について 自己責任の習慣について(7つの習慣) 【到達目標】 チームで答えを導き出すことができる。 主体性を理解し、体験を通して主体的な行動をすることができる。			9	【授業単元】 Base(高齢者サロン)実施！ クラス目標立ち返り、感謝と称賛の会 【到達目標】 Base目標 クラス目標から自分の行動を振り返り、今後の行動指針を自分に響くことができる。相手を認めたえあうことができる。				
2	【授業単元】 終わりを思い描くことから始める(7つの習慣) Base(高齢者サロン)準備 【到達目標】 将来をイメージし、やるべきことを自分に約束する。 チームで協同し、高齢者が幸せになる行動を自発的に考えることができる。			10	【授業単元】 実習前準備！ 1組：介護福祉士として災害時の役割や対応を学ぶ 2組：チーム対抗戦！協働ゲーム！ 【到達目標】 実習の準備を整え、気持ちを高めることができるようになる。 1組：地域共生社会・災害時の役割や対応を知る。災害時に必要な知識や応用力を養う。 避難所生活で起きる廃用症候群の予防先、予防体操を学ぶ。 2組：これまでの学びや経験をチームで協働し発揮することができる。				
3	【授業単元】 感謝と称賛の会 Base(高齢者サロン)準備、4月の振り返り 【到達目標】 相手を認めたえあうことができる。 Base(高齢者サロン)の目的、目標を理解することができる。4月を振り返り5月の行動計画を立案することができる。			11	【授業単元】 1組：チーム対抗戦！協働ゲーム！ 2組：介護福祉士として災害時の役割や対応を学ぶ 1組：白鷺特別支援学校の夏祭りボランティアの準備 2組：チーム対抗戦！Kaigo謎解きゲーム 【到達目標】 1組：これまでの学びや経験をチームで協働し発揮することができる。 2組：地域共生社会・災害時の役割や対応を知る。災害時に必要な知識や応用力を養う。避難所生活で起きる廃用症候群の予防先、予防体操を学ぶ。 1組：協働し準備を進めることができる。2組：チームで協働し、謎解きをクリアすることができる。				
4	【授業単元】 Base(高齢者サロン)準備 クラス会議～クラス目標を決めよう～ 【到達目標】 高齢者がやりがいを感じながら活動に参加できるよう、仲間と協働し準備を進めることができる。自分が思い描く心地よいクラスの環境を想像し、相手に意見を伝えることができる。			12	【授業単元】 白鷺特別支援学校の夏祭りボランティアの準備 1組：白鷺特別支援学校夏祭りボランティア実施 2組：白鷺特別支援学校の夏祭りボランティアの準備 【到達目標】 協働し準備を進めることができる。 1組：白鷺特別支援の学生やお客様がお祭りに楽しく参加できるよう、介護職として主体性を持ち、考え行動することができる。 2組：協働し準備を進めることができる。				
5	【授業単元】 Base(高齢者サロン)開催！ クラス会議～クラス目標を決めよう～ 【到達目標】 Base目標 自分が思い描く心地よいクラスの環境を想像し、相手に意見を伝えることができる。			13	【授業単元】 1組：白鷺特別支援学校のボランティア振り返り 2組：白鷺特別支援学校夏祭りボランティア実施 1組：8/28イベント準備 2組：白鷺特別支援学校のボランティア振り返り 【到達目標】 1組：白鷺特別支援学校の学生について理解を深めることができる。 2組：白鷺特別支援の学生やお客様がお祭りに楽しく参加できるよう、介護職として主体性を持ち、考え行動することができる。 1組：学年を超えた交流を想像し、協働しながら準備を進めることができる。 2組：白鷺特別支援学校の学生について理解を深めることができる。				
6	【授業単元】 Base(高齢者サロン)準備 ITリテラシー、中テストに向けて 【到達目標】 高齢者がやりがいを感じながら活動に参加できるよう、仲間と協働し準備を進めることができる。ITリテラシーについて理解をし、試験に合格することができる。			14	【授業単元】 8/28イベント準備 1組：チーム対抗戦！Kaigo謎解きゲーム 2組：8/28イベント準備 【到達目標】 学年を超えた交流を想像し、協働しながら準備を進めることができる。 1組：チームで協働し、謎解きをクリアすることができる。 2組：学年を超えた交流を想像し、協働しながら準備を進めることができる。				
7	【授業単元】 Base(高齢者サロン)準備 中テスト準備 【到達目標】 高齢者がやりがいを感じながら活動に参加できるよう、仲間と協働し準備を進めることができる。中テストに向けて、振り返りをし言語化することができるようになる。			15	【授業単元】 夏休み前大掃除、前期を振り返る、定期試験準備 定期試験 【到達目標】 前期を振り返り、目標に対する課題を抽出し、後期に向けた行動計画を再設定することができる				
8	【授業単元】 前期中間試験 前期中間試験振り返り、成績管理 【到達目標】 自己評価を行うとともに、他者を認め称えることができる。 中間試験を振り返り、自分を認めることができる。成績を整理し、前後半の行動計画を立案することができる。			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
【履修に当たっての心構え・留意点】									
個人ワーク・グループワーク・体験を通して授業を進めていきます。クラス全員で関わり合いながら、取り組んでください。1年生は初めてのことが多いですが、全ては皆さんが将来、社会で活躍し幸せに生きていく糧となります。全員で山を乗り越えます！									

授 業 概 要

科目名	ホスピタリティマインド	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	塚田香織・長谷川知佳		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
養成目的を見据え、介護福祉士としてのホスピタリティマインドを高める。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
①特別養護老人ホーム・有料老人ホーム・グループホーム・初任者研修の講師として従事してきた教員、②グループホーム・特別養護老人ホーム・療養型施設等、多岐にわたり介護福祉士・介護支援専門員として従事してきた教員が、現場の実際を交えながら介護福祉士に必要なホスピタリティを養うための授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
適宜資料をPDFにて提示。					各回の予習・調べ学習や講義後の課題。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 チーム対抗戦！主体的ワーク！				9	【授業単元】 成績管理			
	【到達目標】 自ら一歩を踏み出すことができるようになる。					【到達目標】 成績を整理し、後期後半の行動計画を立案することができる。			
2	【授業単元】 チーム対抗戦！想像ワーク！				10	【授業単元】 自己覚知～自分を知ろう！～			
	【到達目標】 相手の気持ちを想像し、行動することができる。					【到達目標】 他者から見た自分の強みを知ることができる。			
3	【授業単元】 感謝と称賛の会				11	【授業単元】 介護福祉士としてのマナー①(市原先生)			
	【到達目標】 相手を認めたえあうことができる。					【到達目標】 相手の立場に立った対応の仕方を知る。これだけは知っておきたい社会人としての基本ルールを学ぶ。			
4	【授業単元】 クラス目標に立ち返る				12	【授業単元】 介護福祉士としてのマナー②(市原先生)			
	【到達目標】 クラス目標に対して、行動を振り返り、今後の行動指針を再設定することができる。					【到達目標】 相手の立場に立った対応の仕方を知る。これだけは知っておきたい社会人としての基本ルールを学ぶ。			
5	【授業単元】 聞くスキル①(市原先生)				13	【授業単元】 協働のワーク、感謝と称賛の会			
	【到達目標】 90%相手の話を聞くことができる。話を聞いてもらえる感情を知る。話を聞いてもらえない感情を知る。					【到達目標】 クラスで協力し、担任との勝負に勝利することができる。相手を認めたえあうことができる。			
6	【授業単元】 聞くスキル②(市原先生)				14	【授業単元】 定期試験準備、成績管理、大掃除			
	【到達目標】 90%相手の話を聞くことができる。話を聞いてもらえる感情を知る。話を聞いてもらえない感情を知る。					【到達目標】 後期を振り返り定期試験の準備をすることができる。定期試験に向け、目指す点数を自分で管理することができる。			
7	【授業単元】 後期中間試験について				15	【授業単元】 定期試験			
	【到達目標】 後期の前半を振り返り中間試験の準備をすることができる。					【到達目標】 後期に学んだ介護福祉士としてのホスピタリティマインドを発揮し、2年生へ繋げることができる。			
8	【授業単元】 後期中間試験				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 介護福祉士としてのホスピタリティマインドを発揮することができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
個人ワーク・グループワーク・体験を通して授業を進めていきます。クラス全員で関わり合いながら、取り組んでください。1年生は初めてのことが多いですが、全ては皆さんが将来、社会で活躍し幸せに生きていく糧となります。全員で山を乗り越えます！									

授業概要

科目名	社会の理解	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	黒澤 芳恵		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
個人、家族、地域、社会のしくみと、地域における生活の構造についてを学び、生活と社会の関わりや自助・互助・共助・公助の展開について理解できる。 日本の社会保障制度の基本的な考え方としくみ、歴史や変遷について理解するとともに、社会保障制度の現状と課題等を説明できる。 高齢者に関する福祉制度の基本的な考え方としくみ、介護保険制度の内容を理解し、高齢者福祉の現状と課題等を説明できる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
社会福祉士の資格を有し、福祉・保育・看護における教育に携わってきた者が、利用者の生活を支えていくという観点をもち、より能動的に学び、必要な知識を身につけることを目的とした授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新 介護福祉士養成講座2 社会の理解 【第3版】 (介護福祉士養成講座編集委員会) 中央法規出版					授業後は、学習した範囲の教科書やプリント等を見直すなどの復習をしてください。また、関連する他の科目についても確認しましょう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 生活の基本機能、ライフスタイルの変化、家族の機能と役割				9	【授業単元】 介護保険制度② 介護保険制度の利用までの過程			
	【到達目標】 前期の授業の進め方について理解する。 生活の構成要素と現代社会の課題を説明できる。 家族の定義、機能、変化などについて説明できる。					【到達目標】 介護保険サービスの利用手続き、過程について説明できる。			
2	【授業単元】 社会・組織、地域の機能と役割 地域社会における生活支援				10	【授業単元】 介護保険制度③ 介護保険制度における保険給付、介護保険サービス			
	【到達目標】 社会・組織、地域の機能・役割・変化などについて説明できる。 地域社会における生活支援のあり方を理解できる。 地域社会での自助・互助・共助・公助について説明できる。					【到達目標】 介護保険給付の種類と内容について理解できる。 介護保険の各サービスの内容について理解し、述べることができる。			
3	【授業単元】 地域共生社会の実現に向けた制度や施策				11	【授業単元】 介護保険制度④ 介護保険制度における利用者負担			
	【到達目標】 地域福祉の理念や取り組みについて説明できる。 地域共生社会、地域包括ケアの理念や取り組みを理解できる。 介護福祉士の立場から目指す地域づくりについて理解できる。					【到達目標】 介護保険制度における利用者負担のしくみについて説明できる。 利用者負担の軽減制度について説明できる。			
4	【授業単元】 社会保障制度の概念、機能、体系				12	【授業単元】 介護保険制度⑤ 介護保険制度の保険料、財源			
	【到達目標】 社会保障制度の基本的な考え方を理解できる。 社会保障制度の目的、機能、範囲や種類を説明できる。					【到達目標】 介護保険制度の保険料の内容について理解できる。 介護保険制度の財源について説明できる。			
5	【授業単元】 日本の社会保障制度の発達と歴史 近年の社会保障改革				13	【授業単元】 介護保険制度⑥ 介護保険制度における地域支援事業 組織、団体の種類と役割			
	【到達目標】 戦後から現代に至るまでの社会保障制度の歴史を整理できる。 近年行われている社会保障改革の方向性、内容などを理解できる。					【到達目標】 地域支援事業について種類、内容を説明できる。 介護保険制度に関わる組織・団体の種類と役割について説明できる。			
6	【授業単元】 社会保障制度のしくみ 社会保障給付費の推移と現状 社会保障制度の課題				14	【授業単元】 介護保険制度⑦ 介護保険制度における専門職の役割 介護保険制度の改正のまとめ			
	【到達目標】 日本の社会保障制度の実施方式、給付、負担の方法などを説明できる。 社会保障給付費について説明できる。 社会保障制度の課題と改革について理解できる。					【到達目標】 介護保険制度にかかわる専門職の役割について理解する。 介護保険制度改正の流れと動向について整理することができる。			
7	【授業単元】 高齢者保健福祉の動向（高齢化の現状、課題など） 高齢者保健福祉に関連する法体系				15	【授業単元】 前期試験、解答解説、授業の振り返り			
	【到達目標】 日本の高齢者保健福祉の歴史、現状、課題について理解できる。 高齢者保健福祉に関連する法体系の種類、概要について説明できる。					【到達目標】 前期の授業を振り返り、学習を深め、問題に答えることができる。			
8	【授業単元】 中間試験、解答解説 介護保険制度① 介護保険制度の基本的概念				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 これまでの授業を振り返り、学習を深め、問題に答えることができる。 介護保険制度創設までの過程について理解できる。 介護保険制度の目的、理念について説明できる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
知識を積み重ねていくことが重要な科目です。小さな疑問でも早めに解消できるよう、どんなことでも質問してください。									

授業概要

科目名	社会の理解	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	黒澤 芳恵		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
障害児・者に関する福祉制度の変遷や基本的な考え方としくみ、障害者総合支援法の内容を理解し、障害者福祉の現状、課題等を理解し、説明できる。 人間の尊厳と自立に関わる権利擁護や介護実践に関連する制度・施策の基本的な考え方と具体的内容について理解し、説明できる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
社会福祉士の資格を有し、福祉・保育・看護における教育に携わってきた者が、利用者の生活を支えていくという観点をもち、より能動的に学び、必要な知識を身につけることを目的とした授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新 介護福祉士養成講座2 社会の理解 【第3版】 (介護福祉士養成講座編集委員会) 中央法規出版					授業後は、学習した範囲の教科書やプリント等を見直すなどの復習をしてください。また、関連する他の科目についても確認しましょう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 障害者福祉の動向、障害者の定義				9	【授業単元】 介護実践に関連する諸制度① 年金保険の基本的な概要			
	【到達目標】 後期の授業の進め方について理解する。 障害者福祉制度の現状を理解できる。 障害者の定義について説明できる。					【到達目標】 年金保険の概要を理解できる。 国民年金と厚生年金の給付と負担、財源等について説明できる。			
2	【授業単元】 障害者福祉制度の変遷 障害者保健福祉制度の法制度				10	【授業単元】 介護実践に関連する諸制度② 医療保険の基本的な概要			
	【到達目標】 障害者福祉制度の歴史について理解できる。 障害者保健福祉に関連する法律の種類、概要を説明できる。					【到達目標】 医療保険の概要を理解できる。 医療保険の種類、給付と負担、財源等について説明できる。			
3	【授業単元】 障害者総合支援制度① 障害者総合支援制度の創設の背景、目的、理念 制度における障害者の定義				11	【授業単元】 介護実践に関連する諸制度③ 労災保険、雇用保険の基本的な概要 生活保護制度の概要			
	【到達目標】 障害者総合支援法の理念、基本的枠組みについて理解できる。 障害者総合支援法における障害者の定義を説明できる。					【到達目標】 労災保険の概要を理解できる。 雇用保険の概要を説明できる。 生活保護制度の目的、原理原則、種類、内容、手続き、動向等について説明できる。			
4	【授業単元】 障害者総合支援制度② 障害福祉サービスの利用までの過程				12	【授業単元】 介護実践に関連する諸制度④ 権利擁護の諸制度(成年後見制度、各虐待防止法、消費者保護など)			
	【到達目標】 障害福祉サービスの利用手続き、過程について説明できる。 障害支援区分の認定について説明できる。					【到達目標】 成年後見制度、日常生活自立支援事業について概要を説明できる。 各種の虐待防止法について、概要や実態などを説明できる。 消費者保護、個人の権利を守る法制度の概要を説明できる。			
5	【授業単元】 障害者総合支援制度③ 障害者総合支援法の給付・事業の種類、内容				13	【授業単元】 介護領域に関わる保健医療、地域生活を支援する法制度			
	【到達目標】 自立支援給付の種類、内容について説明できる。 地域生活支援事業の種類、内容について説明できる。					【到達目標】 保健医療の各制度について説明できる。 生活習慣病や感染症の予防・対策に関する法制度について説明できる。 地域生活を支援する法制度について説明できる。			
6	【授業単元】 障害者総合支援制度④ 財源と利用者負担のしくみ 相談支援事業の種類と内容				14	【授業単元】 前後期の総復習			
	【到達目標】 障害者総合支援法における財源と利用者負担について説明できる。 相談支援事業の種類や内容について説明できる。 相談支援専門員の役割について説明できる。					【到達目標】 「社会の理解」全体の復習と振り返りができる。			
7	【授業単元】 障害者総合支援制度⑤ 障害者総合支援制度における組織、団体の機能と役割				15	【授業単元】 後期試験、解答解説、授業の振り返り			
	【到達目標】 障害者総合支援制度にかかわる公的、民間の各組織の種類とそれぞれの役割について整理し、説明できる。					【到達目標】 後期の授業を振り返り、学習を深め、問題に答えることができる。			
8	【授業単元】 中間試験、解答解説 障害児・者への法制度のまとめ				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 これまでの授業を振り返り、学習を深め、問題に答えることができる。 障害児・者への法制度全般について理解できる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
知識を積み重ねていくことが重要な科目です。小さな疑問でも早めに解消できるよう、どんなことでも質問してください。									

授業概要

科目名	人間関係とコミュニケーションⅡ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	小野寺 祐		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
これまで学習した人間関係の形成およびコミュニケーションの基本を踏まえ、利用者および家族の状況や心情を理解し、状況に応じた適切な関わりを実践できる能力を身につける。また、チームケアにおける情報共有および連携の重要性を理解し、実習や介護現場ならびに国家試験において適切な判断ができる力を養うことを到達目標とする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
介護現場での実務経験および教育経験を有する教員が担当し、演習や事例検討を中心に授業を行う。利用者や家族への関わり、チームケアの場面を想定した学習を通して、実習や現場および国家試験に対応できる実践的なコミュニケーション能力の習得を目指す。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
学校指定教科書、介護福祉士養成講座テキスト、教員配布資料、事例検討資料および演習教材(ワークシート等)を使用する。					授業内容を振り返り、実習や日常生活で相手の立場を考えた関わりを意識し、配布資料やノートで復習する。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 安心できる関係づくりの基本			9	【授業単元】 傾聴に関する演習				
	【到達目標】 利用者との関わりにおいて安心できる雰囲気や配慮ある態度が重要であることを理解し、基本的な関係づくりの姿勢を理解することができる。				【到達目標】 傾聴の基本について、介護福祉士として適切な関わりを判断できるよう理解することができる。				
2	【授業単元】 傾聴の基本			10	【授業単元】 共感的関わりに関する演習				
	【到達目標】 相手の話を遮らずに最後まで聞くことが信頼関係の形成につながることを理解し、傾聴の基本的な関わり方を理解することができる。				【到達目標】 共感的関わりの基本について、介護福祉士として適切な対応を理解することができる。				
3	【授業単元】 共感的関わりの基本			11	【授業単元】 情報共有とチームケアに関する演習				
	【到達目標】 相手の気持ちを受け止めて寄り添う関わりが安心感につながることを理解し、共感的な関わりの基本を理解することができる。				【到達目標】 報告・連絡・相談および情報共有の重要性について、介護福祉士として適切な判断ができるよう理解することができる。				
4	【授業単元】 チームにおける情報共有の基本			12	【授業単元】 組織とチームケアに関する演習				
	【到達目標】 介護はチームで支えるものであることを理解し、報告・連絡・相談および情報共有の重要性を理解することができる。				【到達目標】 チームで支援する際の役割理解と連携の重要性について、介護福祉士として対応できる理解を深めることができる。				
5	【授業単元】 組織とチームケアの理解			13	【授業単元】 人材育成とチーム支援に関する演習				
	【到達目標】 介護サービスは組織およびチームで提供されていることを理解し、役割分担と協力による支援の重要性を理解することができる。				【到達目標】 職員同士の学び合いや支援の重要性について、介護福祉士として適切な判断ができるよう理解することができる。				
6	【授業単元】 人材育成とチームでの成長			14	【授業単元】 総合演習および振り返り				
	【到達目標】 職員同士が学び合い支え合うことで支援の質が向上することを理解し、チームの一員として成長していく意識を持つことができる。				【到達目標】 これまでの学習内容を総合的に振り返り、介護福祉士として適切な関わりを判断を理解することができる。				
7	【授業単元】 前半振り返りおよび定期試験			15	【授業単元】 学習内容の総合振り返りおよび定期試験				
	【到達目標】 これまで学習した内容を整理し、関わりの基本の理解を確認することができる。				【到達目標】 これまで学習した関わりの基本を介護福祉士として対応する判断について、振り返り整理するとともに、定期試験を通して学習内容の理解を確認することができる。				
8	【授業単元】 関係づくりの基本に関する演習			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
	【到達目標】 安心できる関わりの基本について、介護福祉士として適切な対応を判断できるよう理解することができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
演習に積極的に参加し、他者の意見を尊重するとともに、学んだ関わりを実習や現場で活かす姿勢で履修することが良い。									

授 業 概 要

科目名	地域共生学Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	足立昌紀		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
なぜ今地域共生社会の実現を求めるのか。その先にどのようなことを見ているのか、福祉、介護の専門職として何を目指していかなければならないのか、今後の日本の人口構造や行政、制度背景を知り、介護に携わる専門職としてどのように関わるのかを考えることができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
現在、高齢者の介護実践現場にて働いている教員がこれまでの地域との関わりを通じて視点を基に、地域からの声も交え情報提供。学生は介護の視点のみならず、多角的な視点でそれらを考察し、メインとしては自らの考えに固執することなく他者の考えを柔軟に取り入れられるよう、学生が主体となれるような講義とする。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
特定の教科書は無し。配布資料を参考に学びを深め、他者の発表なども参考にしながら独自の学習資料を作成する。					日ごろから地域共生に関わるものに関心を持ち、情報収集しておく。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 「地域共生社会」とは、また、「地域」とは何かを確認し、現在求められている「地域共生社会」について深める。				9	【授業単元】 社会の秩序が保たれるために必要な決まり(ルール)の必要性和、やむを得ず対応する狭間について考えることができる。			
	【到達目標】 地域というワードでイメージしているものは何かを確認し、お互いの価値観を受容できるようになる。また、地域共生社会について他者に説明できるようになる。					【到達目標】 他人の権利、自分の権利をどのように尊重、主張し、自身に課せられた立場で対応するのかを考えることができる。			
2	【授業単元】 地域共生に向けて他者との繋がりを強化するために、他者の考えを受け入れられるようになる。				10	【授業単元】 社会の理解の授業の中で出てきた内容を地域共生の視点から再度確認し、説明できるようになる 1			
	【到達目標】 他者の多様な考えについて受け入れられる許容量を持ち、お互いを尊重できる。					【到達目標】 社会の理解の授業で習った内容から、講師が項目を指定。各グループで再度調べ、他者に分かるように説明できるようになる。			
3	【授業単元】 「地域共生」に向けて、自己と他者の考えを比較できる。				11	【授業単元】 社会の理解の授業の中で出てきた内容を地域共生の視点から再度確認し、説明できるようになる 2			
	【到達目標】 他者の多様な考えを受け入れるためにどのようなことが必要か、また比較したのちにどのような考えの変化があったのかを知ることができる。					【到達目標】 社会の理解の授業で習った内容から、講師が項目を指定。各グループで再度調べ、他者に分かるように説明できるようになる。			
4	【授業単元】 世間での「配慮事項」について考え、賛成意見と反対意見の双方の視点から意見を述べることができる1				12	【授業単元】 社会の理解の授業の中で出てきた内容を地域共生の視点から再度確認し、説明できるようになる 3			
	【到達目標】 世間の配慮事項を考え、見つけ、個人の意見とグループの意見のすり合わせを行うと同時にその違いを受け入れることができる。					【到達目標】 社会の理解の授業で習った内容から、講師が項目を指定。各グループで再度調べ、他者に分かるように説明できるようになる。			
5	【授業単元】 世間での「配慮事項」について考え、賛成意見と反対意見の双方の視点から意見を述べることができる1				13	【授業単元】 介護福祉士として地域共生社会の実現に貢献できることを考える 1			
	【到達目標】 個人の意見とグループの意見のすり合わせを行い、効率と公正の立場からその必要性について考えることができる。					【到達目標】 自治体の施策との関係性、活用できる制度やサービス、インフォーマルな資源に着目し、介護福祉士として専門性を活かした視点や実践を示すことができる。			
6	【授業単元】 「社会福祉問題」を自らの日常生活に結びつけることができる 福祉問題の原因や背景まで考えることができる				14	【授業単元】 介護福祉士として地域共生社会の実現に貢献できることを考える 2			
	【到達目標】 福祉教育、地域共生について学び、重層的な支援体制整備事業を絡めて考えることができる。地域共生社会の実現に向けて、自分たちが興味を持った地域を基にどのような構造であるのかを確認。グループで発表できる。					【到達目標】 地域共生社会が目指す「4つの柱」と地域包括ケアシステムとの連動について関係性を考えながら、自身の考える実践について説明する。そのための資料を作成することができる。			
7	【授業単元】 地域共生社会の実現に向けて、課題を考えることができる。				15	【授業単元】 実践活動報告			
	【到達目標】 5回目に調べた内容から、地域共生社会の実現に向けて、今後介護福祉士として取り組むべきテーマを考え発表することができる。 地域共生社会を実践するにあたってのプロセスを理解し、行動計画を立てることができる。また、それを自らまとめた資料を作成することができる。					【到達目標】 介護福祉士として、もしくは、地域住民として、地域共生社会の実現を取り組んでいく視点を明確にし、具体的な行動をイメージし、発表することができる。			
8	【授業単元】 介護福祉士として地域共生社会の実現に貢献できることを考える。(中間テスト)				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 中間テストは8回目のプレゼンテーションの教員と他已評価で換算する。 定期試験は13回目、もしくは14回目のプレゼンテーションの評価と15回目の論述試験を換算する。				
	【到達目標】 プレゼンテーション、および質疑応答を通して自身が取り組むテーマについて他者に説明することができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
クラスメイトやグループメンバーの価値観や得意不得意を尊重して取り組むことが求められます。みなさんの多様な価値観やアイデアに対して関心をもって聞くことができることを期待します。									

授 業 概 要

科目名	介護の基本Ⅲ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	渡邊尚太		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
その人らしい生活を支援する専門職として基本となる考え方や姿勢を学び、介護福祉士として理解しておく事項の学びを深める									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
介護職経験者である者が、介護サービスが介護福祉士にチームマネジメントが求められる背景と全体像について講義し、多職種協働のあり方や、チームの力を最大限に発揮する取り組みの理解が深まるよう授業します。また、人材育成・自己研鑽について、事例を挙げ、学びます。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
国試ナビ									
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 国試ナビ216頁～ 導入(介護の基本的理解) 社会福祉士及び介護福祉士法(介護福祉士とは？・欠格事由・義務規定)				9	【授業単元】 介護の基本的視点(施設での介護・事故防止)			
	【到達目標】 導入 介護福祉士の基本理念を確認すること 介護福祉士を取り巻く状況を整理し、現代の介護福祉士としての役割を確認する					【到達目標】 施設での介護の基本的視点、事故防止の基本的理解の再確認			
2	【授業単元】 国試ナビ216頁～ 社会福祉士及び介護福祉士法(介護福祉士とは？・欠格事由・義務規定)				10	【授業単元】 介護の基本的視点(レクリエーション・介護従事者の心身の健康管理)			
	【到達目標】 介護福祉士の基本的理解の再確認					【到達目標】 介護従事者の健康管理の重要性と職業病の理解			
3	【授業単元】 社会福祉士及び介護福祉士法(義務規定・日本介護福祉士会倫理綱領)				11	【授業単元】 介護の基本的視点(災害対策・災害時の計画)			
	【到達目標】 福祉・介護の歴史の変遷を学び、現在の「介護」に至るまでの過程を学び、介護福祉士に求められる役割を確認する					【到達目標】 介護福祉職に求められる災害時の対応の基本的再確認			
4	【授業単元】 社会福祉士及び介護福祉士法(義務規定・日本介護福祉士会倫理綱領)				12	【授業単元】 ICF			
	【到達目標】 介護福祉士の役割を学び、その根拠となる法律の変遷を理解することで、求められる役割を再確認する					【到達目標】 ICFの基本的理解と構成要素の具体的理解と再確認			
5	【授業単元】 自立に向けた介護(国試ナビ218頁～)生活援助の基本的視点・エンパワメント・QOL				13	【授業単元】 睡眠の介護(国試ナビ256頁～)			
	【到達目標】 自立に向けた介護の基本的視点の再確認					【到達目標】 睡眠のしくみなど睡眠の基本的知識の再確認			
6	【授業単元】 自立に向けた介護・援助関係 (ICF・意識決定・自己覚知)				14	【授業単元】 視覚障害・聴覚障害者への介護(国試ナビ258頁～)			
	【到達目標】 自立に向けた介護の援助関係についての基本的理解の再確認					【到達目標】 視覚障害者・聴覚障害者への基本的対応の再確認			
7	【授業単元】 感染症対策・身体拘束(国試ナビ219頁～)				15	【授業単元】 期末テスト			
	【到達目標】 介護における感染症の理解および身体拘束廃止について					【到達目標】			
8	【授業単元】				【成績評価の方法と基準】				
	中テスト				出席日数 授業態度 試験				
【履修に当たっての心構え・留意点】									

授 業 概 要

科目名	介護の基本Ⅲ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	渡邊尚太		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援する為の仕組みを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
介護職経験者である者が、介護サービスが介護福祉士にチームマネジメントが求められる背景と全体像について講義し、多職種協働のあり方や、チームの力を最大限に発揮する取り組みの理解が深まるよう授業します。また、人材育成・自己研鑽について、事例を挙げ、学びます。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
介護福祉養成講座 介護の基本Ⅱ									
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 第1章 介護福祉を必要とする人の理解 第1節 私達の生活の理解				9	【授業単元】 第3章 介護における安全の確保 第1節 介護における安全の確保 第2節 リスクマネジメントとは何か			
	【到達目標】 介護福祉士を必要とする人の理解と同時に私達がどのように生活が成り立っているかを学ぶ					【到達目標】 介護におけるリスクマネジメントを学び、現場での事故対策に活かす			
2	【授業単元】 第2節 介護福祉を必要とする人たちの暮らし				10	【授業単元】 第3節 感染症対策 様々な感染症対策とその意義			
	【到達目標】 介護福祉士を必要とする人たちの理解を深め、その立場に立った考え方を学ぶ					【到達目標】 感染症対策を学び、現場での感染症対策に活かす。			
3	【授業単元】 第3節 「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解 「その人らしさ」とは何か				11	【授業単元】 第4章 協働する多職種の機能と理解 第1節 多職種連携・協働の必要性 第2節 多職種連携・協働に求められる基本的な能力			
	【到達目標】 「その人らしさ」と「自分らしさ」の違いを認識し、その人らしさの為の真のニーズの探り方を学ぶ					【到達目標】 協働する多職種の機能を学び、理解を深める IPW/IPE			
4	【授業単元】 第4節 生活のしづらさの理解と支援 生活のしづらさについて考える				12	【授業単元】 第3節 保険・医療・福祉職の役割と機能 第4節 多職種連携・協働の実際			
	【到達目標】 障害を負われた方々の生活障害を学ぶ					【到達目標】 多職種連携の実際を学び、現場での連携方法についての学びを深める			
5	【授業単元】 第2章 介護福祉を必要とする人の生活を支える仕組み 第1節 生活を支えるフォーマルサービス				13	【授業単元】 第5章 介護従事者の安全 第1節 健康管理の意義と目的 第2節 心の健康管理			
	【到達目標】 生活を支えるフォーマルサービスの種類と活用方法を学ぶ					【到達目標】 介護職員自身の健康管理の意義を学び、就業の際のストレスマネジメントの理解を深める			
6	【授業単元】 第2節 生活を支えるインフォーマルサービスとは 私的サービスとは				14	【授業単元】 第3節 身体の健康管理 第4節 労働環境の整備			
	【到達目標】 生活を支えるインフォーマルサービスの種類とその活用方法を学び、実践例を学ぶ					【到達目標】 介護職自身の身体の健康管理と、職場の労働環境及び労働関係法令を学ぶ			
7	【授業単元】 第3節 地域連携とは 地域連携の意義と目的				15	【授業単元】 期末テスト			
	【到達目標】 地域連携の意義と目的を学び、地域連携の実践例を学ぶ					【到達目標】 ⑨～⑬到達度の確認			
8	【授業単元】				【成績評価の方法と基準】				
	中テスト				出席日数 授業態度 試験				
【到達目標】 ①～⑦到達度の確認									
【履修に当たっての心構え・留意点】									

授業概要

科目名	コミュニケーション技術Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	小野寺 祐		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1年次に学習した人間関係形成およびコミュニケーションの基本を踏まえ、利用者および家族の状況や心情を理解し、場面に応じた適切な関わりを実践できる能力を身につける。また、チームケアにおける連携および情報共有の重要性を理解し、実習や介護現場ならびに国家試験において適切な判断と対応ができる力を養うことを到達目標とする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
介護現場での実務経験および教育経験を有する教員が担当し、事例検討や演習を中心に授業を行う。利用者・家族対応やチーム連携の場面を想定した学習を通して、実習や介護現場および国家試験に対応できる実践的なコミュニケーション能力の習得を目指す。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
学校指定教科書、介護福祉士養成講座テキスト、配布資料、事例検討資料および演習教材(ワークシート等)を使用する。					授業内容を振り返り、実習や日常生活において相手の立場を考えた関わりを意識して実践するとともに、配布資料やノートを用いて復習し理解を深める。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 安心できる関わりの実践確認			9	【授業単元】 傾聴技術の実践応用演習				
	【到達目標】 利用者が安心して関われるよう、態度や声かけ、環境への配慮の重要性を再確認し、状況に応じて適切な関わりを実践できるよう理解を深めることができる。				【到達目標】 傾聴の基本を踏まえ、実習や介護福祉士として適切な対応を選択できる。				
2	【授業単元】 傾聴技術の実践活用			10	【授業単元】 共感的関わりへの応用演習				
	【到達目標】 相手の話を尊重して聞く姿勢が信頼関係の形成につながることを再確認し、状況に応じた傾聴を実践できるよう理解を深めることができる。				【到達目標】 利用者の気持ちに寄り添う関わりについて、状況に応じた適切な対応を判断し実践につなげることができる。				
3	【授業単元】 共感的関わりの実践			11	【授業単元】 認知症利用者対応の応用演習				
	【到達目標】 相手の気持ちに寄り添う関わりが安心感につながることを再確認し、適切な共感的関わりを実践できるよう理解を深めることができる。				【到達目標】 認知症利用者への声かけや関わりについて、適切な対応を選択し説明できる。				
4	【授業単元】 認知症利用者への対応の実践			12	【授業単元】 家族支援における関わり応用演習				
	【到達目標】 認知症のある利用者の不安や混乱を理解し、状況に応じて安心できる関わりを実践できるよう理解を深めることができる。				【到達目標】 家族の思いや状況に配慮した関わりについて、適切な対応を判断し実践場面で活用できる。				
5	【授業単元】 家族支援における関わりの実践			13	【授業単元】 チームケアにおける連携応用演習				
	【到達目標】 家族の思いや不安を理解し、利用者および家族双方に配慮した関わりを実践できるよう理解を深めることができる。				【到達目標】 チーム内での情報共有や連携について、適切な行動を選択し説明できる。				
6	【授業単元】 チームケアにおける連携の実践			14	【授業単元】 総合場面別演習および振り返り				
	【到達目標】 チームで支援する際の報告・連絡・相談および情報共有の重要性を再確認し、適切に実践できるよう理解を深めることができる。				【到達目標】 学習した関わり方を総合的に整理し、状況に応じた対応を選択し活用できる。				
7	【授業単元】 前半学習内容の振り返りおよび定期試験			15	【授業単元】 学習内容の総合振り返りおよび定期試験				
	【到達目標】 これまで学習した関わり方の基本を振り返り整理するとともに、定期試験を通して学習内容の理解を確認することができる。				【到達目標】 学習した関わり方および国家試験に対応する判断について整理し、定期試験を通して理解の定着を確認することができる。				
8	【授業単元】 関係づくりの実践活用演習			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
	【到達目標】 利用者が安心して関われる態度や声かけ、環境への配慮について、場面に応じた適切な関わり方を説明し活用できる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
演習や事例検討に積極的に参加し、他者の意見を尊重しながら学習に取り組むとともに、学んだ関わりを実習や現場で活かし、国家試験に対応できる理解の定着を目指して主体的に学習することが良い。									

授 業 概 要

科目名(英)	生活支援技術Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	長尾洋江/善波智子		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	2 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
・全ての技術に対して根拠が言える ・利用者の生まれ育った時代背景を大切に介護が実践できる ・疾患、障害に応じた技術がイメージでき、技術展開できる。 ・誰が見ても安心で美しい介護技術を実践できる									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
医療・福祉(高齢者・しょうがいしゃ)分野で現在も勤務している教員が担当する。									
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】					
中央法規 最新介護福祉士養成講座6 生活支援技術ⅠⅡⅢ				・予習/復習/実技試験のための練習					
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1・2	【授業単元】 授業の進め方 1年次に習った技術の総点検①			17・18	【授業単元】 ・免疫機能不全/難病/重症心身障害をもつ方への介護展開方法を学ぶ				
	【到達目標】 事例問題に挑戦し、現在の力量を把握する ・ベッドメイキング/シーツ交換/体位変換/移乗 ・利用者から信頼される所作・立ち居振る舞いができる				【到達目標】 (技術)最重度利用者のベッド上ケアが展開できるようになる (知識)各疾患の再履修で理解を深め、利用者のQOL向上のために必要な知識を習得する				
3・4	【授業単元】 1年次に習った技術の総点検②			19・20	【授業単元】 ・生活支援技術総復習①				
	事例問題に挑戦し、現在の力量を把握する ・衣類着脱/排泄/保清 ・利用者から信頼される所作・立ち居振る舞いができる				【到達目標】 ・事例問題を読み、必要なケアを考え、時間内で技術展開できるようになる ・利用者が信頼できる所作・立ち居振る舞いができる				
5・6	【授業単元】 肢体不自由を持つ方への介護技術展開方法を学ぶ			21・22	【授業単元】 ・生活支援技術総復習②				
	【到達目標】 (技術)安全・安心・利用者のやる気を引き出す移乗方法/移動方法 (知識)片麻痺/パーキンソン病の理解を深める ・利用者が信頼できる所作・立ち居振る舞いができる				【到達目標】 ・事例問題を読み、必要なケアを考え、時間内で技術展開できる ・利用者が信頼できる所作・立ち居振る舞いができる				
7・8	【授業単元】 ・視覚/聴覚/重複障害を持つ方への介護展開方法を学ぶ			23・24	・生活支援技術総復習③				
	【到達目標】 (技術)モデル体験を通じコミュニケーションの取り方を学ぶ (知識)視覚・聴覚・重複障害とは何かを復習し、理解を深める ・利用者が信頼できる所作・立ち居振る舞いができる				【到達目標】 ・事例問題を読み、必要なケアを考え、時間内で技術展開できる ・利用者が信頼できる所作・立ち居振る舞いができる				
9・10	【授業単元】 ・心臓/呼吸器/腎臓機能障害を持つ利用者への介護展開方法を学ぶ			25・26	【授業単元】 生活支援技術総復習④				
	【到達目標】 (技術)安楽な姿勢とポジショニング (知識)各疾患の再履修で理解を深め、体調変化時の対応方法がわかる ・利用者が信頼できる所作・立ち居振る舞いができる				【到達目標】 ・事例問題を読み、必要なケアを考え、時間内で技術展開できる ・利用者が信頼できる所作・立ち居振る舞いができる				
11・12	【授業単元】 ・膀胱/直腸/小腸/肝機能障害を持つ方への介護展開方法を学ぶ			27・28	【授業単元】 期末試験(実技)				
	【到達目標】 (技術)医療機器を取り付けた利用者の排泄支援方法を学ぶ (知識)泌尿器・消化器疾患の再履修で理解を深め、介護福祉士関わる業務範囲を学ぶ ・利用者が信頼できる所作・立ち居振る舞いができる				【到達目標】 期末試験全員合格				
13・14	総復習 1～7回目で学んだことの総復習			29・30	【授業単元】 期末試験(筆記)				
	【到達目標】 ・今までやってきた内容を再度行い、自信をつける ・中テスト合格に向けて知識・技術を再履修する ・利用者が信頼できる所作・立ち居振る舞いができる				【到達目標】 期末試験全員合格				
15・16	【授業単元】 中テスト ①知識に関するテスト ②期末試験(実技試験)内容の発表			【成績評価の方法と基準】 ・小テスト:筆記試験で行う。10問出題し1問0.5点で計算し5点満点とする ・中テスト:筆記試験15問 15点満点とする。 ・期末テスト:筆記試験15問 15点満点とする。実技試験1問5点満点 計20点満点とする。 ※実技試験不合格者は当日再試験を行う。					
	【到達目標】 ・筆記試験全員合格 ・期末試験(実技)の練習をし合格を目指す ・利用者が信頼できる所作・立ち居振る舞いができる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									

授業概要

科目名	生活支援技術Ⅲ(調理・家政)	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	(調理)大場 泉		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
座学による栄養調理の知識を習得と実習による実践的な技術の習得をし、食事支援の技術を身につけ、利用者に合わせた食事援助が実践できるようになる 災害時の食支援についても、適切に実践的な対応ができるようになる									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
特別養護老人ホームで、栄養管理、衛生管理、利用者の食支援を行った経験のある講師が、実際の現場で必要とされる食事支援についてを講義する									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
生活支援技術Ⅰ 生活支援技術Ⅲ(中央法規出版)					日常生活の中で、調理に使用する器具や食器、食材などに興味を持ち、適切な使用方法などを調べる				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 授業で学ぶ内容について 買い物支援について 【到達目標】 授業で学ぶ内容を理解し、意欲を持って実習に取り組めるようになる 買い物を頼まれた時の注意点を理解し、適切な買い物支援ができる 買い物した後の領収書の受け取り方や記載の仕方など買い物の処理についても、適切に行うことができる				9	【授業単元】 【到達目標】			
2 3	【授業単元】 高齢者の特性について学び、理解する 日本料理のマナーについて理解する 調理実習室の使い方について理解する 【到達目標】 高齢者の特性について学び、適切な食事とはどのような食事が実習を通して理解し、適切な食支援を行うことができる 日本の食のマナーについて理解し、正しいマナーで食事をとおくことができる				10	【授業単元】 【到達目標】			
4 5	【授業単元】 食品の衛生的で安全な取り扱いについて学ぶ 後片付けや、適切な方法を理解する 【到達目標】 食中毒の基礎知識について学び、食品を衛生的に安全に取り扱うことができる 食器や器具を安全に衛生的に取り扱うことができる				11	【授業単元】 【到達目標】			
6 7	【授業単元】 栄養の基礎知識を習得する それぞれの栄養素の働きと栄養のバランスとは、何かを理解できる 中間テストを実施する 【到達目標】 低栄養状態とはどんな状態なのかを判定できる フレイル、サルコペニア、PEMの意味を理解し、改善するために、適切な栄養補給を行なうことができる				12	【授業単元】 【到達目標】			
8 9	【授業単元】 高齢者の疾病による食事支援で治療食を理解する 糖尿病、高血圧、腎疾患、COPDなどの治療食で控えるもの、おいしく食べるための工夫を理解できる 【到達目標】 治療食を理解し、それを食事に反映するには、適切な調整を行なうことができる。 治療食を行いながらも、おいしく食べる工夫をすることができる				13	【授業単元】 【到達目標】			
10 11	【授業単元】 行事食について 郷土料理について その他イベント食について 【到達目標】 行事食について理解を深め、施設での行事を適切に行うことができる 日本の行事について理解し、この行事はなんのために行うのか説明することができる				14	【授業単元】 【到達目標】			
12 13	【授業単元】 嚥下調整食について 嚥下調整食の基準について理解する 【到達目標】 嚥下調整食の学会基準のコードを理解し、嚥下状態に適した食事を提供するためにアセスメントを行うことができる 食事形態における多職種連携を行なうことができるようになる				15	【授業単元】 【到達目標】			
14 15	【授業単元】 災害時の食支援について 全体のまとめ・復習 期末テストの実施 【到達目標】 災害時の二次被害を防ぐための支援を行なうことができる。 バッククッキングなど災害時の食支援を実践できる 座学と調理実習を通して学んだことの理解度を期末テストで図る				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 授業時の小テストは、2・3回、4・5回、8・9回、10・11回、12・13回を各5点満点とし、6・7回を中テストとしては15点満点とする。 その合計は40点満点として評価する				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
調理実習にあたっては、安全を心がけ、真摯に取り組む 調理実習の準備や後片付けも授業の一部と考えて行う 授業の予習、復習を行う									

授 業 概 要

科目名	生活支援技術（調理・家政）	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	（家政）馬場 千草		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
ほんにゆたたい せいかつび けいぞく きほんてき かじ かんきぜいび せんたくそうじ かんたんぬ ぶつ まな 本人主体の生活を維持継続するための基本的な家事（環境整備・洗濯・掃除・簡単な縫い物）を学ぶ。									
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）									
介護福祉士として、障害者支援施設、訪問介護事業所、介護老人福祉施設での勤務経験あり。介護福祉士国家資格取得のためのサポート及び、介護福祉職のスキルアップと、介護福祉職が「幸せ」であるために、新しい介護・幸せな介護・楽しい介護を伝えます。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新 介護福祉士養成講座 6生活支援技術Ⅰ「第2版」（介護福祉士養成講座編集委員会）中央法規出版					よしやふくしゅうくしゅう 予習復習 : テキストを読む、 ようご しら 用語を調べる。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 おりえんてーしょん オリエンテーション				【授業単元】				
	【到達目標】 せいけい けい りかい かせい ちようり わ じゆぎようしんこう ・生活支援について理解する。家政と調理に分かれて授業が進行するこ とを理解する				【到達目標】				
2.3	【授業単元】 かていけいえいようしゆほご せいど りかい 家庭経営・消費者保護制度について理解する				【授業単元】				
	【到達目標】 かてい けいえい かね きほん し こうれいき かね とくちよう し あくしつ ・家庭経営（お金の基本）知り高齢期におけるお金の特徴を知る ・悪質 商法の種類について調べ学習し対処方法を理解する				【到達目標】				
4.5	【授業単元】 ひふく かんり ひふく そざい とくちよう し いらい かんり まな 被服の管理①：被服の素材と特徴を知り衣類の管理について学ぶ				【授業単元】				
	【到達目標】 ひふく そざい とくちよう せんたく しやうのう ほうほう しら がくしやう りかい ふか 被服の素材や特徴、洗濯、収納の方法を調べ学習にて理解を深める。				【到達目標】				
6.7	【授業単元】 せんたく ひやうじ みかた せんたく ひやうじ し たいわう 洗濯表示の見方、洗濯表示を知り対応できる				【授業単元】				
	【到達目標】 せんたく ひやうじ わか せんたく せんたく マーククイズを用いて覚える				【到達目標】				
8.9	【授業単元】 さいほう いらい ほしやう りかい ちゆう 裁縫①：衣類の補修について理解する : 中テスト				【授業単元】				
	【到達目標】 てめ ほうほう てめ たいけん とくちよう め かた ちが し てめ ・手縫いの方法：手縫いを体験し特徴と縫い方の違いを知る ・手縫い の目的により縫い方、方法が違うことをグループ学習にて理解する				【到達目標】				
10.11	【授業単元】 じやうたくな い お じに し かいてき あんぜん じやうかんきやう りかい 住宅内で起こる事故を知り、快適で安全な住環境について理解する				【授業単元】				
	【到達目標】 じやうかんきやう きほん せいど りかい かいてき じやうかんきやう せつけい 住環境の基本と制度を理解する。快適な住環境を設計する				【到達目標】				
12.13	【授業単元】 さいがい に かいごしよく やくわり りかい 災害時における介護職の役割について理解する				【授業単元】				
	【到達目標】 さいがい いぎ じたいけん てきせつ たいわう りかい さいがい いぎ たしよくしゆ れんけい 災害疑似体験し適切な対応について理解する。災害時の多職種連携と 介護福祉職の役割について知る				【到達目標】				
14.15	【授業単元】 こうぎ えんしやう ふ かえ きまつしけん 講義演習の振り返り： 期末試験				科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト、課題提出等40%の配分 で総合し、AからFの6段階で評価を行う。また、試験は筆記試験で行う。毎回 授業の小テスト、課題提出は、各回5点満点とし、中テスト（8回目授業で実施） は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数 が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ぜいいかつまんじよ もぎもんだい と りかい ふか 生活援助の模擬問題を解き理解を深める								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
テキスト・国家試験ナビを必ず準備して授業に参加すること									

授業概要

科目名	介護過程Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	森 伸彦(おだい介護サービス)・武田 瑞希		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	4 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
利用者の望む生活の実現に向けて生活課題を分析し、科学的根拠に基づいて多様なニーズに対応した介護過程を展開する能力を身につける。 根拠に基づいた介護を実践するために、チームケアの構成員として自らの考えや判断を適切に伝達するコミュニケーション能力を習得する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
介護福祉士および介護支援専門員としての実務経験と、サービスの品質管理に携わってきた専門性を基盤に、介護過程の理解と実践力を育成する授業を行う。利用者理解、アセスメント、計画立案、実施、評価の一連のプロセスを、事例検討と演習を通して体系的に学べる内容とする。授業の進度に応じて、扱う事例や演習内容を調整する場合がある。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
中央法規出版(株) 最新 介護福祉士養成講座9 介護過程 第2版					授業で学んだ介護過程の視点を日常にも広げ、人が安心して生活するための要素に関心を向ける習慣を育てる。日常の気づきを学習内容と結びつけ、介護の経験として蓄積する姿勢を身につける。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
① 1 ・ 2	【授業単元】 ・オリエンテーション(自己紹介・授業の方針や約束事、到達すべき目標の確認等) ・介護福祉士が行う介護過程の意義と目的を再確認。 【到達目標】 ・授業の方針、介護過程の到達目標を共有することができる。 ・介護過程の意義と目的を改めて理解することができる。 ・「アセスメント」の重要性等について理解することができる。				⑨ 17 ・ 18	【授業単元】 ・中間試験の回答解説。 ・事例③をもとに潜在的なニーズを推察する視点を身につける。 【到達目標】 ・中間試験を通して介護過程の理解度を確認することができる。 ・表出していないニーズを捉える視点を持てる。			
	② 3 ・ 4	【授業単元】 事例①を読み取り、利用者理解に必要な情報を幅広く収集する。得られた情報をICFの構成要素に振り分け、生活全体を捉えるための基礎的な整理の仕方学ぶ。 【到達目標】 事例から得られた情報をICFの構成要素に整理・分類し、利用者の生活状況を多面的に把握できる。				⑩ 19 ・ 20	【授業単元】 専用シートを活用し、実習で実施した介護過程の詳細な分析および総合的な見直しを行う。① 【到達目標】 ・専用シートの各項目の目的や意義を理解することができる。 ・担当利用者を包括的に理解することができる。		
③ 5 ・ 6		【授業単元】 ・ジェノグラムとエコマップを用いて家族関係や社会的資源を可視化し、利用者の生活背景を多面的に捉える。 ・事例をもとに、利用者の生活機能・活動・参加の視点からストレス(できること・できそうなこと)を整理する。 【到達目標】 ・ジェノグラム・エコマップを用いて家族関係や支援ネットワークを可視化できる。 ・事例から利用者のストレスを抽出し、生活機能や環境との関連を踏まえて整理できる。					⑪ 21 ・ 22	【授業単元】 専用シートを活用し、実習で実施した介護過程の詳細な分析および総合的な見直しを行う。② 【到達目標】 専用シートを活用して、担当利用者の状況を全体的かつ詳細に把握することができる。	
	④ 7 ・ 8	【授業単元】 ・活動・参加の状況をICFの視点から検討し、生活全体の中で何が「問題」で何が「課題」になるのかを多面的に捉える。 ・事例を通して、本人が望む活動(したいこと)と、介護の専門職として必要と判断する活動(した方がよいこと)を整理する。 【到達目標】 ・利用者の活動・参加の状況をICFの視点で分析し、生活課題につながる要素を把握できる。 ・本人の希望と生活機能・環境要因を関連づけ、利用者の今後の生活に向けた活動の方向性を整理できる。				⑫ 23 ・ 24		【授業単元】 専用シートを活用し、実習で実施した介護過程の詳細な分析および総合的な見直しを行う。③ 【到達目標】 専用シートを活用して、担当利用者の状況を全体的かつ詳細に把握することができる。	
⑤ 9 ・ 10		【授業単元】 ・ストレスや活動・参加の状況を基に、実現可能で具体的な目標設定の方法を学び、介護過程の計画立案につながる視点を養う。 ・目標達成に向けた介護計画書の「具体的計画」を作成し、支援の根拠と方法を整理する。 【到達目標】 ・ストレスや活動・参加の情報を統合し、根拠に基づいた目標設定が行える。 ・長期目標・短期目標に沿って、事例の利用者に必要な支援内容を具体的に構成できる。					⑬ 25 ・ 26	【授業単元】 実習で担当した利用者の情報、介護計画書、支援内容を整理し、生活機能・活動・参加・背景因子を多面的に振り返る。 【到達目標】 実習で得た利用者情報を整理し、生活状況や支援内容を多面的に振り返ることができる。	
	⑥ 11 ・ 12	【授業単元】 ・介護計画の評価方法を整理し、目標達成度や支援内容の妥当性を多面的に検討する視点を学ぶ。 【到達目標】 ・介護計画の評価視点を理解し、目標達成度や支援内容の妥当性を整理できる。				⑭ 27 ・ 28		【授業単元】 ICFの構成要素を再確認し、実習で担当した利用者の情報をICFに沿って整理・分類する。 【到達目標】 担当利用者の情報をICFの構成要素に沿って整理・分類できる。	
⑦ 13 ・ 14		【授業単元】 事例②では実際の生活空間を見学し、利用者事例をもとに住環境を観察して生活上のリスクや課題の可能性を検討する。 【到達目標】 生活環境を観察し、利用者の状況と関連づけて課題の候補を挙げられるようになる。					⑮ 29 ・ 30	【授業単元】 ・グループ内で担当利用者のICF分類を比較し、生活機能や背景因子の違い・共通点を検討する。 ・期末試験の実施。 【到達目標】 担当利用者の特徴や生活課題を整理し、根拠に基づいて発表できる。	
	⑧ 15 ・ 16	【授業単元】 ・前回の観察内容を整理し、生活課題を根拠とともに明確化してグループで発表。学習の振り返りを行う。 ・中間試験の実施 【到達目標】 課題と根拠を整理して説明し、支援の方向性をまとめて発表できる。また学習内容を振り返り、理解を深める。				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。			
【履修に当たっての心構え・留意点】 介護過程の学習は思考を深める訓練であり、事例は実際の利用者を基にしています。個人情報の取り扱いに十分配慮し、感謝と緊張感をもって検討に臨んでください。また、介護はチームで行う支援であるため、相手の話を傾聴し、自分の考えを適切に伝える姿勢を大切にしてください。									

授 業 概 要

科目名	介護過程Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	森 伸彦(おだい介護サービス)・武田 瑞希		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
利用者の望む生活の実現に向けて生活課題を分析し、科学的根拠に基づいて多様なニーズに対応した介護過程を展開する能力を身につける。 根拠に基づいた介護を実践するために、チームケアの構成員として自らの考えや判断を適切に伝達するコミュニケーション能力を習得する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
介護福祉士および介護支援専門員としての実務経験と、サービスの品質管理に携わってきた専門性を基盤に、介護過程の理解と実践力を育成する授業を行う。利用者理解、アセスメント、計画立案、実施、評価の一連のプロセスを、事例検討と演習を通して体系的に学べる内容とする。授業の進度に応じて、扱う事例や演習内容を調整する場合がある。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
中央法規出版(株) 最新 介護福祉士養成講座9 介護過程 第2版					授業で学んだ介護過程の視点を日常にも広げ、人が安心して生活するための要素に関心を向ける習慣を育てる。日常の気づきを学習内容と結びつけ、介護の経験として蓄積する姿勢を身につける。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 ・期末試験の回答解説。 ・ケーススタディの発表に向けた準備① ケーススタディ用紙の説明と作成。				9	【授業単元】 ・中間試験の回答解説。 ・介護過程における「評価」の視点を学び、事例をもとに介護計画実施後の結果を分析し、課題の再整理と今後の支援方針を検討する。			
	【到達目標】 ・期末試験を通して介護過程の理解度を確認することができる。 ・ケーススタディの意義を理解することができる。					【到達目標】 ・中間試験を通して介護過程の理解度を確認することができる。 ・介護過程の評価項目を理解した上で事例の情報から介入の妥当性を判断し、次の支援につながる評価を説明できる。			
2	【授業単元】 ・介護過程の発表に向けた準備② ケーススタディ用紙作成の続き。発表用シナリオの準備。				10	【授業単元】 「チームケア」について、複数の介護スタッフが異なる課題認識を持つ事例を検討し、情報共有の不足や視点の違いを整理し、統一した支援方針を考える。			
	【到達目標】 ・発表内容を端的に整理し文章化することができる。					【到達目標】 チームケアにおける課題認識のズレを分析し、根拠に基づいて共通理解を形成し、協働的な支援方針を提案できる。			
3	【授業単元】 ・介護過程の発表に向けた準備③ プレゼン用パワーポイント、発表用シナリオの作成。作成時の注意点等を説明。				11	【授業単元】 多職種が関わる事例を通して、介護職の役割・責任・情報提供のあり方を整理し、連携の質を高める視点を学ぶ。			
	【到達目標】 ・聞き手に「見やすく」「分かりやすい」パワーポイント資料、発表用のシナリオ作成ができる。					【到達目標】 多職種連携における介護職の役割を理解し、事例から必要な情報共有や協働のポイントを説明できる。			
4	【授業単元】 ・介護過程の発表に向けた準備④ ケーススタディ用紙、パワーポイント、発表用シナリオの確認。 発表時のルール、順番を確認。				12	【授業単元】 利用者の「尊厳」が脅かされる場面を含む事例を検討し、尊厳保持の視点から適切な対応や環境づくりを考える。			
	【到達目標】 ・発表の準備を整える事ができる。 ・発表者と聞き手の心構えを理解することができる。					【到達目標】 尊厳を損なう要因を事例から見出し、利用者の尊厳を守るための支援や配慮を根拠をもって説明できる。			
5	【授業単元】 ・介護過程の発表① 発表後に質問、感想など。アンケート記入。				13	【授業単元】 事例を通して、同じ背景を持つ利用者でも異なるニーズがあることを理解し、個別化された介護計画の立案を検討する。			
	【到達目標】 ・思考しながら他者の発表を聞く事ができる。 ・多様な介護過程の方法論を学ぶことができる。					【到達目標】 利用者の個性を踏まえて課題を整理し、「その人らしさ」に基づく支援内容を説明できる。			
6	【授業単元】 ・介護過程の発表② 発表後に質問、感想など。アンケート記入。				14	【授業単元】 「自立支援」の視点から事例利用者の介護過程を整理し、支援の方向性を考える。			
	【到達目標】 ・思考しながら他者の発表を聞く事ができる。 ・多様な介護過程の方法論を学ぶことができる。					【到達目標】 利用者の自己決定を支えるポイントを理解し、自立支援の観点から適切な支援方法を提案できる。			
7	【授業単元】 ・介護過程の発表③ 発表後に質問、感想など。アンケートを記入。				15	【授業単元】 ・介護過程Ⅱの振り返り ・期末試験の実施。			
	【到達目標】 ・思考しながら他者の発表を聞く事ができる。 ・多様な介護過程の方法論を学ぶことができる。					【到達目標】 ・定期試験を通して介護過程の理解度を確認することができる。 ・利用者様一人ひとりの人生を見つめ、その方の人格、人権を尊重し、常に寄り添い、自立を支援することができるプロの介護福祉士になれる。			
8	【授業単元】 ・介護過程の発表④ 発表後に質問、感想など。アンケートを記入。 ・介護過程の発表者の優秀者を発表。 ・中間試験の実施。				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ・思考しながら他者の発表を聞く事ができる。 ・多様な介護過程の方法論を学ぶことができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
介護過程の学習は思考を深める訓練であり、事例は実際の利用者を基にしています。個人情報の取り扱いに十分配慮し、感謝と緊張感をもって検討に臨んでください。また、介護はチームで行う支援であるため、相手の話を傾聴し、自分の考えを適切に伝える姿勢を大切にしてください。									

授 業 概 要

科目名	介護総合演習Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	集中	担当 教員	神成圭司		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
利用者の生活とはどのようなものかを事前に理解し、行動目標を作成できるようになる。介護過程の展開との関係性を理解する。実習終了後は他学生とその感じ方を共有し、受容と共感の実践的学びである実習後の事後報告会で発表ができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
利用者の主たる生活の場である施設について、その役割や利用者像について学ぶ。介護過程の展開を踏まえた内容も含める。また実習目標を設定しその具体的行動目標を実現するための介護技術を学ぶ。実習終了後は他学生とその感じ方を共有し、受容と共感の実践的学びとする。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
実習と記録(JESC)					介護記録は文字を中心におこなう。よって書くことや読むこと、文字から想像できる力が必要となる。日頃から読む力や書く力、想像する力を養ってほしい。				
授業計画									
【実習前】 1. 施設実習における具体的実習目標の確認(1) 2. 施設実習における具体的実習目標の確認(2) 3. 施設実習における具体的実習目標の確認(3) 4. 実習目標の学生相互確認からの動機づけ 5. 実習に向かう姿勢と具体的行動目標実現のための知識と技術の応用(1) 6. 実習に向かう姿勢と具体的行動目標実現のための知識と技術の応用(2) 7. 介護過程実践のための知識と技術の応用(1) 8. 介護過程実践のための知識と技術の応用(2)									
【実習後】 1. 実習での学びの振り返り、レポート作成(1) 2. 実習での学びの振り返り、レポート作成(2) 3. 事例報告発表会(1) 4. 事例報告発表会(2) 5. 事例報告発表会(3) 6. 事例報告発表会(4) 7. 実習の総合的振り返りの会									
【履修に当たっての心構え・留意点】 ・実習で学んできたものを分析理解できるように書き残して、記録の学びにもつなげていけるよう心がけてほしいと考えている。					【成績評価の方法と基準】 (試験やレポートの評価基準など)試験またはレポートにて可(60点以上)を合格とする。				

授 業 概 要

科目名	介護実習Ⅱ（施設実習Ⅱ）	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	実習	単位数	3	単位	総時間数	160	時間
【授業を通じての到達目標】											
地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する学習とする。本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。											
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
施設利用者の生活の場を知り、利用者への理解を深め、利用者の思いを実現する学びとする。ICFの視点にもとづき、利用者の状態や状況に対応できる介護技術を実践する学びとする。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習と記録（JESC）						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
授業計画											
ア 施設の役割と地域における役割を確認する学び イ 施設と利用者・家族・地域との連携関係を学ぶ ウ 利用者の生活を支える多職種を知り、多職種協働の理解を深める エ 利用者の状態や状況に対応できる介護技術を実践する オ 利用者の思いを実現する具体的な方法を知る カ 介護過程を展開できる キ 生活の連続性について知る ク 介護福祉士の役割を知る ケ 学びを記録することができる コ 利用者を受容する姿勢と共感する姿勢ができる											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
介護福祉士倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。						実習指導者による評価、実習巡回教員による評価、自己評価を換算し、A～Eの6段階で評価する。					

授業概要

科目名	認知症の理解Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	村田小百合		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
認知症のある人への治療方法について、知ることができる。 認知症のある人が、安心できるケアやコミュニケーションとは何かを自分の言葉で表現することができる。 認知症ケアは、チームケアであることを知り、多職種連携や協働について考えることができる。 認知症のある人を支える家族が抱える課題を知り、その支援について理解できる。 認知症のある人が、安心して地域で生活するために必要な介護とは何かを理解できる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
介護老人保健施設・介護付有料老人ホームで19年の実務経験のある教員が、認知症のある人が安心して生活できる視点を重視しながら、介護者とともに地域で自立した生活を継続するための視点や課題解決の視点を伝える。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
・最新介護福祉士養成講座13「認知症の理解」第2版 中央法規 ・「見て覚える！介護福祉士国家試験ナビ 2026」いとう総研資格取得支援センター					①授業で学んだことは、当日中にもう一度教科書・配られたデータやプリントを読んでください。 ②関連する科目は、授業中に確認をするので、①と一緒に確認してください。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 認知症になるということを、自分のこととして考える				9	【授業単元】 環境づくりから考える心理的安全空間			
	【到達目標】 認知症になるとどのような生活になるのかをイメージできる。 自分が認知症になった時に、どのように支援して欲しいかを、自分の言葉で表現できる。					【到達目標】 認知症のある人にとって、安心できる環境づくりが、認知症ケアの一つになることを理解できる。 環境づくりのポイントを理解できる。			
2	【授業単元】 コンタクトケアを大切にしたコミュニケーション				10	【授業単元】 アセスメントツールの活用方法①(アセスメントツールの説明)			
	【到達目標】 認知症ケアにおいて、安心できるコミュニケーションは何かを理解できる。 認知症のある人とコミュニケーションをとるときに、気をつけるべき点を理解できる。					【到達目標】 認知症の人の言動の背景を理解するためには、様々なアセスメントツールがあることを理解できる。			
3	【授業単元】 パーソン・センタード・ケアって、何だろう				11	【授業単元】 アセスメントツールの活用方法②(ひもときシートを実際に作成する)			
	【到達目標】 パーソン・センタード・ケアとは、何を大切にしたいケアか理解できる。 実践に必要なステップを、説明することができる。					【到達目標】 グループワークを通して、認知症の人の言動の背景を理解するためのアセスメントツールの活用方法を理解できる。			
4	【授業単元】 認知症の人へのケア(食事、排泄、入浴、睡眠)				12	【授業単元】 地域で暮らす①(地域包括支援システムにおける認知症ケア)			
	【到達目標】 認知機能障害による生活への影響を理解できる。 認知症のある人のケアのポイントを理解できる。					【到達目標】 地域で暮らすためのサポート体制を理解できる。 認知症カフェ、認知症サポーター、RUN伴などの取り組みを知る。			
5	【授業単元】 相手を大切にするアプローチ(ユマニチュード・バリデーション)				13	【授業単元】 多職種連携と協働			
	【到達目標】 動画を視聴し、本人の視点からみた尊厳の保持の重要性を理解できる。 相手とよりよい関係を築くことが重要であることを理解できる。					【到達目標】 認知症ケアにおける多職種連携と協働の目的を理解できる。 認知症ケアに関わるチームについて理解できる。			
6	【授業単元】 BPSDへのケア				14	【授業単元】 家族への支援			
	【到達目標】 BPSDが生活に与える影響を理解できる。 BPSDに対するケアのポイントを理解できる。					【到達目標】 なぜ家族介護者への支援が大切なのかを理解できる。 家族への支援で活用できるサービスは、どのようなサービスがあるかを知る。			
7	【授業単元】 認知症の治療薬				15	【授業単元】 これまでの振り返り 定期試験			
	【到達目標】 認知症治療薬の作用、副作用、効果の限界を理解できる。 BPSDに用いられる薬の作用、副作用を理解できる。					【到達目標】 単元を通して学んだことの自分自身の理解度を知る。			
8	【授業単元】 1回目から7回目までの振り返り・中テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ①から⑦までの間に学んだことの自分自身の理解度を知る。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
「自分だったらどのように認知症ケアを実践していきたいか」をイメージしながら、受講してください。 分からないことがある時は、遠慮せず聞いてください。									

授 業 概 要

科目名	障害の理解	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	押山乃里子		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
障害のある人の心理や身体機能を理解し、地域や家族を含めた障害のある人への支援について理解する。 障害の特性を理解し、生活支援技術に応用することができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
医療現場・介護現場にて就業経験のある看護師が授業を行う。 現場での経験を生かし、介護福祉士として必要な知識を講義する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
中央法規出版株式会社 最新 介護福祉士養成講座14 障害の理解 第2版 他					復習にあたっては、社会の理解・介護の基本・生活支援技術・こころとからだのしくみとはたらきなどの関連科目と併せて行う。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1-2	【授業単元】 障害の概念 障害のとらえ方/ICF P2-8 障害者の定義 P8-12 肢体不自由(運動機能障害) P56-67				9	【授業単元】 内部障害(免疫機能障害) P135-142 ゲスト講師による語り			
	【到達目標】 ・肢体不自由の状態について理解できる ・肢体不自由の特性について理解できる ・肢体不自由のある人への支援について理解できる					【到達目標】 ・免疫のしくみについて理解できる。 ・免疫機能障害をもたらし状態について理解できる。 ・免疫障害に応じた支援について理解できる。			
	【授業単元】 内部障害(心臓機能障害) P96-104				10	【授業単元】 視覚障害 P68-75			
【到達目標】 ・心臓のしくみと働きについて理解できる。 ・心臓機能障害をもたらし状態について理解できる。 ・心臓機能障害に応じた支援について理解できる。				【到達目標】 ・視覚障害の状態について理解できる ・視覚障害の特性について理解できる ・視覚障害に応じた支援について理解できる					
3	【授業単元】 内部障害(呼吸機能障害) P104-113				11	【授業単元】 聴覚・言語障害 P76-81			
	【到達目標】 ・呼吸器系のしくみとはたらきについて理解できる ・呼吸器系障害の原因となる疾患について理解できる ・呼吸機能障害に応じた支援について理解できる。					【到達目標】 ・聴覚障害の種類について理解できる ・聴覚障害のある人への支援について理解できる			
4	【授業単元】 内部障害(小腸機能障害) P128-134				12	【授業単元】 聴覚・言語障害 P82-86			
	【到達目標】 ・小腸のしくみとはたらきについて理解できる。 ・小腸機能障害をもたらし状態について理解できる。 ・小腸機能障害に応じた支援について理解できる。					【到達目標】 ・言語障害の種類について理解できる ・言語障害のある人への支援について理解できる			
5	【授業単元】 内部障害(腎臓機能障害) P113-120				13	【授業単元】 重複障害 P87-95			
	【到達目標】 ・腎臓のしくみとはたらきについて理解できる。 ・腎臓機能障害をもたらし状態について理解できる。 ・腎臓機能障害に応じた支援について理解できる。					【到達目標】 ・重複障害の種類について理解できる。 ・重複障害に応じた支援について理解できる。			
6	【授業単元】 内部障害(膀胱直腸機能障害) P120-128				14	【授業単元】 障害の概念 P2-8			
	【到達目標】 ・膀胱・直腸のしくみとはたらきについて理解できる。 ・膀胱・直腸機能障害をもたらし状態について理解できる。 ・膀胱・直腸機能障害に応じた支援について理解できる。					【到達目標】 ・障害のとらえ方について理解できる			
7	【授業単元】 内部障害(肝臓機能障害) P142-148				15	【授業単元】 定期試験 前期学習内容のふりかえり			
	【到達目標】 ・肝臓のしくみとはたらきについて理解できる。 ・肝臓機能障害をもたらし状態について理解できる。 ・肝臓機能障害に応じた支援について理解できる。					【到達目標】 ・前期学習内容で不明な点、苦手な点を明らかにすることができる			
8	【授業単元】 中テスト				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 ・代表的な疾患の特徴、症状について理解できる				科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】					・授業態度、グループワークへの参加状況も評価対象となる				
障害のある人の心理や身体機能を理解し、地域や家族を含めた障害のある人への支援について理解する。 障害の特性を理解し、生活支援技術に応用することができる。									

授業概要

科目名	障害の理解	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	押山乃里子		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
障害のある人の心理や身体機能を理解し、地域や家族を含めた障害のある人への支援について理解する。 障害の特性を理解し、生活支援技術に応用することができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
医療現場・介護現場にて就業経験のある看護師が授業を行う。 現場での経験を生かし、介護福祉士として必要な知識を講義する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
中央法規出版株式会社 最新 介護福祉士養成講座14 障害の理解 第2版 他					復習にあたっては、社会の理解・介護の基本・生活支援技術・こころとからだのしくみとはたらきなどの関連科目と併せて行う。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 重症心身障害 P149-158			9	【授業単元】 障害福祉の基本理念 P13-25				
	【到達目標】 ・重症心身障害の特性について理解できる。 ・重症心身障害をもたらす状態について理解できる。 ・重症心身障害に応じた支援について理解できる。				【到達目標】 ・ノーマライゼーションについて理解できる ・インクルージョンについて理解できる ・障害者権利条約について理解できる				
2	【授業単元】 知的障害 P160-171			10	【授業単元】 障害者福祉に関する制度 P27-38				
	【到達目標】 ・知的障害の特性について理解できる。 ・障害の特性に応じた支援について理解できる。 ・ライフステージに応じた支援について理解できる。				【到達目標】 ・障害福祉に関する歴史について理解できる ・障害者総合支援法にもとづくサービスについて理解できる ・障害者にかかる法律について理解できる				
3	【授業単元】 精神障害 P172-183			11	【授業単元】 障害者福祉制度と介護保険制度 P39-44				
	【到達目標】 ・精神障害の種類と特性について理解できる。 ・障害に応じた支援について理解できる。 ・障害に応じた社会資源について理解できる。				【到達目標】 ・障害者福祉制度と介護保険制度の違いについて理解できる ・両制度の併用のしくみについて理解できる				
4	【授業単元】 高次脳機能障害 P184-195			12	【授業単元】 障害のある人の心理 P48 -55				
	【到達目標】 ・高次脳機能障害の具体的な症状、原因について理解できる。 ・高次脳機能障害による心身への影響について理解できる。				【到達目標】 ・人間に欲求の段階について理解できる ・適応機制について理解できる ・障害受容の段階に応じた支援について理解できる				
5	【授業単元】 高次脳機能障害 ゲスト講師による語り			13	【授業単元】 連携と協働 P222-247				
	【到達目標】 ・当事者と家族の思いを理解できる ・介護福祉士としての支援を考えることができる				【到達目標】 ・地域のサポート体制と社会資源について理解できる。 ・障害福祉サービスのしくみと相談支援専門員の役割を理解できる。 ・チームアプローチのあり方について理解できる。				
6	【授業単元】 発達障害 P196-207			14	【授業単元】 家族への支援 P250-275				
	【到達目標】 ・発達障害の特性について理解できる。 ・発達のある人の生活と支援について理解できる。 ・家族、教育、医療との連携について理解できる。				【到達目標】 ・障害の考え方、障害に応じた支援について考えを述べることができる。 ・家族への支援について考えを述べることができる。				
7	【授業単元】 難病 P208-217			15	【授業単元】 障害を理解することについて 定期テスト				
	【到達目標】 ・難病の定義について理解できる。 ・おもな難病の症状について理解できる。 ・難病の人に対する生活上の支援について理解できる。				【到達目標】 ・障害のある人への支援について、ふりかえることができる。 ・理解が不足している項目について、ふりかえることができる。				
8	【授業単元】 中テスト			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
	【到達目標】 ・各障害への支援について理解できる								
【履修に当たっての心構え・留意点】				・授業態度、グループワークへの参加状況も評価対象となる					
障害のある人の心理や身体機能を理解し、地域や家族を含めた障害のある人への支援について理解する。 障害の特性を理解し、生活支援技術に応用することができる。									

授 業 概 要

科目名	医療的ケア	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	内山 裕美		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施できるように必要な知識・技術を習得する									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
看護師として大学病院や介護施設での勤務・大学での教育経験のある教員が、医療現場の実際を交えながら、人間のこころとからだのしくみを理解する授業を行う									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新・介護福祉士養成講座15 医療的ケア 第2版 中央法規出版									
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 介護職の行う医療的ケアの意義				9	【授業単元】 高齢者および障害者・児の喀痰吸引概論 ①呼吸器系のしくみとはたらき ②いつもと違う呼吸状態			
	【到達目標】 ・介護職が行う医療的ケア(喀痰吸引と経管栄養)がイメージできる					【到達目標】 ・呼吸器系のしくみとはたらき、疾患を説明できる ・いつもと違う呼吸状態について説明できる			
2	【授業単元】 医行為				10	【授業単元】 高齢者および障害者・児の喀痰吸引概論 ③喀痰吸引			
	【到達目標】 ・法律における医行為の定義、倫理を説明できる					【到達目標】 ・痰の排出するしくみ、痰の貯留をしめす状態を説明できる ・喀痰吸引とは何かを説明できる ・喀痰吸引が必要な状態を説明できる			
3	【授業単元】 医療的ケアの背景 実施するための要件				11	【授業単元】 高齢者および障害者・児の喀痰吸引概論 ④人工呼吸器と吸引 ⑤子どもの吸引			
	【到達目標】 ・医療的ケアの制度を説明できる ・介護福祉士が医療的ケアを実施するための要件を説明できる					【到達目標】 ・人工呼吸器が必要な状態と人工呼吸器のしくみを説明できる ・子どもと成人の違い、留意点を理解できる			
4	【授業単元】 安全な療養環境				12	【授業単元】 高齢者および障害者・児の喀痰吸引概論 ⑥吸引が必要な利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意 ⑦呼吸器系の感染と予防			
	【到達目標】 ・医療的ケアにおけるリスクマネジメント、インシデントアクシデントレポートを説明できる					【到達目標】 ・経管栄養が必要な利用者や家族の気持ちを考えることができる ・呼吸器系の感染と予防法を説明できる			
5	【授業単元】 清潔保持と感染予防 ①感染予防 ②消毒と滅菌				13	【授業単元】 高齢者および障害者・児の喀痰吸引概論 ⑧喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認			
	【到達目標】 ・介護職の感染予防を考えることができる ・療養環境の清潔と消毒方法が説明できる ・医療的ケアにおける消毒と滅菌を説明できる					【到達目標】 ・喀痰吸引により生じる危険と事後の安全確認について説明できる			
6	【授業単元】 健康状態の把握①				14	【授業単元】 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説 ①喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔保持 ②吸引の技術と留意点			
	【到達目標】 ・健康状態を知る項目を説明できる					【到達目標】 ・喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみについて説明できる ・吸引の技術と留意点を説明できる			
7	【授業単元】 健康状態の把握②				15	【授業単元】 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論と実施手順の振り返り 定期試験			
	【到達目標】 ・健康状態を知る項目を実施できる ・急変状態を説明できる					【到達目標】 ・喀痰吸引に必要な知識を再確認し、再習得できる			
8	【授業単元】 第1～7回までの振り返り 中間試験				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ・医療的ケアの背景と実施に必要な知識を確認し、再習得できる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
医療的ケアは、利用者のからだに直接的な影響を与える技術です。安全な医療的ケアを実践するために、知識と技術が融合されるように学習しましょう。									

授 業 概 要

科目名	医療的ケア	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	内山 裕美		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施できるように必要な知識・技術を習得する									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
看護師として大学病院や介護施設での勤務・大学での教育経験のある教員が、医療現場の実際を交えながら、人間のこころとからだのしくみを理解する授業を行う									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新・介護福祉士養成講座15 医療的ケア 第2版 中央法規出版					演習日は、事前に実施内容を確認する				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説 ③喀痰吸引にともなうケア ④報告および記録 【到達目標】 ・痰を出しやすくするケア方法を説明できる ・報告する内容と記録の内容を説明できる				9	【授業単元】 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説 ③経管栄養に必要なケア ④報告および記録 演習前オリエンテーション 【到達目標】 ・経管栄養に必要なケア方法を説明できる ・報告する内容と記録の内容を説明できる			
2	【授業単元】 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 ①消化器系のしくみとはたらき ②消化・吸収とよくある消化器症状 【到達目標】 ・消化器系のしくみとはたらき、疾患を説明できる ・消化器症状を説明できる				10	【授業単元】 演習・経管栄養 ①胃ろう・腸ろう経管栄養 【到達目標】 ・胃ろう、腸ろう経管栄養の留意点を理解し、実施できる			
3	【授業単元】 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 ③経管栄養とは 【到達目標】 ・経管栄養が必要な状態を説明できる ・経管栄養のしくみと種類を説明できる				11	【授業単元】 演習・経管栄養 ②経鼻経管栄養 【到達目標】 ・経鼻経管栄養の留意点を理解し、実施できる			
4	【授業単元】 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 ④注入する内容に関する知識 【到達目標】 ・生命維持に必要な栄養と水分摂取の重要性を説明できる ・経管栄養で注入する栄養剤について説明できる				12	【授業単元】 演習・喀痰吸引 ①口腔・鼻腔内の喀痰吸引 【到達目標】 ・口腔・鼻腔内の喀痰吸引の留意点を理解し、実施できる			
5	【授業単元】 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 ⑤経管栄養実施上の留意点 ⑥子どもの経管栄養について ⑦経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意 【到達目標】 ・経管栄養実施上の留意点を説明できる ・子どもの経管栄養と成人の違いと留意点を理解できる ・経管栄養が必要な利用者や家族の気持ちを考えることができる				13	【授業単元】 演習・喀痰吸引 ②気管カニューレ内部の喀痰吸引 【到達目標】 ・減菌の操作が実施できる ・気管カニューレ内部吸引の留意点を理解し、実施できる			
6	【授業単元】 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 ⑧経管栄養に関する感染と予防 ⑨経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認 ⑩急変・事故発生時の対応と事前対策 【到達目標】 ・経管栄養に関係する感染と予防法を説明できる ・経管栄養により生じる危険と注入後の安全確認について説明できる ・急変・事故発生時の対応と事前対策について説明できる				14	【授業単元】 1年間のまとめ 【到達目標】 ・国家試験に向けて、問題を解きながら知識を再確認できる			
7	【授業単元】 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説 ①経管栄養で用いる器具・器材のしくみ、清潔保持 ②経管栄養の技術と留意点 【到達目標】 ・経管栄養で用いる器具・器材のしくみを説明できる ・経管栄養の技術と留意点を説明できる				15	【授業単元】 医療的ケア(喀痰吸引・経管栄養)の振り返り 定期試験 【到達目標】 ・医療的ケアに必要な知識を再確認し、再習得できる			
8	【授業単元】 高齢者および障害児・者の経管栄養概論と実施手順の振り返り 中間試験 【到達目標】 ・経管栄養に必要な知識を再確認し、再習得できる				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
医療的ケアは、利用者のからだに直接的な影響を与える技術です。安全な医療的ケアを実践するために、知識と技術が融合されるように学習しましょう。									

授 業 概 要

科目名	医療的ケア	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	内山 裕美		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	－ 単位	総時間数	20 時間
【授業を通じての到達目標】									
医療的ケアを安全・適切に実施できるように必要な知識・技術を習得する									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
看護師として大学病院や介護施設での勤務・大学での教育経験のある教員が、医療現場の実際を交えながら、人間のこころとからだのしくみを理解する授業を行う									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新・介護福祉士養成講座15 医療的ケア 第2版 中央法規出版									
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 医療的ケア演習				9	【授業単元】 医療的ケア演習			
	【到達目標】 喀痰吸引の技術を確認し、習得する					【到達目標】 経鼻経管栄養の実施、および試験			
2	【授業単元】 医療的ケア演習				10	【授業単元】 医療的ケア演習			
	【到達目標】 経管栄養の技術を確認し、習得する					【到達目標】 胃ろう経管栄養の実施、および試験			
3	【授業単元】 医療的ケア演習				11				
	【到達目標】 口腔・鼻腔内喀痰吸引の実施								
4	【授業単元】 医療的ケア演習				12				
	【到達目標】 気管カニューレ内部の喀痰吸引の実施								
5	【授業単元】 医療的ケア演習				13				
	【到達目標】 経鼻経管栄養の実施								
6	【授業単元】 医療的ケア演習				14				
	【到達目標】 胃ろう経管栄養の実施								
7	【授業単元】 医療的ケア演習				15				
	【到達目標】 口腔・鼻腔内喀痰吸引の実施、および試験								
8	【授業単元】 医療的ケア演習				【成績評価の方法と基準】 口腔・鼻腔内の喀痰吸引・気管カニューレ内部の喀痰吸引・経鼻経管栄養・胃ろう経管栄養の全ての項目を5回以上経験し、かつ5回目を試験とする。 すべての項目に合格すること。不合格者は別日に再試験を行う。				
	【到達目標】 気管カニューレ内部の喀痰吸引の実施、および試験								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
医療的ケアの演習は、すべての項目で合格できるように事前学習を行い、参加する									

授 業 概 要

科目名	プロフェッショナルマインド	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	神成 圭司 峯崎 茉莉			
学科 コース	介護福祉士科		学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】										
利用者の尊厳を第一に考え、自らの役割と責任を自覚し、根拠あるケアを追求し続ける専門職としての基本的姿勢を確率する。「自分に何ができるか」を自分で考え行動できる力を身につける。										
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)										
介護施設での就労経験のある教員が実際の施設の状況を踏まえ、利用者の尊厳を意識した社会人になるための授業を展開する										
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】					
履歴書作成資料(PPT)・就職マナー教材					個別指導・面談必要時実施					
コマ	授業計画				コマ	授業計画				
1	【授業単元】 オリエンテーション				9	【授業単元】 履歴書作成				
	【到達目標】 介護福祉士になるための1年間の目標、目的を設定し、共有する					【到達目標】 就職活動に向けての履歴書完成(Web上、紙ベース)、就職活動マナー指導(面接マナー)				
2	【授業単元】 実習への心構え、目標・目的の設定				10	【授業単元】 実習振り返り 国家試験申し込み準備				
	【到達目標】 実習配属先を確認し、長期実習での目標、目的を設定する。 定期申請等を実施。					【到達目標】 実習での体験談共有 国家試験申し込み(ネット上申込)準備、指導				
3	【授業単元】 就職授業				11	【授業単元】 国家試験申し込み 模擬試験について				
	【到達目標】 就職に向け、就職活動マナー、履歴書の作成					【到達目標】 Web申込み最終チェック				
4	【授業単元】 就職授業				12	【授業単元】 夏休みの過ごし方				
	【到達目標】 合同会社説明会に向けた準備					【到達目標】 国家試験、就職活動を踏まえ夏休みの過ごし方確認				
5	【授業単元】 就職授業				13	【授業単元】 就職授業				
	【到達目標】 合同説明会参加後の振り返り、就職活動準備					【到達目標】 就職活動状況の把握 就職活動、マナー、面接模擬練習の実施				
6	【授業単元】 実習前資料作成				14	【授業単元】 期末試験に向けて				
	【到達目標】 実習に向けての準備(個票作成、実習目標目的の確認・動機付け)					【到達目標】 期末試験の確認				
7	【授業単元】 実習前最終準備				15	【授業単元】 定期試験(期末試験)				
	【到達目標】 実習に向けての最終準備					【到達目標】 期末試験の前期振り返りおよび解答・解説				
8	【授業単元】 定期試験(中テスト)				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
	【到達目標】 定期試験の前半振り返りおよび解答・解説									
【履修に当たっての心構え・留意点】										
学生の卒業後の社会人としての心構え、モチベーション低下させないよう指導していく										

授 業 概 要

科目名	プロフェッショナルマインド	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	神成圭司 峯崎 茉莉		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
利用者の尊厳を第一に考え、自らの役割と責任を自覚し、根拠あるケアを追求し続ける専門職としての基本的姿勢を確率する。「自分に何ができるか」を自分で考え行動できる力を身につける。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
介護施設での就労経験のある教員が実際の施設の状況を踏まえ、利用者の尊厳を意識した社会人になるための授業を展開する									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
国家試験対策資料(国試ナビ等) 就職マナー資料					個別指導、面談必要時実施				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1～2	【授業単元】 後期オリエンテーション 実習振り返り				17～18	【授業単元】 中テスト			
	【到達目標】 実習での悩み事、起きたことを振り返る。言語化する。 利用者との適度な「距離感」を共有する					【到達目標】 前半の振り返り			
3～4	【授業単元】 多職種連携について				19～20	【授業単元】 リスクマネジメントについて			
	【到達目標】 多職種連携を改めて理解する					【到達目標】 スタンダードプリコーションを理解する			
5～6	【授業単元】 安全管理を理解する				21～22	【授業単元】 就職、卒業、国家試験に向けて意識再確認			
	【到達目標】 「気づき」を常に意識した介護を理解					【到達目標】 就職、卒業、国家試験の意味を再度理解し、共有する			
7～8	【授業単元】 根拠に基づいた介護を理解する				23～24	【授業単元】 卒業前授業			
	【到達目標】 実習、授業での経験を踏まえ根拠を理解する					【到達目標】 卒業を控え、学生の意識を再構築する			
9～10	【授業単元】 中テスト				25～26	【授業単元】 介護のプロとして			
	【到達目標】 前半までの振り返り					【到達目標】 介護福祉士としての役割、			
11～12	【授業単元】 チームマネジメントを理解する				27～28	【授業単元】 国家試験に向けて最終確認			
	【到達目標】 GWを通し、様々な事例を果とする					【到達目標】 国家試験にむけての心構え、準備、体調管理、会場等の確認と意識を高める			
13～14	【授業単元】 フォローアップの重要性、リーダーシップを理解する				29～30	【授業単元】 期末試験			
	【到達目標】 指示を出す人ではなく、皆を導くにはどうすればよいか、を理解する					【到達目標】 1年を通しての振り返り			
15～16	【授業単元】 コーチングとティーチング				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 コミュニケーション技術を再確認する								
【履修に当たっての心構え・留意点】									

授業概要

科目名	介護ICTⅡ	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	高橋 利明		
学科コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
2年間にわたって講義を展開する。介護業界の仕組みや国の目指す方向性を理解した上で、「生産性向上」や「業務改善」の視点を理解し、介護のICT化やロボットの活用においてどんなことができるのかその目的を理解する。 個人ワーク、グループワークを通じて、介護現場で「自律協働」ができる社会人となれるように必要な視点に気づくことができる。 将来的には現場で業務改善の中心として活躍できる人材となることを目指す。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
社会福祉士・介護福祉士として介護現場で経験を積み、専門学校で介護福祉科の学科長としての経験を有している。さらに、社会福祉法人の特別養護老人ホームにおいて、施設長として介護ロボット導入やICT化に取り組んだ経験をもち、現在は介護施設のDXコンサルタントとして活動している教員が講義を展開する。授業内容はスマート介護士資格試験内容をベースとしている。授業展開は、グループでの活動を主とする。授業単元において最適な特別講師を交え、対話とワークを中心に展開する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
スマート介護士 公式テキスト(四訂版)＊(ch)は、テキストのチャプターのこと					指定科目の学びの内容と本科目の内容を照らし合わせながら取り組むこと。「介護とは何か?」「何をを目指すのか」を常に念頭におきながら参加すること。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 導入計画の策定演習(Ch.4)				9	【授業単元】 インカム・ナースコールの活用体験(Ch.2)			
	【到達目標】 スケジュールや体制構築など導入計画書を実際に作成する					【到達目標】 (体験)リアルタイムな情報共有の感覚を掴む			
2	【授業単元】 導入の実践理論(マネジメント)(Ch.4)				10	【授業単元】 介護テクノロジーの体験			
	【到達目標】 導入時のチームビルディングと進捗管理の手法を学ぶ					【到達目標】 介護ロボット体験(ケアコラボ 予定)			
3	【授業単元】 HitomeQ活用①				11	#REF!			
	【到達目標】 見守りロボットの役割、種類、操作方法を理解し、利用者の安全確保とQOL向上に貢献する方法を検討する。					#REF!			
4	【授業単元】 HitomeQ活用①				12	【授業単元】 セキュリティ全般と法的配慮(Ch.2)			
	【到達目標】 見守りシステムを導入する際の注意点、プライバシー保護、倫理的な課題について議論する。					【到達目標】 ハード・データのセキュリティと電子データの安全性を学ぶ			
5	【授業単元】 課題設定と人員配置の最適化(Ch.4)				13	【授業単元】 評価の考え方とフィードバック(Ch.4)			
	【到達目標】 課題項目を検討し、人員配置の最適化をシミュレーションする					【到達目標】 評価結果を次の改善にどう繋げるかの理論を理解する			
6	【授業単元】 課題解決の方針決定(Ch.4)				14	【授業単元】 前期の振り返り			
	【到達目標】 可視化した課題に対しテクノロジーを用いた解決策を立案する					【到達目標】 介護ロボット導入時のポイントについて理解する			
7	【授業単元】 介護テクノロジーの選定基準(Ch.4)				15	【授業単元】 【定期試験】			
	【到達目標】 調査方法や基準を学び、自施設に最適な機器を選ぶ力を養う					【到達目標】 導入計画・評価の立案能力を確認する			
8	【授業単元】 【中間試験】				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 導入・評価プロセスの理解度を確認する								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
グループワークや周囲の意見を聞き、または発言し、全員が理解を深めるということを授業の基本スタイルとする。									

授業概要

科目名	介護ICTⅡ	必修選択の別	必修	開講区分	後期	担当教員	高橋 利明		
学科コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
2年間にわたって講義を展開する。介護業界の仕組みや国の目指す方向性を理解した上で、「生産性向上」や「業務改善」の視点を理解し、介護のICT化やロボットの活用においてどんなことができるのかその目的を理解する。 個人ワーク、グループワークを通じて、介護現場で「自律協働」ができる社会人となれるように必要な視点に気づくことができる。 将来的には現場で業務改善の中心として活躍できる人材となることを目指す。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
社会福祉士・介護福祉士として介護現場で経験を積み、専門学校で介護福祉科の学科長としての経験を有している。さらに、社会福祉法人の特別養護老人ホームにおいて、施設長として介護ロボット導入やICT化に取り組んだ経験をもとに、現在は介護施設のDXコンサルタントとして活動している教員が講義を展開する。授業内容はスマート介護士資格試験内容をベースとしている。授業展開は、グループでの活動を主とする。授業単元において最適な特別講師を交え、対話とワークを中心に展開する。									
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】					
スマート介護士 公式テキスト(四訂版)＊(ch)は、テキストのチャプターのこと				指定科目の学びの内容と本科目の内容を照らし合わせながら取り組むこと。「介護とは何か?」「何をを目指すのか」を常に念頭におきながら参加すること。					
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 良い介護とは何か?	9			【授業単元】 生産性向上ガイドラインの理解	10			
	【到達目標】 今後の介護業界で求められる介護、またはそれを支える人材とは何かを考える				【到達目標】 国が推奨する改善プロセスを学ぶ				
2	【授業単元】 デジタル中核人材の役割(Ch.1)	10			【授業単元】 事例研究	11			
	【到達目標】 DXを推進するリーダー(Professional)としての自覚を持つ				【到達目標】 業務改善する事例から学ぶ				
3	【授業単元】 デジタル介護過程①	11			【授業単元】 事例研究	12			
	【到達目標】 データを活用した介護について学ぶ				【到達目標】 業務改善する事例から学ぶ				
4	【授業単元】 デジタル介護過程②	12			【授業単元】 事例研究	13			
	【到達目標】 データを活用した介護について学ぶ				【到達目標】 業務改善する事例から学ぶ				
5	【授業単元】 介護アウトカムの評価体験(Ch.5)	13			【授業単元】 事例研究	14			
	【到達目標】 アウトカム(結果)をどのように評価するか演習する				【到達目標】 業務改善する事例から学ぶ				
6	【授業単元】 アウトカム改善の実践理論(Ch.5)	14			【授業単元】 2年間の振り返り	15			
	【到達目標】 評価結果に基づき具体的なケア内容を変更する手法を学ぶ				【到達目標】 介護テクノロジーがなぜ必要か。何をを目指すのか。言語化できる。				
7	【授業単元】 【中間試験】	15			【授業単元】 【定期試験】	20			
	【到達目標】 リーダーシップとデータ活用の応用を確認する				【到達目標】 2年間の総括(Expertレベル合格を目指す)				
8	【授業単元】 生産性向上ガイドラインの理解	20			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 国が推奨する改善プロセスを学ぶ								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
グループワークや周囲の意見を聞き、または発言し、全員が理解を深めるということを授業の基本スタイルとする。									

授 業 概 要

科目名	国家試験対策	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	野々垣和江・渡邊義昭・馬場千草		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	4 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
国家試験に備え、これまでの復習を行い、介護福祉士に求められる知識を総合的に学ぶ。									
【学習内容】									
①介護福祉士国家試験受験を経験し、東京福祉専門学校卒業後は小規模多機能型居宅介護で実務に従事している介護福祉士②長年に渡り専門学校や大学で国家試験対策を行ってきた教員③介護福祉士として障害者支援施設・訪問介護事業所・介護老人福祉施設での勤務経験があり、国家試験サポートの経験もある教員達による、介護福祉士としての基礎的な知識向上と応用できる知識を得るための授業を行い、国家試験の合格力を高めていく内容。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
◆介護福祉士 国試ナビ【2025年度版】(中央法規)					使用教材の予習・復習				
	授業計画			コマ	授業計画				
1・2	【授業単元】 オリエンテーション 知識の再確認①			17・ 18	【授業単元】 知識の再確認⑨				
	【到達目標】 ・この授業のルールについて理解することができる。 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				
3・4	【授業単元】 知識の再確認②			19・ 20	【授業単元】 知識の再確認⑩				
	【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				
5・6	【授業単元】 知識の再確認③			21・ 22	【授業単元】 知識の再確認⑪				
	【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				
7・8	【授業単元】 知識の再確認④			23・ 24	【授業単元】 知識の再確認⑫				
	【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				
9・10	【授業単元】 知識の再確認⑤			25・ 26	【授業単元】 知識の再確認⑬				
	【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				
11・ 12	【授業単元】 知識の再確認⑥			27・ 28	【授業単元】 知識の再確認⑭				
	【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				
13・ 14	【授業単元】 知識の再確認⑦ 前期中間試験			29・ 30	【授業単元】 知識の再確認⑮ 前期期末試験				
	【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。・知識を広げることができる。 ・前半の学びにおける成果を確認することができる。 ・学びのスタイルを振り返り、次の目標が立案できる。				【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。 ・前期の学びにおける到達度を確認することができる。				
15・ 16	【授業単元】 知識の再確認⑧			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(7回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
	【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
グループワークも取り入れて学習をします。自分視点だけでなく、他者視点も取り込みながら知識を深めていきましょう。主体的・積極的に取り組むことが大切です。									

授 業 概 要

科目名	国家試験対策	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	野々垣和江・渡邊義昭・馬場千草・ 神成圭司・峯崎茉莉		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	12 単位	総時間数	180 時間
【授業を通じての到達目標】									
国家試験に備え、これまでの復習を行い、介護福祉士に求められる知識を総合的に学ぶ。									
【学習内容】									
①介護福祉士国家試験受験を経験し、東京福祉専門学校卒業後は小規模多機能型居宅介護で実務に従事している介護福祉士②長年に渡り専門学校や大学で国家試験対策を行ってきた教員③介護福祉士として障害者支援施設・訪問介護事業所・介護老人福祉施設での勤務経験があり長年多岐に渡り教育にも携わってきた教員④⑤⑥国家試験サポートの経験もある教員達による、介護福祉士としての基礎的な知識向上と応用できる知識を得るための授業を行い、国家試験の合格力を高めていく内容。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
◆介護福祉士 国試ナビ【2025年度版】(中央法規)					使用教材の予習・復習				
	授業計画			コマ	授業計画				
1～5	【授業単元】 オリエンテーション 知識の再確認①			41～ 45	【授業単元】 知識の再確認⑨				
	【到達目標】 ・この授業のルールについて理解することができる。 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				
6～ 10	【授業単元】 知識の再確認②			46～ 50	【授業単元】 知識の再確認⑩				
	【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				
11～ 15	【授業単元】 知識の再確認③			51～ 55	【授業単元】 知識の再確認⑪				
	【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				
16～ 20	【授業単元】 知識の再確認④			56～ 60	【授業単元】 知識の再確認⑫				
	【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				
21～ 25	【授業単元】 知識の再確認⑤			61～ 65	【授業単元】 知識の再確認⑬				
	【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				
26～ 30	【授業単元】 知識の再確認⑥			70～ 75	【授業単元】 知識の再確認⑭				
	【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				
31～ 35	【授業単元】 知識の再確認⑦			76～ 80 81～ 90	【授業単元】 知識の再確認⑮ 後期期末試験 国家試験週間・自己採点				
	【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。 ・国家試験に自信をもって受験する準備を整えることができる ・自己採点をし、合格をつかみ取ることができる。				
36～ 40	【授業単元】 知識の再確認⑧ 後期中間試験			【成績評価の方法と基準】					
	【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。・知識を広げることができる。 ・前半の学びにおける成果を確認することができる。 ・学びのスタイルを振り返り、次の目標が立案できる。			科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
【履修に当たっての心構え・留意点】									
グループワークも取り入れて学習をします。自分視点だけでなく、他者視点も取り込みながら知識を深めていきましょう。主体的・積極的に取り組むことが大切です。									